

平成26年度版

郡山市の環境

(平成25年度郡山市第二次環境基本計画年次報告書)

郡山市

まちのシンボル

●花・木・鳥



★市の花(ハナカツミ)

芭蕉の「奥の細道」の昔から伝統的な花として親しまれてきた清楚な趣きをそなえた心にうるおいのあるまちづくりにふさわしい花です。



★市の木(ヤマザクラ)

樹齢が長く、雄々しく、強い樹木で緑化促進木として緑あふれるまちづくりにふさわしい木です。



★市の鳥(カッコウ)

鳴き声そのまま鳥名になったカッコウ。野鳥の生息地に多く渡来し、自然保護の象徴ともいえる、緑のまちづくりにふさわしい鳥です。

●市章



郡山市の市章は、「山」の字の小篆(しょうてん)「𠄎」を図案化したものです。藩政時代から郡山代官支配下の「郡山」の標識として、長い間使用されてきたものです。

●シンボルマーク



シンボルマークは郡山の「郡」の文字を力強くデザインしたものです。中心の赤い円は輝く太陽を、楕円は郡山市の豊かな緑が映る猪苗代湖を、流れるような青いラインは安積疏水、緑のラインはそれによって育まれる自然を表しています。

また、シンボルマーク全体は、未来人の姿を表しており、人とまちが調和した理想的な都市のイメージを描いています。

はじめに

「環境の世紀」といわれる 21 世紀において、私たちは、目先の利益を追うだけでなく、将来の地球のために何をすべきかを考え、取り組んでいく責任があります。特に、本市は、猪苗代湖に代表される清らかな水と山々に囲まれ広大な森林を有し、豊かな水と緑に恵まれており、これらがかげがえのない財産として次の世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた責務であると考えております。

このことから、本市では「郡山市環境基本条例」に基づき、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、「郡山市環境基本計画」を策定し、各種施策を積極的に推進してまいりました。さらに、本市における環境施策を一層推進し、今後、ますます複雑・多様化する環境問題に適切に対応していくため、平成 22 年 3 月に「郡山市第二次環境基本計画」を策定したところであります。

このような状況の中、様々な環境問題に適切に対応していくためには、市民・事業者・行政などあらゆる主体が、自主的かつ積極的に、またそれぞれが協働して取り組んでいくことが重要であり、今後とも、環境関連施策、環境保全活動の更なる推進に努めてまいりたいと考えております。

本書は、平成 25 年度における本市の環境の現状と取り組みをまとめたものであります。

市民・事業者の皆様には、本書を通じて、環境に対する関心を高め、理解を深めていただくとともに、日常生活・事業活動において環境保全のための具体的な行動を展開していただくきっかけとなれば幸いです。

目 次

はじめに

郡山市の概要

(1) 位置・面積・地勢	1
(2) 気候・気象	2
(3) 人口・世帯数	2
(4) 土地利用	2
(5) 産業構造	3
(6) 環境行政の動向	4

郡山市第二次環境基本計画の概要

(1) 郡山市第二次環境基本計画とは	7
(2) 計画の期間	7
(3) 計画の担い手と役割	8
(4) 計画の構成	9
(5) 計画の取り組みの内容と対応する環境指標	11
(6) 計画の進行管理体制図	13

環境指標・目標の実施達成状況	14
----------------	----

郡山市環境基本計画に基づく施策の実施状況

1. 「地球規模で考え、身近なところから実践する」 ～地球環境の保全～

(1) 地球温暖化対策	17
(2) 地球規模の環境問題への取り組み	26

2. 「自然と共に生きる」 ～豊かな自然環境の保全と創造～

(1) 緑豊かな自然の保全	29
(2) 生物多様性の保全	33
(3) 環境保全型農業の推進	35

3. 「きれいな水を守る」 ～水環境の保全と創造～

(1) 水質の保全と浄化	38
(2) 猪苗代湖の保全	44
(3) 水資源の確保と水の有効利用	47
(4) 身近な水辺の保全と創造	49

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」 ～快適な生活環境の確保と創造～	
（1）廃棄物対策	51
（2）公害と新たな生活環境問題への対応	60
（3）有害化学物質対策	68
（4）快適な生活空間の確保と創造	71

5. 「学び、考え、行動する」 ～環境教育・学習の推進～	
（1）環境教育・学習の場や機会の充実	80
（2）人材の育成と連携の促進	91
（3）環境情報の共有化	96

特集 郡山市の放射線対策

（1）郡山市の除染に関する取組み	101
（2）郡山市の放射線量モニタリングと食の安全に関する取組み	102
（3）郡山市の放射線からの健康管理に関する取組み	102
（4）郡山市の放射線を正しく理解するための取組み	103

郡山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の概要

（1）郡山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）とは	105
（2）計画期間と目標	105
（3）計画の対象とする温室効果ガス	105
（4）計画の対象範囲	105

郡山市の温室効果ガス排出量（平成23年度）

郡山市の温室効果ガス排出状況	107
----------------	-----

平成26年度版郡山市の環境に対する意見	110
---------------------	-----

資料	111
----	-----

用語の解説	116
-------	-----

アンケート	
-------	--

郡山市の概要

(1)位置・面積・地勢

本市は、福島県の中央に位置し、昭和 48（1973）年の東北自動車道、昭和 57（1982）年の東北新幹線の開通、平成 5（1993）年の福島空港の開港、そして平成 9（1997）年には、磐越自動車道が全線開通するなど、交通の要衝となっています。

また、標高 245m前後の安積平野の平坦地を中心として、北には奥羽山脈の秀峰・安達太良山を望み、東は阿武隈山系につつまれ、全国第 4 位の面積を誇る別名「天鏡湖」とも呼ばれる美しい猪苗代湖や県の中央部を南から北へ貫く阿武隈川の豊かな潤いに満たされた、水と緑が豊かな美しい景観を見ることができます。



郡山市の位置・面積

地域	東経	140° 02' 10" ~ 140° 33' 52"
	北緯	37° 15' 58" ~ 37° 37' 34"
	東西	46.78 km
	南北	39.95 km
面積	757.06 km ²	
標高	海拔 245m(市役所)	

(2) 気候・気象

本市は、太平洋岸から約 95km、日本海岸から約 200km の内陸部にあり、東に阿武隈高地、西に奥羽山脈があり、その中央に広がる平野部に市街地を形成しています。

年平均気温は 12℃前後で東北地方の中では比較的温暖な地域に含まれます。また、年間降水量は 1,000mm～1,500mm と全国平均より少なくなっています。

郡山市の気象概況

	気温(℃)			平均風速 (m/s)	年間日照時間 (hr)	年降水量 (mm)
	平均	最高	最低			
平成 20 年	12.3	33.3	-6.4	3.2	1,730.0	1,090.5
平成 21 年	12.4	33.2	-6.6	3.2	1,701.3	1,015.5
平成 22 年	12.6	34.9	-8.2	3.0	1,724.6	1,455.0
平成 23 年	12.0	35.5	-7.5	3.2	1,824.3	1,033.0
平成 24 年	11.8	34.7	-12.5	3.2	1,837.9	1,078.0
平成 25 年	12.1	34.4	-10.9	3.3	1,890.8	1,231.5

(3) 人口・世帯数

郡山市における人口及び世帯数の推移

※平成 25 年 10 月 1 日現在

	人 口 (人)			世帯数	1 世帯当たり 人口(人)	備考
	総 数	男	女			
平成 7 年	326,833	162,007	164,826	110,964	2.9	国勢調査
平成 12 年	334,824	165,988	168,836	120,229	2.8	国勢調査
平成 17 年	338,834	167,071	171,763	126,382	2.7	国勢調査
平成 22 年	338,712	166,336	172,376	131,740	2.6	国勢調査
平成 25 年	328,236	161,866	166,370	133,307	2.5	人口推計

(4) 土地利用

本市の土地利用の状況は、山林・原野等が面積の約 5 割を占めていますが、都市化の進展とともに年々減少傾向にあり、逆に宅地が増加しています。

郡山市の土地利用状況

※平成 25 年 1 月 1 日現在

	総面積	地 目 別 土 地 面 積 (単位:km ²)						その他
		宅地	田	畑	山林	原野	雑種地	
平成 25 年	757.06	57.37	106.10	53.28	316.47	47.63	13.64	162.62
構成比 (%)	100	7.6	14.0	7.0	41.8	6.3	1.8	21.5

(5) 産業構造

産業別就業者数（人） 資料：国勢調査

区分	平成 22 年		平成 17 年		増減数	増減率 (%)
	人口	構成比	人口	構成比		
総 数	144,621	100.0	159,643	100.0	-15,022	-9.4
第 1 次産業	5,199	3.6	7,505	4.7	-2,306	-30.7
農業	5,079	3.5	7,403	4.6	-2,324	-31.4
林業	96	0.1	76	0.0	20	26.3
漁業	24	0.0	26	0.0	-2	-7.7
第 2 次産業	34,375	23.8	38,793	24.3	-4,418	-11.4
鉱業	22	0.0	15	0.0	7	46.7
建設業	12,155	8.4	14,944	9.4	-2,789	-18.7
製造業	22,198	15.4	23,834	14.9	-1,636	-6.9
第 3 次産業	99,647	68.9	109,942	68.9	-10,295	-9.4
電気・ガス・熱供給・水道業	611	0.4	535	0.3	76	14.2
情報通信業	1,889	1.3	2,435	1.5	-546	-22.4
運輸業	9,332	6.5	8,625	5.4	707	8.2
卸売・小売業	27,871	19.3	33,544	21.0	-5,673	-16.9
金融・保険業	3,873	2.7	4,158	2.6	-285	-6.9
不動産業	2,492	1.7	1,817	1.1	675	37.1
学術研究・専門技術サービス	4,053	2.8	-	-	-	-
飲食店, 宿泊業	8,467	5.9	8,019	5.0	448	-5.6
生活関連サービス業・娯楽業	5,528	3.8	-	-	-	-
医療, 福祉	14,732	10.2	13,127	8.2	1,605	12.2
教育, 学習支援業	7,178	5.0	7,765	4.9	-587	-7.6
複合サービス事業	799	0.6	1,277	0.8	-478	-37.4
サービス業(他に分類されないもの)	8,106	5.6	23,659	14.8	-15,553	-65.7
公務(他に分類されないもの)	4,716	3.3	4,981	3.1	-265	-5.3
分類不能の産業	5,400	3.7	3,403	2.1	1,997	58.7

(注) 産業分類が改正されたため、比較できない項目がある。

四捨五入の関係で合計と内訳が合わないところがある。

(6) 環境行政の動向

年	郡山市	国・県・その他
明治 16 年		足尾銅山鉱毒事件(公害として初めて被害が発生)
昭和 21 年	ごみ収集開始	
30 年		イタイイタイ病発生
31 年		水俣病発生
32 年		『自然公園法』公布
33 年		『公共用水域の水質保全に関する法律』公布(廃) 『工場排水等の規制に関する法律』公布(廃)
36 年	し尿処理施設(第一衛生処理場)完成	四日市ぜんそく患者多発
37 年		『ばい煙の排出の規制等に関する法律』公布(廃)
39 年		第二水俣病(阿賀野川)発生
41 年	富久山ごみ焼却場完成 し尿処理施設(第二衛生処理場)完成	
42 年		『公害対策基本法』公布(廃)
43 年		『大気汚染防止法』公布 『騒音規制法』公布
45 年		『水質汚濁防止法』公布 『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』公布
46 年	「郡山市公害防止条例」公布 郡山市公害対策審議会設置 (旧)富久山清掃工場完成	環境庁発足 『悪臭防止法』公布 『自然環境保全法』公布 「福島県産業公害等防止条例」公布(廃)
47 年		「国連人間環境会議」開催(ストックホルム)
48 年		『公害健康被害の補償等に関する法律』公布 『化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律』公布
51 年	厚生部に公害対策センター設置	『振動規制法』公布
52 年	市民部に公害対策センター移管	
59 年	河内清掃センター完成	『湖沼水質保全特別措置法』公布
63 年		オゾン層保護のためのウィーン条約締結 『特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律』公布
平成元年	保健衛生部に公害対策センター移管	
2 年	富久山衛生センター完成	『スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律』公布
3 年		『再生資源の利用の促進に関する法律』公布(後に「資源の有効な利用の促進に関する法律」に改称)
4 年	無着色半透明ごみ袋による回収開始 郡山市廃棄物減量等推進審議会設置	「環境と開発に関する国連会議(地球サミット)」開催(リオ・デ・ジャネイロ) ・気候変動枠組条約、生物多様性保護条約、アジェンダ 21 を採択 『自動車から排出される窒素酸化物の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車

郡山市の概要

年	郡山市	国・県・その他
		NOX法』公布 『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』公布
5年		『環境基本法』公布
6年	環境衛生部に環境保全課を設置 公害対策センターを環境保全課内に移管	『環境基本計画(国)』策定
7年	「郡山市廃棄物の適正処理、再利用及び環境美化に関する条例」公布 郡山市環境審議会設置	『容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)』公布 「アジェンダ 21 ふくしま」策定
8年	新(現)富久山清掃センター完成 資源物の分別収集開始	「福島県環境基本条例」公布 「福島県生活環境の保全等に関する条例」公布
9年	中核市へ移行 産業廃棄物担当設置	『環境影響評価法』公布 「気候変動枠組条約第3回締約国会議」開催(京都) 京都議定書を採択 「福島県環境基本計画」公布
10年	「環境にやさしい郡山市率先行動計画」策定 「郡山市環境基本条例」公布 「郡山市ポイ捨て及び犬のふん放置防止に関する条例」公布	『特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)』公布 『地球温暖化対策の推進に関する法律』公布 「福島県環境影響評価条例」公布
11年	「郡山市環境基本計画」策定	『特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)』公布 『ダイオキシン類対策特別措置法』公布 『家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律』公布 「福島県地球温暖化防止対策地域推進計画」策定
12年	富久山清掃センターにリサイクルプラザ設置	『循環型社会形成推進基本法』公布 『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』改正 『国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)』公布 『資源の有効な利用の促進に関する法律』改正 『建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)』公布 『食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)』公布 「環境基本計画(国;第二次)」策定
13年	環境衛生部に廃棄物対策課を設置 「第二次環境にやさしい郡山市率先行動計画」策定	環境省発足 『自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車NOX・PM法)』公布 『ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法(PCB特別措置法)』公布 『特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律(フロン回収破壊法)』公布
14年	「郡山市ごみ処理基本計画」策定 「第二次環境にやさしい郡山市率先行動計画」改訂	『土壌汚染対策法』公布 『鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律』公布 『自然再生推進法』公布

年	郡山市	国・県・その他
		『使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)』公布 「第2次福島県環境基本計画(うつくしま環境プラン21)策定 「福島県猪苗代湖及び裏磐梯湖沼群の水環境の保全に関する条例」公布
15年		『環境保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律』公布(後に「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」に改称) 「循環型社会形成推進基本計画」策定 「福島県産業廃棄物等の処理の適正化に関する条例」公布
16年	「郡山市環境基本計画」改定	『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律』公布 『環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律』公布
17年		京都議定書発効
18年	「第三次環境にやさしい郡山市率先行動計画」策定	『石綿による健康被害の救済に関する法律(アスベスト新法)』制定 「環境基本計画(国:第三次)」策定 「福島県地球温暖化対策推進計画」策定
19年		「第三次生物多様性国家戦略」策定 『国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律』公布 「第2次福島県環境基本計画」改訂
20年	組織改編により、環境衛生部環境保全課を生活環境部生活環境課へ、公害対策センターを環境保全センターへ、清掃センターをクリーンセンターへ改称	『エコツーリズム推進法』公布 『生物多様性基本法』公布 『農林漁業有機物資源のバイオ燃料の原材料としての利用の促進に関する法律』公布 「第二次循環型社会形成推進基本計画」策定
21年		『海岸漂着物処理法』公布
22年	「郡山市第二次環境基本計画」策定 「第四次環境にやさしい郡山市率先行動計画」策定	「第3次福島県環境基本計画」策定
23年	「郡山市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」策定	東日本大震災発生 東京電力福島第一原子力発電所事故発生 『環境教育等による環境保全の取組に関する法律』公布 「福島県地球温暖化対策推進計画」策定 「福島県循環型社会推進計画」策定
24年		「環境基本計画(国:第四次)」策定
25年		「福島県環境教育等行動計画」策定
26年	郡山市エネルギービジョン策定	

郡山市第二次環境基本計画の概要

(1) 郡山市第二次環境基本計画とは

本計画は、「環境基本法」の基本理念を踏まえ、「郡山市環境基本条例」に基づく、総合的かつ長期的な目標及び施策の方向を定める本市の環境づくりの最も基本となる計画です。この計画で示している環境づくりの基本的な考え方や方向性に沿って、今後、実施計画を策定するなど、具体的、個別的な取り組みを進めていきます。

さらに、市が実施する環境施策のみならず、市民・事業者の方々に期待する行動や取り組みについても記述しており、環境に関する理解を深めていただくとともに、互いに協力し合って、より良い郡山市の環境を築いていくためのものでもあります。

なお、本計画は「ローカルアジェンダ」※（地域における市民・事業者・行政の具体的な行動計画）の性格を併せ持つものです。

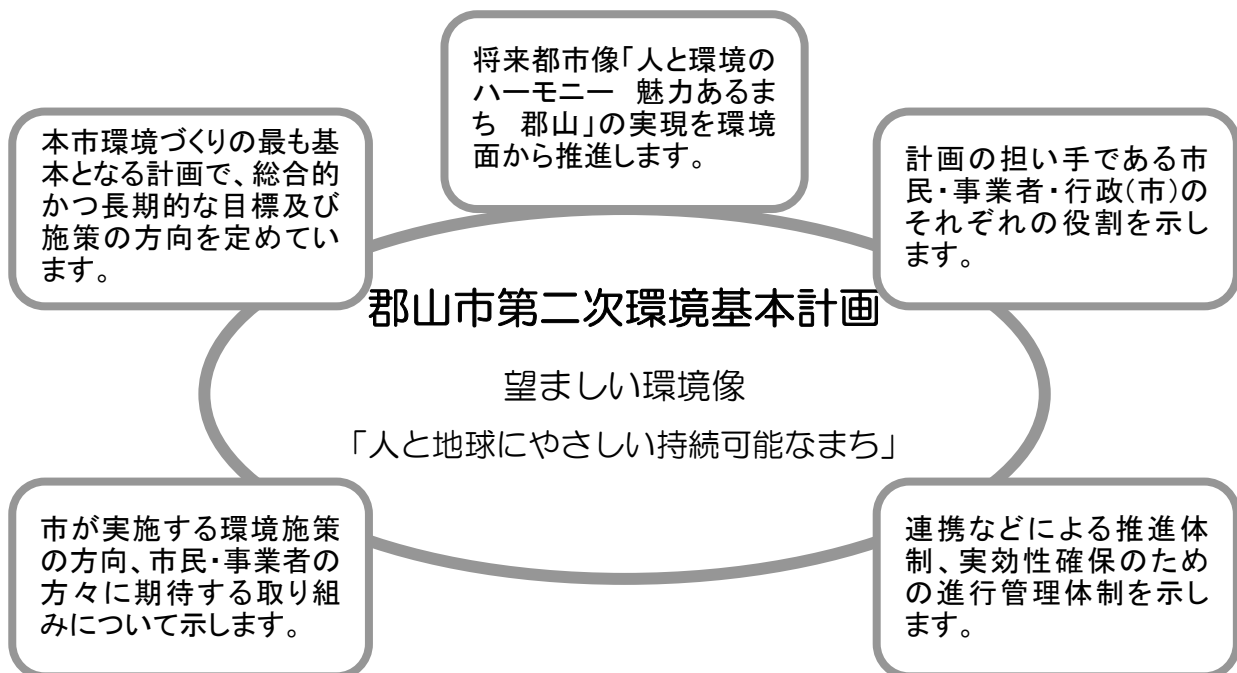
※ローカルアジェンダ：1992年にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」で持続可能な開発の実現に向けた具体的な行動計画である「アジェンダ 21」が採択されました。この地方版の行動計画をローカルアジェンダといいます。

(2) 計画の期間

郡山市第二次環境基本計画は、平成 22 年度を初年度とし、「郡山市第五次総合計画」との整合を図り、平成 29 年度を目標としています。この計画で示している環境づくりの基本的な考え方や方向性に沿って、今後、実施計画を策定するなど、具体的、個別的な取り組みを進めていきます。

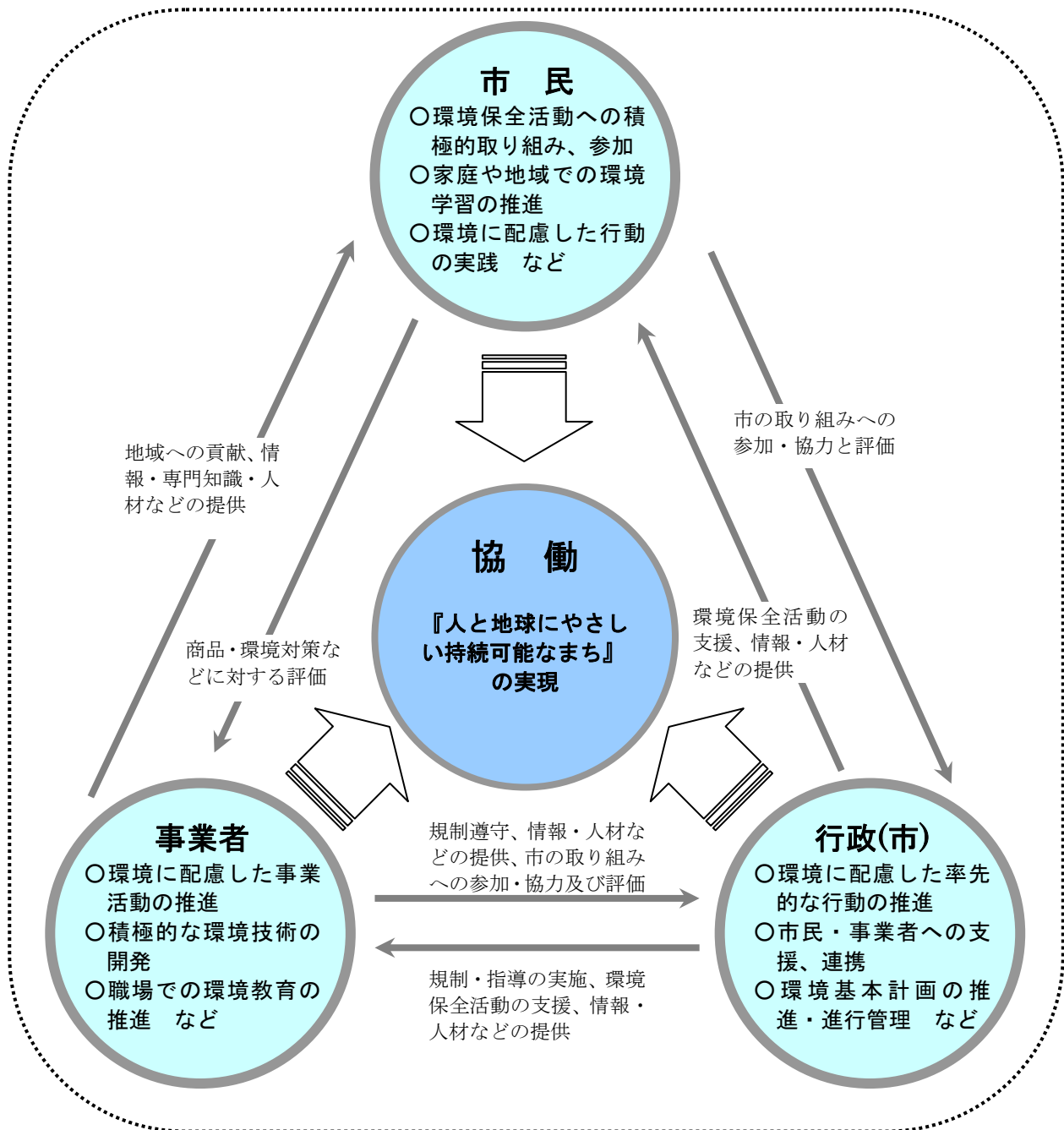
なお、具体的な環境指標・目標値を設定し、本計画の体系に沿った取り組みの成果が目に見える形で表現することにより、市民一人ひとりや個々の事業者が、主体的に行動した成果を実感できるものとなりました。

◇環境指標・目標は、体系ごとの主な取り組みについての成果を表すもので、施策の正確な達成状況を示すものではなく、環境保全施策の達成状況について共通認識を持てることを目的としています。



(3) 計画の担い手と役割

望ましい環境像『人と地球にやさしい持続可能なまち』を実現するためには、市民・事業者・行政の各主体がそれぞれの責務を認識し、自主的な取り組みを行うとともに、互いに連携し協働のもと環境の保全と創造に関する取り組みを進めて行くことが重要です。



市民・事業者・行政の協働イメージ

〈望ましい
環境像〉

「人と地球にやさしい持続可能なまち」

〈基本理念〉

「保全」と「創造」
による環境づくり

「循環」と「共生」
による環境づくり

「協働」による
環境づくり

〈取り組みの体系〉

○取り組みの柱

1

地球規模で考え、身近な
ところから実践する
～地球環境の保全～

2

自然と共に生きる
～豊かな自然環境の
保全と創造～

3

きれいな水を守る
～水環境の保全と創造～

4

すこやかで安らぎのある
くらしを創る
～快適な生活環境の確保と創造～

5

学び、考え、行動する
～環境教育・学習の推進～

市民・事業者・行政の
協働による取り組み

○取り組みの項目

(市の取り組み・私たちにできること)

- 1 地球温暖化対策
- 2 地球規模の環境問題への取り組み

- 1 緑豊かな自然の保全
- 2 生物多様性の保全
- 3 環境保全型農業の推進

- 1 水質の保全と浄化
- 2 猪苗代湖の保全
- 3 水資源の確保と水の有効利用
- 4 身近な水辺の保全と創造

- 1 廃棄物対策
- 2 公害と新たな生活環境問題への対応
- 3 有害化学物質対策
- 4 快適な生活空間の確保と創造

- 1 環境教育・学習の場や機会の充実
- 2 人材の育成と連携の促進
- 3 環境情報の共有化

<計画推進のために>

○推進体制

- 1 行政における推進
- 2 各主体の連携による推進
- 3 広域的な連携による推進

実効性の確保

○進行管理

- 1 進行管理体制
- 2 年次報告書の作成

郡山市第二次環境基本計画の概要

(5) 計画の取り組みの内容と対応する環境指標

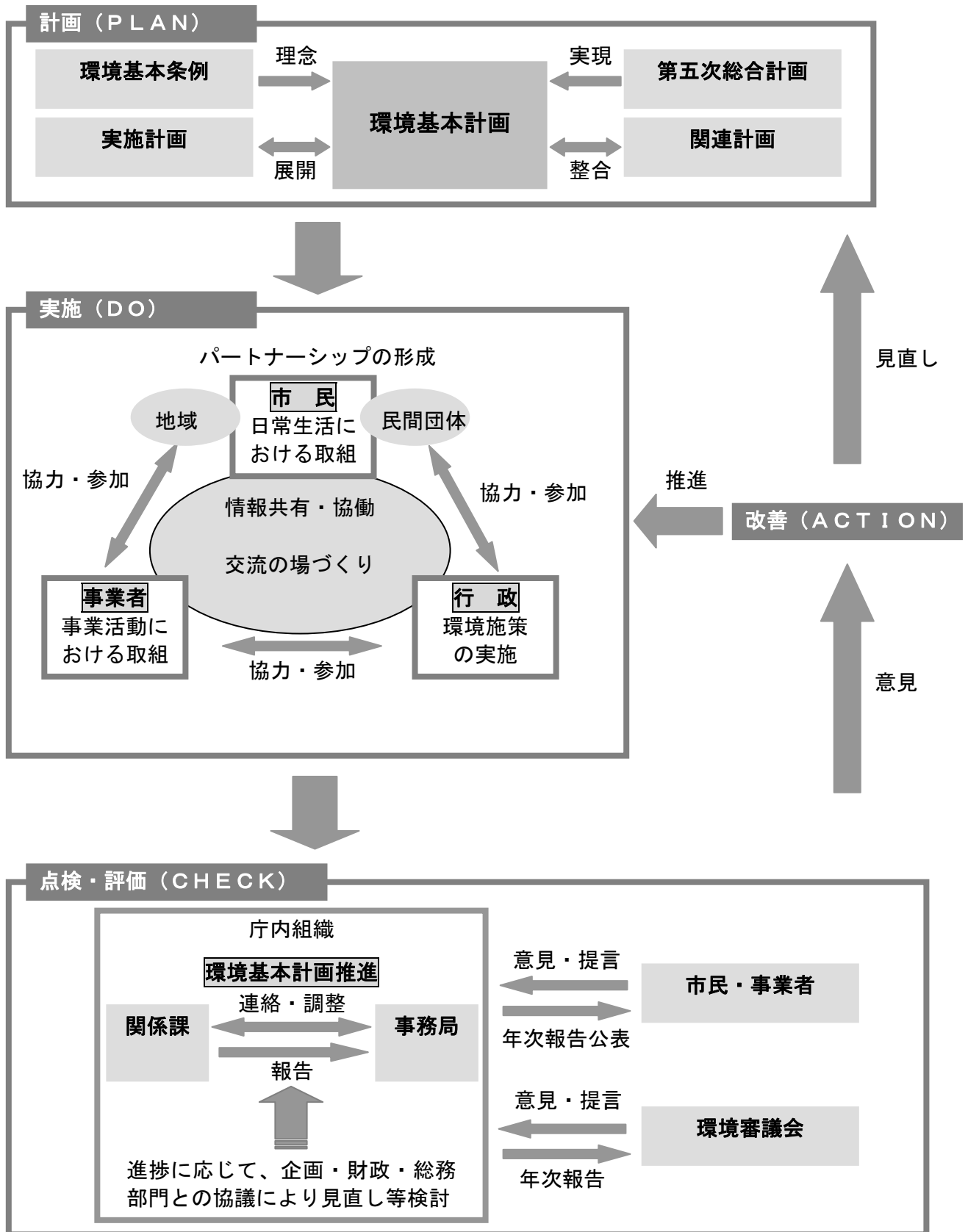
取り組みの柱	取り組みの項目
柱1「地球規模で考え、身近な ところから実践する」 ～地球環境の保全～	1 地球温暖化対策
	2 地球規模の環境問題への取り組み
柱2「自然と共に生きる」 ～豊かな自然環境の保全と創造～	1 緑豊かな自然の保全
	2 生物多様性の保全
	3 環境保全型農業の推進
柱3「きれいな水を守る」 ～水環境の保全と創造～	1 水質の保全と浄化
	2 猪苗代湖の保全
	3 水資源の確保と水の有効利用
	4 身近な水辺の保全と創造
柱4「すこやかで安らぎのある くらしを創る」 ～快適な生活環境の確保と創造～	1 廃棄物対策
	2 公害と新たな生活環境問題への対応
	3 有害化学物質対策
	4 快適な生活空間の確保と創造
柱5「学び、考え、行動する」 ～環境教育・学習の推進～	1 環境教育・学習の場や機会の充実
	2 人材の育成と連携の促進
	3 環境情報の共有化

郡山市第二次環境基本計画の概要

市の取り組み	環境指標
(1) 総合的・計画的な地球温暖化対策の推進 (2) 省エネルギーの推進 (3) 新エネルギーの利用促進 (4) その他の地球温暖化対策等 (5) 二酸化炭素吸収源の確保	(1) 環境家計簿参加者数 (2) 太陽光発電システム設置出力累計 (3) 公用車のハイブリッド自動車導入率
(1) オゾン層保護対策の推進 (2) 酸性雨対策の実施 (3) 熱帯林保護対策の推進 (4) 環境協力	
(1) 森林・里山の保全 (2) 特色ある自然の保全 (3) 開発における環境影響への配慮 (4) 広域的な連携	(4) 水源林再生支援整備面積
(1) 動植物の調査・把握 (2) 動植物の生息・生育環境の保全 (3) 情報の提供	(5) カッコウの生息数
(1) 農地の保全と多面的機能の維持 (2) 廃棄物の利活用の推進 (3) 環境にやさしい農業の推進	(6) エコファーマー認定者数
(1) 水質調査の実施 (2) 水質浄化対策 (3) 広域的な連携	(7) 河川のBOD値
(1) 水質の調査・研究 (2) 水質・周辺環境対策 (3) 適切な利活用の推進 (4) 広域的な連携	(8) 湖心の水質測定値 COD (mg/l) 全窒素 (mg/l) 全りん (mg/l)
	(9) 湖南岸部 (湖南地区) の水質測定値 COD (mg/l) 全窒素 (mg/l) 全りん (mg/l)
(1) 地下水かん養機能の確保 (2) 水資源の有効利用 (3) 規制・指導	(10) 1人1日当たりの節水量
(1) 水と親しめる空間の創造 (2) 環境に配慮した護岸の整備 (3) 保全活動の推進	(11) 多自然工法による河川等の整備延長
(1) 意識啓発 (2) 一般廃棄物処理の適正化 (3) 公共事業における産業廃棄物対策の推進 (4) 規制・指導及び監視体制の充実	(12) 1人1日当たりのごみ排出量 (13) リサイクル率 (家庭系)
(1) 現況調査の実施 (2) 発生源対策 (3) 連絡・処理体制の整備 (4) 規制・指導	(14) 光化学オキシダントの環境基準超過時間数
(1) 現況調査の実施 (2) 発生源対策 (3) 情報提供及び規制・指導	(15) ダイオキシン類測定値
(1) 都市の緑の保全と創造 (2) 歴史・文化的財産の保全・活用 (3) 魅力ある景観の形成 (4) 自然災害に備えたまちづくり	(16) 公園整備面積 (17) 景観形成に関する基準等が設定された地区数
(1) 場の充実 (2) 機会の提供	(18) 「どこでも環境教室」開催回数 (19) 水生生物による水質調査参加者数
(1) 人材の育成・活用 (2) 環境保全活動の支援 (3) 連携・交流の促進	(20) 「こどもエコクラブ」の登録数
(1) 情報の収集 (2) 情報の提供	(21) 環境コーナーの活用・ウェブサイトの充実

郡山市第二次環境基本計画の概要

(6) 計画の進行管理体制図



環境指標・目標の実施達成状況

郡山市第二次環境基本計画では、取り組みの成果が実感できるように、21 項目の「環境指標・目標」を示しています。

ここでは、それらの実施・達成状況についてまとめています。環境指標の目標年度は、計画の目標年度と合わせて平成 29 年度となっています。現況については、特に記載がなければ平成 25 年度の状況を掲載しています。

●目標年度が平成 29 年度で、平成 25 年度の現況数値が把握できる環境指標

◆実施・達成状況欄の評価記載方法について

◎	現時点で目標値を達成している。(今後変動あり)	○	ほぼ計画どおり推進している。
△	計画より遅れている。		

No	環境指標	目標	目標年度	現況	実施・達成状況
取り組みの柱1 「地球規模で考え、身近なところから実践する」～地球環境の保全～					
1	環境家計簿参加者数	1, 300人	平成 29 年度	30人	△
2	太陽光発電システム 設置出力累計	7, 260kW	平成 29 年度	16, 236kW	◎
3	公用車のハイブリッド 自動車等導入率	8. 00%	平成 29 年度	5. 46%	△
取り組みの柱2 「自然と共に生きる」～豊かな自然環境の保全と創造～					
4	水源林再生支援整備面積	62ha	平成 29 年度	47. 62ha	○
5	カッコウの生息数	現状維持 (H18: 122羽)	平成 29 年度	132羽	◎
6	エコファーマー認定者数	600人	平成 29 年度	507人	△
取り組みの柱3 「きれいな水を守る」～水環境の保全と創造～					
7	河川のBOD値	全地点で環境基準 値以下を維持	平成 29 年度	7地点中6地点で 環境基準以下	○
8	湖心の水質測定値 COD (mg/l) 全窒素 (mg/l) 全りん (mg/l)	0.50 以下 0.20 以下 0.003 以下	平成 29 年度	1.3 0.23 0.006	△
9	湖南岸部(湖南地区)の 水質測定値 COD (mg/l) 全窒素 (mg/l) 全りん (mg/l)	1.0 以下 0.20 以下 0.005 以下	平成 29 年度	1.2 0.24 0.006	△
10	1人1日当たりの節水量	120節水 (使用量3300)	平成 29 年度	60節水 (使用量3360)	○
11	多自然工法による 河川等の整備延長	7. 0km	平成 29 年度	3. 5km	△
取り組みの柱4 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～					
12	1人1日当たりの ごみ排出量	990g	平成 29 年度	1, 447g	△

環境指標・目標の実施達成状況

No	環境指標	目標	目標年度	現況	実施・達成状況
13	リサイクル率（家庭系）	24.0%	平成29年度	20.09%	△
14	光化学オキシダントの環境基準超過時間数	200時間以下	平成29年度	169時間	◎
15	ダイオキシン類測定値	環境基準以下を維持	平成29年度	全地点で環境基準以下	◎
16	公園整備面積	342ha	平成29年度	338.42ha	○
17	景観形成に関する基準等が設定されている地区数	5地区	平成29年度	3地区	△
取り組みの柱5 「学び、考え、行動する」～環境教育・学習の推進～					
18	「どこでも環境教室」開催回数	60回	平成29年度	53回	○
19	水生生物による水質調査参加者数	1,600人	平成29年度	1,713人	◎
20	「こどもエコクラブ」の登録数	70クラブ 1,000人	平成29年度	4クラブ 92人	△
21	環境コーナーの活用 ウェブサイトの充実	内容充実	平成29年度	(内容を充実しました)	○

※ 実施・達成状況については、前年度からの伸び等を参考にして、現在の進捗状況で目標年度内の達成が可能と思われるものについては「○」としています。



郡山布引“風の高原”

郡山市第二次環境基本計画に基づく

施策の実施状況

◇本市では、郡山市第二次環境基本計画に基づく行政の具体的な事業の年次計画として「実施計画」を策定しており、本報告書では「郡山市第二次環境基本計画第四次実施計画」に基づき平成25年度に実施した環境施策の内容を、基本計画の体系に沿って掲載しています。

◇東京電力福島第一原子力発電所の事故による市域内の放射能汚染に関しては、本計画とは別に、追加被ばく線量の低減等を目的として策定された「郡山市ふるさと再生除染実施計画」に基づき、市域内の除染等を進めています。

※「郡山市ふるさと再生除染実施計画」については、原子力災害総合対策課や市政情報センターで配布しているほか、市ウェブサイトでもダウンロードすることができます。

◆計画の目標に対する評価について

◎	現時点で目標値を達成している。
○	目標値までの計画推移どおり進んでいる。
△	目標値までの計画推移より遅れている。

1.「地球規模で考え、身近なところから実践する」～地球環境の保全～

(1)地球温暖化防止対策

地球環境問題は、私たちの日常生活や事業活動と密接なつながりがあります。中でも、地球温暖化は、私たちが直面する大きな問題です。地球温暖化対策を進め、また資源の枯渇を抑えるには、市民のライフスタイルや事業者の行動様式を見直し、エネルギー消費の削減と効率的利用に努める必要があります。また、原子力発電所の事故に起因する発電能力の低下に対応するために、自然エネルギーやリサイクルエネルギーへの転換が重要となります。

このことから、さまざまな省エネルギーの取り組みの推進と、太陽光や風力、バイオマスエネルギー、ごみ焼却熱などの再生可能エネルギーを推進し、環境への負荷が少ない社会の実現を目指します。

No.	環境指標	目標	目標年度
1	環境家計簿参加者数	1,300人	平成29年度
	各家庭で電気、水道、燃料などを使用することにより、地球温暖化の主な原因となっている二酸化炭素がどれだけ排出されているかを、重さに換算して計算するための環境家計簿に取り組んでいただいた方（世帯）の数。身近に地球温暖化問題を感じる事ができる取り組みとして、参加者増を目指します。		

● 計画の目標に対する評価

年度	現状	評価
平成23年度	17人	△
平成24年度	42人	△
平成25年度	30人	△

各イベントや環境教室などでパンフレットを配布し、参加を呼びかけましたが、目標の人数には達しませんでした。今後、より多くの方々に参加していただけるように効果的な取組方法や周知方法について検討するなど、目標達成に向けての取り組みを推進していきます。

1.「地球規模で考え、身近なところから実践する」～地球環境の保全～

No.	環境指標	目標	目標年度
2	太陽光発電システム 設置出力累計	7, 260 kW	平成29年度
	太陽光発電システムによる余剰電力の売買契約（最大出力）の累計。設置助成などにより増加を図ります。		

● 計画の目標に対する評価

年度	現状	評価
平成23年度	9, 124 kW	◎
平成24年度	13, 835 kW	◎
平成25年度	16, 236 kW	◎

太陽光発電システム設置出力累計については、近年の再生可能エネルギーへの関心の高まりを受けて、太陽光発電システムの設置が急増したことにより目標値を達成しています。

No.	環境指標	目標	目標年度
3	公用車のハイブリッド 自動車等導入率	8.00%	平成29年度
	市役所等の公用車へのハイブリッド自動車・電気自動車等の導入率。公用車購入の際、導入推進に努めます。		

● 計画の目標に対する評価

年度	現状	評価
平成23年度	5.10%	○
平成24年度	5.13%	△
平成25年度	5.46%	△

公用車のハイブリッド自動車等の導入を進めていますが、前年からの伸び率は低い水準です。今後さらに導入が進むよう、公用車の買い替えに際して低公害車の導入を検討していきます。

1. 「地球規模で考え、身近なところから実践する」 ～地球環境の保全～

(1)-①総合的・計画的な地球温暖化対策の推進

◆地球温暖化防止対策事業

【生活環境課】

地球温暖化の大きな原因であり、温室効果ガスの排出量の約9割を占める二酸化炭素は、私たちが生活するうえで必要な電気や灯油などを使用することにより発生しているため、一人ひとりのライフスタイルを見直すことによりその排出量を減らすことができることから、啓発を図るために以下の事業を行いました。

- 啓発用資料の作成・配布
 - ・「平成26年環境カレンダー」(4,000部：地球温暖化防止月間に併せ一般へ配布)
- 出張講座(どこでも環境教室)「みんなで減らそうCO₂! Stop 地球温暖化」の実施
 - ・実施回数 5回、受講者数 339名
- 地球温暖化防止のための国民運動「チャレンジ25キャンペーン」の推進
 - ・チャレンジ25キャンペーンへの参加
- CO₂削減のための6つのチャレンジの実施
 - ・クールビズの実施(平成25年5月1日～10月31日)
 - ・ウォームビズの実施(平成25年11月1日～平成26年3月31日)

【平成25年度実績】

【単位：kg-CO₂】

	クールビズ期間	ウォームビズ期間	合計
21年度(基準年)CO ₂ 排出量	251,616	457,637	709,253
25年度CO ₂ 排出量	226,618	411,507	638,125
CO ₂ 排出削減量	24,998	46,130	71,128

※表は市役所本庁舎及び西庁舎における取組結果。

クールビズの冷房は、本庁舎は「電気」、分庁舎は「都市ガス」を使用。

ウォームビズの暖房は、本庁舎・北1・2号棟は「電気」、西庁舎は集中暖房として「都市ガス」を使用。

- 地球温暖化防止月間事業の推進
- エコドライブの推進
 - ・ステッカーの作成・配布(3,000枚)

◆第四次環境にやさしい郡山市率先行動計画推進事業

【生活環境課】

行政自らが一事業者として、市民、事業者にも率先した環境負荷の低減を目的として、市の率先行動計画を策定し、総合的かつ計画的な環境にやさしい取り組みを推進していますが、これは「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく本市の実行計画でもあるため、温室効果ガスの削減等を数値目標と定め、市の機関が実施するすべての事務事業を対象に省エネルギー、省資源等を推進しました。平成23年度からは「第四次環境にやさしい郡山市率先行動計画(計画期間は平成23～29年度の7か年)」を策定し、取り組みの推進を図っております。

基準年に比べて平成25年度は、夏の暑さや寒冬の影響により都市ガス等の冷暖房に利用する燃料使用量が増加しましたが、日頃の節電意識の向上等により電気使用量が大きく減少しており、全体としては順調に温室効果ガス排出量は削減されております。

・計画の対象 市の全施設327 職場(外郭団体を含む) ※H25.4.1現在

・計画の目標 別表のとおり

【平成25年度 目標値の実績と評価】

項目	目標値 [平成21年度比]	平成25年度 実績[%]	平成25年度 評価	
1 温室効果ガス排出量	-7%	-5.1	○	平成29年度の達成を目指す項目

1.「地球規模で考え、身近なところから実践する」～地球環境の保全～

(1)	電気使用量	-8%	-9.5	◎		
(2)	燃料 使用量	①都市ガス	-5%	+21.3	×	
		②LPG	-5%	-6.6	◎	
		③灯油	-6%	+3.8	×	
		④A重油	-6%	-2.7	△	
		⑤ガソリン	-5%	+6.4	×	
		⑥軽油	-5%	+22.2	×	
(3)	廃棄物排出量	-6%	+34.1	×		
2	水道使用量	-3%	-5.1	◎		
3	用紙類使用量	-3%	+18.4	×		
4	省エネルギーの推進	-7%	市長部局、教育委員会、水道局 における成果			
5	グリーン購入	環境に配慮した物品等の購入			当該年度の 達成を目指す 項目	

●平成 25 年度評価（平成 29 年度の達成を目指す目標）

◎	目標年度(平成 29 年度)における目標をすでに上回っている。	△	このままでは、目標達成にはかなりの努力が必要。
○	このまま取り組みれば、目標達成の可能性が高い。	×	このままでは、目標達成の可能性が低い。

◆我が家の省エネ大作戦事業[再掲]

別記 5 - (3) - ① (P 9 7) 参照

(1)-②省エネルギーの推進

◆市有施設の省エネルギー推進事業

【建築課】

中央公民館実施設計において、断熱サッシやペアガラス、太陽光発電システム等の採用を行いました。

◆環境家計簿

【生活環境課】

一般市民を対象として、家庭で使う電気や灯油などの使用量を記入して二酸化炭素排出量が計算できる環境家計簿に取り組んでもらい、家庭での「地球と家計にやさしい生活」に挑戦してもらいました。

・実施人数 30 人

◆地球温暖化防止月間事業

【生活環境課】

12 月の「地球温暖化防止月間」に合わせて各種の環境啓発を実施し、市民に地球温暖化防止の重要性を広く呼びかけ、意識の高揚を図りました。

○ビッグアイ南西角壁面への地球温暖化防止月間 PR 懸垂幕の掲出

○地球温暖化防止月間パネル展の実施

・ふれあい科学館ロビー（ビッグアイ 22 階）：平成 25 年 12 月 1 日～12 月 27 日

・かんきょう楽習コーナー（郡山市役所西庁舎 1 階）：平成 25 年 12 月 1 日～27 日

・中央図書館：平成 25 年 12 月 1 日～27 日

○平成 26 年こおりやま環境カレンダーの配布

1. 「地球規模で考え、身近なところから実践する」～地球環境の保全～

◆郡山市エコ・オフィス認定事業

〔生活環境課〕

二酸化炭素排出量が増加傾向にある民生業務部門に対する温暖化対策として、事業者があらゆる業務に関し、温暖化対策に取り組んでもらうため、本市独自に「エコ・オフィス認定事業」を開始し、広く参加事業所を募集しました。

◇省エネコース登録件数 239 社

◇省エネコース認定件数 59 社

◇優秀事業所表彰件数 14 社

※認定事業所等については下記ウェブサイトで公表しております。

<http://www.city.koriyama.fukushima.jp/181000/kikakugakari/ecooffice/h25ecoofficenintei.html>

◆環境貯金箱推進事業

〔生活環境課〕

地球温暖化防止のため、家庭での省エネを推進し、その削減費をオリジナル貯金箱に貯金をすることで、環境活動への取組意欲の向上及び家庭部門の温室効果ガス排出削減を図ることを目的に実施しました。

・応募件数：255 件

◆緑のカーテン事業

〔こども育成課〕

グリーンカーテンを設置し、室内の室温上昇の抑制に努め、夏の電力需要の抑制に貢献しました。また、植物を種（苗）から育てることにより、自然環境とエコロジーの関心を高めました。

・実施箇所数 25 箇所

◆中小企業金融対策事業(中小企業成長融資制度)[再掲]

別記5－(2)－②(P92)参照

◆流通業務地区、流通業務団地の指定[再掲]

別記4－(2)－②(P65)参照

(1)-③新エネルギーの利用促進

◆廃棄物発電・廃棄物熱利用

〔清掃課〕

ごみ焼却処理により発生した熱を給湯や暖房、自家発電などに有効に利用し、富久山クリーンセンターでは、自家発電による売電を実施しました。

【施設概要】

施設名	開始年	処理能力[t/日]	発電能力[kW]	電力利用	余熱利用
河内クリーンセンター	昭和59年	300	1,000	内部	温水利用(内部、外部)
富久山クリーンセンター	平成8年	300	1,950	内部、売電	温水利用(内部、外部)

【実績】

[単位: MWh]

項目		H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
河内クリーンセンター	発電量	4,667	4,774	5,368	5,850	5,284
	自家消費量	4,667	4,774	5,368	5,850	5,284
富久山クリーンセンター	発電量	7,878	14,059	15,144	15,786	15,272
	自家消費量	※① 8,335	8,099	8,931	8,814	8,388
	余剰電力量	※② 3,531	5,960	6,213	6,972	6,884
合計	発電量	12,545	18,833	20,512	21,636	20,556
	熱量[GJ/年]	(45,162)	(67,799)	(73,843)	(77,883)	(74,002)
	自家消費量	13,002	12,873	14,299	14,664	13,672
	余剰電力量	3,531	5,960	6,213	6,972	6,884

※①発電機故障のため、自家消費量の一部(457MWh)は東北電力から購入。※②発電機稼働後の余剰電力量

1. 「地球規模で考え、身近なところから実践する」～地球環境の保全～

◆市有施設建設事業(新エネルギーの導入)

〔建築課〕

学校や公民館施設等の公共施設の建設や改修において、省エネルギー化を推進するため、従来の電力に頼らない自然エネルギー等の利用促進を設計段階から考慮して施設の整備を図りました。

- ・中央公民館実施設計において、断熱サッシやペアガラス、太陽光発電システム等の採用を行いました。

◆グリーン電力の導入(郡山市成人のつどい)

〔生涯学習スポーツ課〕

大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする新成人を祝い励ますとともに、互いに祝福し合い、夢と希望を語り合うつどいの場として開催した成人のつどいの実施に際し、新成人への環境意識の醸成を図るため、イベントにかかる電力として、グリーン電力証書を購入し、グリーン電力を導入しました。

- ・バイオマス発電 1,000kWh 分

◆住宅用太陽光発電システム導入促進事業

〔生活環境課〕

市民による新エネルギーの導入を推進するため、住宅用太陽光発電システム設置に対する補助金を交付しました。

[補助件数]544 件

[設置出力]2,401.36kW

[補助金額]39,920,000 円

◆新エネルギー導入促進事業

〔生活環境課〕

「郡山市地域新エネルギービジョン」に基づき、市民や事業者に対して新エネルギーの普及啓発を図り、環境と共生した地域づくりを推進しました。

- ・市民ふれあいプラザで開催された「発明工夫展」において、小学生を対象にソーラーカー工作教室を行いました。(参加者 33 名)
- ・「郡山市農業・観光物産展」及び「人・環境フェスタ 2013」において、新エネルギーに関するパネルを展示し、啓発活動を実施しました。

◆再生可能エネルギー啓発事業

〔生活環境課〕

再生可能エネルギーを紹介したパネルを設置し、リーフレットを配置し、市民への啓発を行いました。

- ・パネル展示 かんきょう楽習コーナーにて常設展示

◆公共施設太陽光発電設備導入事業

〔生活環境課〕

非常時(停電時)における防災拠点(地区本部機能又は避難所機能を有する施設)を確保するため、福島県再生可能エネルギー導入等による防災拠点支援事業補助金(補助率:対象経費の10/10)を活用し、事業期間(平成24年度～平成27年度)や地域バランスなどを考慮しながら、地域の防災拠点となる市の公共施設に太陽光発電設備(太陽光パネル等のほか蓄電池を含む)を導入するため、設計委託を実施しました。

- ・実施施設 大槻ふれあいセンター、三穂田ふれあいセンター、
西田ふれあいセンター、中田ふれあいセンター、
富田西ふれあいセンター

◆(仮称)郡山市地域新エネルギービジョン策定事業

〔生活環境課〕

(仮称)郡山市地域新エネルギービジョン策定に向けて、市民を対象としてアンケート調査等を行いました。

また、策定に向けて業務委託契約を締結しました。

1.「地球規模で考え、身近なところから実践する」～地球環境の保全～

<アンケート調査>

市民：2500人（833人回答、33%） 20歳以上の世帯主

事業者：500社（189社回答、38%） 市内の事業所

(1)-④その他の地球温暖化対策等

◆クリーンエネルギー車普及促進事業

〔生活環境課〕

「郡山市地域新エネルギービジョン」に基づき、行政の率先的な取り組みとして公用車新規購入等の際に低公害車の導入に努め、とりわけ、効果の大きいクリーンエネルギー車（電気自動車、燃料電池自動車、ハイブリッド自動車、天然ガス自動車）の導入を推進しました。

- ・クリーンエネルギー車購入：ハイブリッド自動車 1台
- 《平成25年度までの累計》
- ハイブリッド自動車 17台 電気自動車 2台
- （公用車のクリーンエネルギー車保有率：5.46%）

◆電気自動車導入モデル事業

〔生活環境課〕

電気自動車を積極的に活用することで、二酸化炭素排出削減による地球温暖化対策を推進するとともに、イベント開催時において、電気自動車の普及・啓発を図りました。

◆生活路線バス維持対策事業

〔総合交通政策課〕

慢性化する交通渋滞の緩和及びCO₂削減のため、バス事業者から廃止提案のあった路線で、市民の生活にとって必要不可欠なものに対し、補助を行い市民生活の足を確保するとともに、更なる利用促進を図り、路線バスの維持に努めました。

- ・路線バスに対し補助を実施しました。 [事業費]145,877,000円

◆総合都市交通戦略推進事業

〔総合交通政策課〕

すべての人が安心して円滑に移動できるまちの実現に向け、地球環境に配慮しながら、過度に自動車に依存しないで暮らせるよう、市民・事業者・行政等が連携し、本市の地域特性に応じた交通システムやその実現に向け、総合的な交通戦略の推進を図りました。

◆モビリティ・マネジメント推進事業

〔総合交通政策課〕

過度な車利用から他の交通手段（公共交通、徒歩、自転車等）への転換を促すため、バスマップを作成し、交通渋滞の緩和、公共交通の利用促進に努めました。

- ・転入者に対し、バスマップを配布しました。
- ・毎月1日、11日、21日のバス・鉄道利用促進デーについて、市役所庁舎内でのアナウンス等により市民及び市職員への周知を図り、公共交通の利用促進に努めました。

◆サイクルプロモーション

〔総合交通政策課〕

自転車の利用を促す施策について検討するため、先進事例の調査・研究を進めました。

◆幹線道路新設改良舗装事業[再掲]

別記4-(2)-②(P65)参照

◆郡山流通業務団地開発事業[再掲]

別記4-(2)-②(P65)参照

1.「地球規模で考え、身近なところから実践する」～地球環境の保全～

◆都市計画街路事業[再掲]

別記4-(2)-②(P65)参照

◆交通安全施設整備事業

[道路維持課]

視線誘導標を道路の中央分離帯や区画線上等に設置する際、太陽エネルギーを利用した自発光式製品を使用しました。

- ・市内各所(交通事故多発地点等)に、自発光式縁石鋏を設置

◆公用自転車活用事業(CO₂削減開拓チャレンジ事業)

[生活環境課]

行政が率先して二酸化炭素排出量削減による地球温暖化対策に取り組むとともに、燃料使用量削減による経費節減を図ることを目的として、市庁舎から近距離の範囲の用務における移動手段として公用自転車13台を設置し活用しました。

- ・利用者数(延べ人数):524人
- ・1人当たり平均利用距離:約3.9km
- ・二酸化炭素排出削減量:約239kg
- ・利用距離:2023.1km
- ・燃料削減量:約103.7リットル
- ・削減金額:約16,200円

◆フロンの適正処理の実施[再掲]

別記1-(2)-①(P26)参照

◆フロンの適正処理の推進[再掲]

別記1-(2)-①(P26)参照

(1)-⑤二酸化炭素吸収源の確保

◆木質バイオマス利活用推進事業[再掲]

別記2-(1)-①(P30)参照

◆森林環境交付金事業[再掲]

別記2-(1)-①(P30)参照

◆分収造林事業[再掲]

別記2-(1)-①(P30)参照

◆郡山市有林管理事業[再掲]

別記2-(1)-①(P30)参照

◆水源林再生支援事業[再掲]

別記3-(3)-①(P48)参照

◆農業振興地域整備促進事業[再掲]

別記2-(3)-①(P36)参照

◆中山間地域等直接支払事業[再掲]

別記2-(3)-①(P36)参照

◆地産地消推進事業(木材等)[再掲]

別記2-(1)-①(P31)参照



◆公園整備事業[再掲]

別記4－(4)－①(P72)参照

◆花と緑の公園事業[再掲]

別記4－(4)－①(P72)参照

◆農業参入者支援事業[再掲]

別記2－(3)－①(P36)参照

◆耕作放棄地調査・復旧対策事業[再掲]

別記2－(3)－①(P36)参照

◆風の高原フラワープロジェクト[再掲]

別記2－(3)－①(P36)参照

◆農地・水保全管理支払交付金[再掲]

別記2－(3)－①(P36)参照

◆市有施設建設事業(施設緑化)[再掲]

別記4－(4)－①(P72)参照

◆道路整備事業(街路樹)[再掲]

別記4－(4)－①(P72)参照

◆フラワーロード推進事業[再掲]

別記4－(4)－①(P72)参照

◆街路樹管理事業[再掲]

別記4－(4)－①(P73)参照

◆都市計画道路整備事業(街路樹整備)[再掲]

別記4－(4)－①(P73)参照

◆水と緑のまちづくり基金[再掲]

別記4－(4)－①(P72)参照

◆人・環境フェスタ in 郡山事業[再掲]

別記4－(4)－①(P72)参照

◆郡山市緑あふれるまちづくり事業[再掲]

別記4－(4)－①(P73)参照

◆都市緑化事業[再掲]

別記4－(4)－①(P73)参照

◆明るいまちづくり推進事業(花いっぱいコンクール)[再掲]

別記4－(4)－①(P73)参照



(2)地球規模の環境問題への取り組み

(2)-①オゾン層保護対策の推進

◆フロンの適正処理の実施

[各課等]

公共施設、公用車などにおけるフロンの適正な管理及び処理を行いました。

◆フロンの適正処理の推進

[各課等]

家電リサイクル法、フロン回収破壊法、自動車リサイクル法に基づき、各主体の費用負担の下、フロンの適正な回収処理の推進及び指導を行いました。

(2)-②酸性雨対策の実施

◆酸性雨調査監視事業

[環境保全センター]

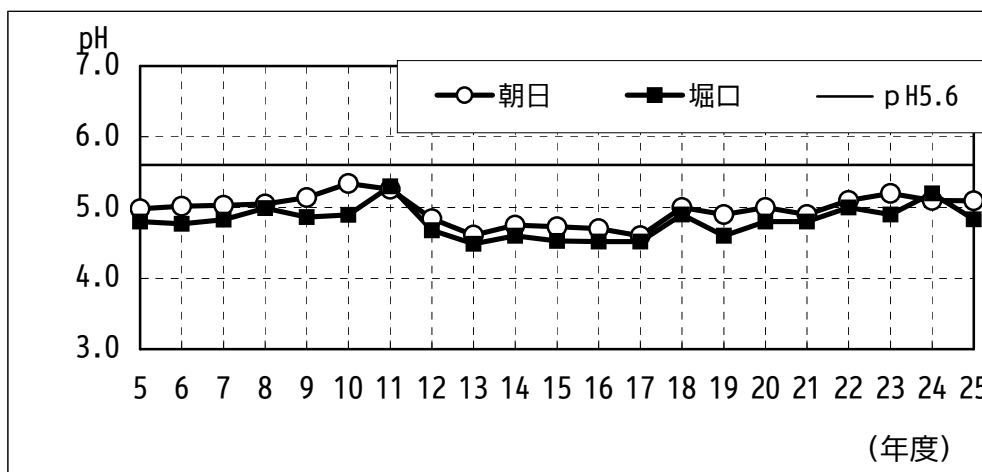
定期的に大気中に含まれる酸性降下物及び雨水の調査を実施し、大気汚染状況の監視調査を継続しました。

・酸性雨調査

[調査地点] 朝日（環境保全センター屋上）、逢瀬町堀口の2地点

[調査回数] 年27回（2週間に1回）

《平成25年度までの酸性雨調査結果グラフ》



※水素イオン濃度(pH)が5.6以下を酸性雨と呼びます。

水素イオン濃度(pH)が7.0よりも小さいと酸性と呼ばれ、より強い酸性になると数字が小さくなります。普通の雨でも空気中の二酸化炭素を取込み水素イオン濃度(pH)が5.6の酸性になります。

◆排出ガス等の規制・指導

[各課等]

工場・事業場等のばい煙や燃焼機器などについて、関連法令に基づき規制・指導を行いました。

◆自動車交通対策の推進

[各課等]

計画的な道路網の整備や低公害車の導入・普及促進、公共交通機関や自転車の利用による自動車の使用抑制に努めました。

(2)-③熱帯林保護対策の推進

◆森林認証製品の購入推進(第四次環境にやさしい郡山市率先行動計画推進事業) [生活環境課]

世界の森林を守るため、木材が原料に使用されている製品については、独立した機関により適切に管理されていることを認証された森林から産出される木材を原料とするもの（F S C認証材等）の購入を推進しました。なお、平成 20 年度から郡山市環境物品等の調達方針の判断基準に F S C 認証材等であることを明記し推進を図っています。

◆地場産材活用(市有施設建設事業) [建築課]

森林資源の保全及び地産地消を目的として、市有施設の新築・増改築において、設計段階から地場産材の積極的な有効活用を考慮して施設の整備を図りました。

- ・永盛小学校屋内運動場建設工事では、地元業者により加工された大断面集成材を利用し、ぬくもりのある建物として整備しました。
- ・笹原川千本桜トイレ建設工事、開成五丁目公園トイレ建設工事、神明下公園建設工事、七ッ池公園トイレ建設工事では、構造・内装材に地場産材を積極的に利用し、やわらかさのある建物として整備しました。

(2)-④環境協力

◆三春ダム維持管理協議会[再掲]

別記 3 - (1) - ③ (P 4 2) 参照

◆大滝根川流域生活排水対策推進協議会[再掲]

別記 3 - (1) - ③ (P 4 3) 参照

◆阿武隈川サミット実行委員会[再掲]

別記 3 - (1) - ③ (P 4 3) 参照

◆猪苗代湖岸環境美化事業[再掲]

別記 3 - (2) - ② (P 4 5) 参照

◆猪苗代湖環境保全推進連絡会による取り組み[再掲]

別記 3 - (2) - ④ (P 4 6) 参照

◆猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会[再掲]

別記 3 - (2) - ④ (P 4 6) 参照

◆福島県自然環境保全条例に基づく保全[再掲]

別記 2 - (1) - ② (P 3 1) 参照

◆福島県自然公園清掃協議会[再掲]

別記 2 - (1) - ② (P 3 1) 参照



三春ダム

1.「地球規模で考え、身近なところから実践する」～地球環境の保全～

◆ものづくりマッチング事業

〔商工振興課〕

(独)産業技術総合研究所の再生可能エネルギー研究開発拠点が本市へ立地することをうけ、今後、集積が期待される再生可能エネルギー産業に先進的に取り組んでいる企業を分科会の講師に招き、取り組み事例等について講演いただきました。その後、参加企業との交流を図りました。

◆インキュベーションセンター事業

〔商工振興課〕

環境関連分野等での新事業創出を目指す企業などに対し、開発を促進させるため、研究や試作の場を提供するとともに、技術アドバイスを行うなど、ハード・ソフトの両面から支援を行いました。

・〔H26. 3. 18 現在〕全 11 社入居中 3 社環境関連分野

Pickup

郡山市エコ・オフィス認定事業

地球温暖化を防止するため、市内の事業所に省エネなどの CO₂ 削減推進プランを作成してもらい、一定の CO₂ 削減目標を達成した事業所には、「エコ・オフィス認定事業」において認定証を交付しています。また、平成 25 年度から電気、水道、燃料使用量の 3 項目すべての CO₂ 排出量削減実績により通算で 5 回目の認定を受ける事業所を「優秀事業所」として表彰しています。

認定基準

省エネ 1 年コース・・・電気・水道・燃料使用量を基準年比で年間 2 %削減
省エネ 2 か月コース・・・電気・水道使用量を基準年比で 2 か月間で 3 %削減

平成 25 年度実績

省エネコース認定事業所数・・・59 社
優秀事業所表彰件数・・・・・・14 社



エコ・オフィス認定事業者



エコ・オフィス優秀事業者

2.「自然と共に生きる」～豊かな自然環境の保全と創造～

(1) 緑豊かな自然の保全

本市には、奥羽山脈と阿武隈山系の森林が広がり、森林面積は市域の約5割を占めます。また、市街地にも、風致地区など自然が残されており、とても緑に恵まれています。

これら本市の持つ多様かつ豊かな自然の緑を保全し、次代に継承するとともに、自然と「共生」するまちづくりに努めています。

No.	環境指標	目標	目標年度
4	水源林再生支援整備面積	62ha	平成29年度
	森林伐採後の水源かん養、災害防止等の多面的機能を維持する再生林面積。再生林や保育等の実施に対し補助を行います。		

● 計画の目標に対する評価

No.	年度	現状	評価
4	平成23年度	39.02ha	○
	平成24年度	43.32ha	○
	平成25年度	47.62ha	○

水源林再生支援整備面積については、前年度（43.32ha）から順調に増えており、計画通りに進んでいます。二酸化炭素の吸収源である森林の保全はより重要になってきており、今後も再生林の実施に対して補助を行うなど再生林面積の拡大に努めます。

2.「自然と共に生きる」～豊かな自然環境の保全と創造～

(1)-①森林・里山の保全

◆木質バイオマス利活用推進事業

〔農地林務課〕

森林の持つ多面的機能の維持増進と、森林資源の有効な活用を図るため、ペレットストーブ・薪ストーブの導入について助成するとともに、適正な利用について啓発しました。

- ・助成台数 19台 [事業費]950,000円

◆森林保護対策事業

〔農地林務課〕

松くい虫等の被害拡大を防止するため、被害木の伐倒駆除を実施しました。また、森林病害虫の駆除や山火事防止を啓発し森林の保護を図りました。

- ・松くい虫等防除事業
伐倒駆除（市内一円） 1,010 m³
被害木調査（市内一円） 900 m³
- ・山火事防止啓発ポスター等の配布

◆森林環境交付金事業

〔農地林務課〕

県の森林環境税を活用し、荒廃が懸念される森林の整備を行い、公益的機能の保全を図りました。

- ・湖南町の主要地方道沿線の森林景観整備事業 間伐 6.70ha
- ・県産間伐材使用による施設整備
教卓更新事業 小学校 40台 中学校 20台
図書館施設整備事業 書架 2台
東部森林公園施設整備事業 テーブル 2基
- ・小中学校における体験学習事業 小学校 34校 中学校 0校

◆分収造林事業

〔農地林務課〕

森林の有する多面的機能を発揮させるため、造林地所有者（地元財産区）と出資者（独立行政法人森林農地整備センター）と造林者（郡山市）の三者で分収造林契約を結んだ森林1,953haの継続的な保育を実施しました。

[造林事業]除伐：16.54ha、林相調査：51.00ha

◆水源林再生支援事業[再掲]

別記3-(3)-①(P48)参照

◆郡山市有林管理事業

〔農地林務課〕

森林の持つ水源かん養機能の保全のため、郡山市有林561haの継続的な森林管理を行いました。

[造林事業]下刈・境界刈払・作業道刈払 2.10ha、除伐 3.00ha、間伐 2.00ha

◆水源の森づくり事業(親子植林体験)[再掲]

別記5-(1)-②(P85)参照

◆林道整備事業

〔農地林務課〕

森林資源の生産性の向上と林業経営の安定化を図り、また、公的多面的な機能を果たす森林の保全に不可欠な林道網の整備（保全）を計画的に実施しました。

- ・市単独林道事業として、林道の舗装工事を実施しました。

2.「自然と共に生きる」～豊かな自然環境の保全と創造～

◆観光登山道等整備事業

〔観光物産課〕

近年のトレッキングブームにより、額取山等本市周辺の山々へ登山客が増加していることから、観光登山道等の整備、充実に向け検討を進めました。

- ・駐車場の整備検討
- ・既存登山道の整備登山
- ・新規登山道の整備検討

◆地産地消推進事業(木材等)

〔農地林務課〕

郡山市主催のイベントにおいて、木工教室を実施しました。

- ・郡山の農業・観光物産展参加 平成 25 年 10 月 18 日～20 日

◆ふくしま森林再生事業

〔農地林務課〕

間伐等の森林整備と路網整備を一体的に実施し、森林の公益的機能を維持しながら、放射性物質の低減化と森林の再生を図るため、下記の事業を実施しました。

- ・全体計画作成

◆森林整備加速化・林業再生事業

〔農地林務課〕

間伐等の森林整備の加速化と間伐材等の森林資源を活用した林業・木材産業の再生を図るため、木材関係事業者に対して補助金を支出しました。

- ・全自動横架材加工機の導入（施設整備）、県産材（スギ・カラマツ）を用いたハイブリッド集成材の開発（研究開発）の 2 件に対して補助金を支出しました。

◆花咲く森林(もり)づくり郡山市植樹祭

〔農地林務課〕

小さな苗木の成長とともに、本市が未来への歩みを刻み、「花咲く森林（もり）」として後世に残る「花木の名所」づくりを目指し、多くの市民参加により、東部森林公園に花木の植栽を行いました。

- ・平成 25 年 6 月 8 日（土）東部森林公園 約 2,000 本の花木植栽を実施しました。

(1)-②特色ある自然の保全

◆福島県自然環境保全条例に基づく保全

〔生活環境課〕

県自然環境保全条例に基づく各種事業の実施に際し、県自然保護課との連絡調整を図ることとしています。

◆福島県自然公園清掃協議会

〔生活環境課〕

自然公園の清潔を保持することを目的として、利用客が増加する平成 25 年 5 月 1 日から平成 25 年 11 月 30 日にかけて猪苗代湖周辺（舟津浜、舟津公園、青松浜、秋山浜、館浜、横沢浜、浜路浜）について清掃業務を実施しました。

2. 「自然と共に生きる」 ～豊かな自然環境の保全と創造～

◆指定文化財保護保存事業(自然物)

〔文化課〕

指定天然記念物の定期診断を実施しました。また、市内に所在する貴重な樹木等については、指定文化財への指定手続きを行い、保存を図りました。

- ・指定天然記念物の定期診断 7件
- 《平成25年度までの指定文化財への指定手続き》
- ・指定天然記念物(名勝、名勝天然記念物を含む)の指定件数 29件

◆指定文化財保護育成事業(自然物)

〔文化課〕

指定天然記念物の保護活動を行っている保存団体に対して、その活動をより一層促進するため、奨励金を交付しました。

- ・指定天然記念物等保存団体奨励金交付 15団体×50千円=750千円

(1)-③開発における環境影響への配慮

◆環境影響評価制度

〔生活環境課〕

環境影響評価は、環境に著しい影響を及ぼすおそれのある事業の実施に際し、事前に調査、予測及び評価をし、その結果を公表して地域住民の意見を聴くことで十分な環境保全対策を講じようとするものです。

- ・実施対象事務なし
- 《これまでの市内における環境影響評価実施状況》

対象事業の名称	対象事業の種類	対象事業の規模	実施状況
郡山市安積南土地区画整理事業	土地区画整理事業	約72.5ha	方法書手続終了
(仮称)郡山市福原土地区画整理事業	土地区画整理事業	約72ha	〃
郡山西部第一工業団地開発事業	工場又は事業場の用地の造成の事業	約147.7ha	評価書手続終了
(仮称)沢又山高原風力発電事業	風力発電所設置事業	風力発電所出力：34,500kW 風力発電機の台数：最大15台	準備書手続終了
会津布引高原風力発電所設置事業※	風力発電所設置事業	風力発電所出力：最大60,000kW 風力発電機の台数：最大46台	評価書手続終了

※発電所名「郡山布引高原風力発電所」、発電所出力を最大出力65,980kW、基数33基とし平成19年2月より稼働。

(1)-④広域的な連携

◆福島県自然環境保全条例に基づく保全[再掲]

別記2-(1)-②(P31)参照

◆福島県自然公園清掃協議会[再掲]

別記2-(1)-②(P31)参照

(2) 生物多様性の保全

本市の数多くの湖沼や河川、田園や森林には、多彩な動植物が生息・生育しています。これら生物多様性を保全するため、本市における動植物の生息・生育環境を考慮し、地域の環境特性に応じた生態系の維持・回復などに努めています。

No.	環境指標	目標	目標年度
5	カッコウの生息数	現状維持 (H18 : 122 羽)	平成 2 9 年度
	カッコウが市の鳥であることにちなみ、公益財団法人日本野鳥の会郡山支部が野鳥愛護と自然保護の啓発のため、児童・生徒及び一般市民の協力を得て行っているカッコウ調査における市街地でのカッコウの生息数。シンボルとなる生物として、認識された数の現状維持を目標としています。		

● 計画の目標に対する評価

No.	年度	現状	評価
5	平成 2 3 年度	1 3 8 羽	◎
	平成 2 4 年度	1 4 0 羽	◎
	平成 2 5 年度	1 3 2 羽	◎

現状で目標の生息数を維持しています。

※カッコウ調査とは、カッコウを見たあるいは声を聞いたというアンケートを基に生息数を推計するものです。カッコウはモズやオオヨシキリなどの仮親にヒナを育ててもらおうという習性を持つ鳥であり、カッコウの数を調べることは、他の鳥たちが生息できる環境が保全されているかを見る一つの目安になると言えます。

2.「自然と共に生きる」～豊かな自然環境の保全と創造～

(2)-①動植物の調査・把握

◆希少野生生物保護等啓発事業

〔生活環境課〕

ウェブサイトを通して、希少野生生物の情報を提供するとともに、市内の小学校 6 年の児童の協力を得てホタルマップを作成するなど、希少野生生物に対する意識啓発を実施しました。

(2)-②動植物の生息・生育環境の保全

◆野生鳥獣保護事業

〔営農推進課〕

野生鳥獣の適正な個体数の管理及び農林水産業・人的被害防止のため、有害鳥獣の捕獲を許可し、野生鳥獣の適正管理に努めました。

○捕獲許可件数

・市の許可数 99 件、県の許可 30 件 合計 129 件

◆都市基盤河川改修事業[再掲]

別記 3-(4)-② (P 5 0) 参照

(2)-③情報の提供

◆愛鳥週間の推進

〔生活環境課〕

ウェブサイトにおいて愛鳥週間の普及啓発を図るとともに、郡山市の鳥であるカッコウについての情報を発信するなど、野生の鳥類を大切にする愛鳥思想の啓蒙を図りました。



◆希少野生生物保護等啓発事業[再掲]

別記 2-(2)-① (P 3 4) 参照

◆特定外来生物に関する啓発

〔生活環境課〕

特定外来生物による生態系への被害を防止するため、啓発用ポスターを掲示する等、啓発を実施しました。

(3)環境保全型農業の推進

本市において、農業は地域経済を支える重要な産業であると同時に、農地は良好な緑地空間となることや保水、地下水かん養、多様な動植物の生息・生育環境となるなどの多面的機能を有していることから、農地の適切な管理や、化学肥料・化学農薬の適正使用、堆肥など有機性資源の有効利用による土づくりなどを推進し、自然環境に配慮した持続性の高い農業を目指します。

No.	環境指標	目標	目標年度
6	エコファーマー認定者数	600人	平成29年度
堆肥等による土づくりと、化学肥料・化学農薬の低減などを一体的に行うなど、持続性の高い農業生産方式を導入し、都道府県知事の認定を受けた環境にやさしい農業者（エコファーマー）の増加を推進しています。			

● 計画の目標に対する評価

No.	年度	現状	評価
6	平成23年度	697人	◎
	平成24年度	525人	○
	平成25年度	507人	△

エコファーマー認定者数は、震災の影響等もあり減少傾向にあります。今後も環境にやさしい未来型農業の推進を図るため、農業関係イベントでのPRや新規就農者への呼びかけに力を入れていきます。

2.「自然と共に生きる」～豊かな自然環境の保全と創造～

(3)-①農地の保全と多面的機能の維持

◆農業振興地域整備促進事業

〔農政課〕

農業振興地域整備計画の管理を通じ、農地の維持保全と無秩序な廃防止等を図るため、年3回（4月、8月、12月）一般管理による農用地利用計画の変更を行いました。

重要変更 32件 19725.40 m²
軽微な変更 3件 986.27 m² 計 35件 20711.67 m²
《農業振興地域の概要》（平成25年12月1日現在）
農業振興地域 41,656ha（内 農用地区域 15,547ha）

◆中山間地域等直接支払事業

〔農政課〕

中山間地域等における水源かん養等の多面的機能の保全を目的として、生産条件不利地域の集落のうち対象となる農地の面積に応じた交付金を交付し、農地の保全及び農業生産活動の維持発展を図りました。

[対象集落数] 29集落（農地保全活動等参加農家数 918名）
[対象面積] 6,529,888 m²
[交付金額] 74,871千円
[活動内容] 農用地の維持管理（耕作放棄地の発生防止）
農業用水路等の維持管理
集团的サポート型集落協定（一部）

◆農業参入者支援事業

〔農政課〕

都市部で開催される就農相談会等に参加し、都市部在住の就農希望者へ就農情報を提供しました。

◆耕作放棄地調査・復旧対策事業

〔農政課〕

平成21年度に実施した耕作放棄地全体調査結果を基に、郡山市農業再生協議会と連携し、将来的な耕作放棄地の解消と有効利用に向けた方策を検討しました。

◆風の高原フラワープロジェクト

〔農政課〕

景観形成作物の作付けを行い、布引高原の農業と観光の連携による地域活性化を図り、市民参加型農業体験を再開しました。

<景観形成作物栽培>
[実施面積] 13ha
[作付け作物] 夏咲き ヒマワリ、コスモス
春咲き 菜の花、ヒナゲシ、ライ麦
<農業体験>
[内 容] ダイコン・キャベツの作付及び収穫の体験
[参加者数] 412人

◆農地・水保全管理支払交付金

〔農地林務課〕

地域の農業者や非農業者が行う、農地、農業用水等の資源及び農村環境を守るための取り組みについて支援しました。

・共同活動
[活動組織数] 44組織
[対象農用地面積] 309,143a（内訳：水田 241,836a、畑 66,496a、草地 811a）

2. 「自然と共に生きる」 ～豊かな自然環境の保全と創造～

(3)-②廃棄物の利活用の推進

◆畜産環境衛生対策事業

〔営農推進課〕

家畜のふん尿処理における現況調査、堆肥化技術指導の実施と、堆きゅう肥の適切な処理と有効利用を進め、悪臭や水質汚濁の発生防止を図りました。また、稲わらやもみがらの有効活用と畜産堆肥との交換による資源循環型の環境にやさしい農業の推進を図るため、堆肥マップを作成し市内全農家へ配布しました。

〔作成部数〕 12,000 部

◆エコファーマー認定推進事業〔再掲〕

別記2-(3)-③ (P 37) 参照

(3)-③環境にやさしい農業の推進

◆エコファーマー認定推進事業

〔営農推進課〕

「持続性の高い農業生産方式」を推進し、「エコファーマー」の認定を受けるための支援を実施しました。

平成 25 年度認定者数：137 人

≪平成 26 年 3 月末現在認定者数≫

507 人



エコファーマー マーク

◆農業センター実証・普及事業

〔営農推進課〕

「持続性の高い農業生産方式」に基づいた実証、試験を行い、農家への技術普及に努めました。

〔実証〕・見本展示野菜のエコ方式生産実証(実証 19 課題)

〔普及〕・現地農家と連携した取り組みによる技術の指導普及

◆農業用使用済みプラスチック適正処理推進事業

〔営農推進課〕

近年の農業分野における被覆栽培化の進展に伴い、多量に排出される農業用使用済みプラスチックの適正処理を推進するため、集積場所を設置し、申込チラシを作成して排出農家の適正処理の啓発に努めるとともに、農協による回収処理の推進を図りました。

・市内処理量 46.97 t (農協)

◆畜産環境衛生対策事業〔再掲〕

別記2-(3)-② (P 37) 参照

◆水環境にやさしい農業推進事業〔再掲〕

別記3-(2)-② (P 46) 参照

3. 「きれいな水を守る」 ～水環境の保全と創造～

(1) 水質の保全と浄化

河川、ため池など本市の豊富な水資源の水質を、私たちは清らかなまま次代に引き継いでいかなければなりません。

そのため、生活排水、事業場排水、肥料・農薬の使用など、さまざまな水質悪化の原因をできるだけ低減し、河川、ため池、地下水など公共用水域の一層の水質の保全と浄化に努めます。

No.	環境指標	目標	目標年度
7	河川のBOD値	全地点で環境基準値以下を維持	平成29年度
	河川水質の汚れ具合を示すBODについて、市内の7地点で「環境基準」（維持することが望ましい基準）が設定されており、全地点で環境基準値以下を維持することを目標とします。 《調査地点》【阿武隈川】 阿久津橋 【五百川】 石筵川合流後 【大滝根川】 阿武隈川合流前 【逢瀬川】 馬場川合流前・幕ノ内橋上流・阿武隈川合流前 【谷田川】 谷田川橋		

● 計画の目標に対する評価

No.	年度	現状	評価
7	平成23年度	全地点で環境基準値以下	◎
	平成24年度	7地点中6地点で環境基準値以下	○
	平成25年度	7地点中6地点で環境基準値以下	○
平成25年度は、調査地点7地点中6地点で環境基準値以下を維持しています。しかし、前年度よりも数値が悪化した地点もあることから、今後も引き続き水質の保全・浄化に努め、全地点での環境基準値以下を目指します。			

3.「きれいな水を守る」～水環境の保全と創造～

(1)-①水質調査の実施

◆公共用水域水質調査

〔環境保全センター〕

水質汚濁防止法に基づき、市内を流れる河川及び湖沼の水質汚濁状況を監視するため、福島県との協議により水質測定計画を作成し、水質調査を実施するとともに、独自調査も併せて実施しました。

- ・水質測定計画によるもの 1 湖沼 3 地点、10 河川 12 地点
- ・独自調査によるもの 2 湖沼 8 地点、4 河川 4 地点、湖水浴場 7 地点
- ・調査実施回数（水質測定計画によるもの）

猪苗代湖	年 8 回
逢瀬川、大滝根川、谷田川	年 12 回
五百川、舟津川、菅川、常夏川、笹原川	年 6 回
桜川、藤田川、亀田川	年 4 回

【平成 25 年度水質調査結果表】

水系	水域名	調査地点	環境基準 [mg/l] (COD または BOD)	調査結果
阿賀野川	猪苗代湖	浜路浜	COD 3 以下	1.4
		舟津港	COD 3 以下	1.2
		青松浜	COD 3 以下	1.2
	舟津川	舟津橋	設定なし	0.5
	菅川	三浜橋上流	設定なし	0.5
	常夏川	大作橋上流	設定なし	0.5
阿武隈川	阿武隈川	阿久津橋	BOD 3 以下	1.3(国交省速報値)
	五百川	石筵川合流後	BOD 2 以下	0.9
	逢瀬川	馬場川合流前	BOD 2 以下	0.9
		幕ノ内橋上流	BOD 3 以下	2.1
		阿武隈川合流前	BOD 5 以下	2.6
	大滝根川	阿武隈川合流前	BOD 2 以下	1.5
	谷田川	谷田川橋	BOD 2 以下	2.1
	桜川	小泉橋	設定なし	2.4
	藤田川	阿武隈川合流前	設定なし	3.5
	亀田川	逢瀬川合流前	設定なし	2.1

備考;BOD(河川)及びCOD(湖沼)の評価は、環境省の定める方法によります。(75%値※)

◆休廃止鉱山調査

〔環境保全センター〕

公共用水域の水質を保全するため、休廃止鉱山から排出される鉱水の継続調査を行いました。

- ・松井鉱山、高玉鉱山 年 1 回

調査結果では、下流において影響は認められませんでした。

(道路崩落により高旗鉱山からの排出鉱水は調査できませんでした。)

(1)-②水質浄化対策

◆特定事業場等調査(水質)

〔環境保全センター〕

公共用水域の水質を保全するため、水質汚濁防止法に規定される特定事業場及び福島県生活環境保全等に関する条例に規定されている排水指定事業場等への立入調査及び改善指導等を実施しました。

【平成 25 年度届出状況】

届出の種類	特定事業場	排水指定事業場
設置届出	25 件	1 件
構造等変更届出	18 件	3 件
使用届出	0 件	0 件
氏名等変更届出	39 件	1 件
承継届出	3 件	0 件
使用廃止届出	19 件	1 件

◆下水道等普及促進事業

〔下水道総務課〕

水質汚濁を防止し、安全で快適な生活環境を確保するため、下水道の整備区域における早期接続を促進するための各種普及促進活動を実施しました。

◇各イベントでの普及啓発の実施

- ・「人・環境フェスタ in 郡山 2013」平成 25 年 10 月 6 日（日）郡山カルチャーパーク
- ・「みんなの生活展」平成 25 年 10 月 18 日（金）～20 日（日）郡山市総合体育館 柔道場
- ・「湖南町文化祭」平成 25 年 11 月 2 日（土）サンサングリーン湖南において、下水道相談コーナーの設置及び啓発用品の配布を行い、普及促進に努めました。

◇普及訪問活動

- ・下水道等未接続世帯訪問件数
公共下水道地区：4,505 件 農業集落排水地区：456 件 計 4,961 件

◇融資あっせん実行数

- ・公共下水道：26 件 農業集落排水：0 件 計 26 件

◆公共下水道汚水施設整備事業

〔下水道建設課〕

公衆衛生の向上及び阿武隈川水系に係る公共用水域の水質改善を目的として、公共下水道の整備を行いました。

◇平成 25 年度整備面積 16ha

《平成 25 年度までの整備状況》

年 度	整備済面積	処理人口普及率
平成 21 年度	4,283ha	70.1%
平成 22 年度	4,341ha	70.7%
平成 23 年度	4,378ha	70.8%
平成 24 年度	4,385ha	70.2%
平成 25 年度	4,401ha	70.3%

3. 「きれいな水を守る」 ～水環境の保全と創造～

◆郡山市県中流域関連汚水処理事業

〔下水道総務課〕

本市を貫く阿武隈川は、流域面積約 5,405k m²（福島県分 4,080k m²）、延長 239km（福島県分 181km）で、その流域では、福島市、郡山市をはじめとする 11 市町村、県総人口の半分以上の人々が生活しており、人口、産業の集中が著しいため、河川の水質悪化が近年顕著になっています。阿武隈川流域の県中地域 3 市 2 町における広域的な下水道整備のため、流域下水道建設及び維持管理に要する経費を負担しました。

- ・水処理施設改築更新
- ・年間処理水量：26,969,023 m³

《平成 25 年度までの整備状況》

- ・管渠工 県中幹線 37.0 km 処理場 水処理施設能力 142,800 m³/日最大

◆新・合流式下水道緊急改善事業

〔下水道建設課〕

河川等の公共用水域の水質保全及び合流式下水道区域内の浸水被害軽減を図るため、合流式下水道改善事業を実施しました。

- ・3 号幹線増補管関連管渠
- ・雨水ポンプ改築

《平成 25 年度までの整備状況》

- ・流域下水道への接続 ・3 号幹線増補管布設 ・3 号幹線増補管関連管渠
- ・沈砂地の改築 ・処理施設改修（簡易処理施設へ改築） ・中央監視装置改築
- ・受変電設備改築 ・ポンプ棟改築 ・簡易処理ポンプ改築 ・雨水ポンプ改築

◆浄化槽設置整備事業

〔下水道総務課〕

公共下水道等の未整備地域についても快適な生活環境を確保し、公共用水域等の水質保全を図るため、合併処理浄化槽の設置に対する補助を行い、設置を促進しました。

【平成 25 年度補助状況】

	区分	5 人槽	6～7 人槽	8～10 人槽	計
補助限度額 (千円)	転換以外	124	155	205	
	単独処理浄化槽からの転換	332	414	548	
	汲み取り便槽からの転換	373	465	616	
	〃（窒素リン除去型）	973	1,273	1,764	
補助基数 (基)	転換以外	126	90	6	222
	単独処理浄化槽からの転換	2	24	5	31
	汲み取り便槽からの転換	20	20	0	40
	〃（窒素リン除去型）	0	1	0	1

合計 294 基

《平成 25 年度までの補助基数累計（平成 5 年～）》

補助基数 5,545 基

※「浄化槽」とは、トイレ排水や台所・風呂・洗濯及び洗面などの生活雑排水を微生物のはたらきを利用して処理し、きれいな水にして放流する施設です。大きく分けて以下の 2 つがあります。

単独処理浄化槽：トイレ排水のみを処理する浄化槽

合併処理浄化槽：トイレと台所・風呂など生活雑排水を合わせて処理できる浄化槽

3.「きれいな水を守る」～水環境の保全と創造～

◆浄化槽維持管理費補助事業

〔下水道総務課〕

合併処理浄化槽の使用者等の負担軽減を図るため、浄化槽の故障や清掃の時期を調べる保守点検、浄化槽に溜まった汚泥を汲み取る清掃及び浄化槽法で定められている 11 条検査に対する補助を行いました。

◇平成 25 年度補助状況

人槽区分	5～7	8～10	計
補助金額（千円）	15	20	
補助基数（基）	1,989	105	2,094

≪平成 25 年度までの補助基数累計（平成 12 年～）≫

人槽区分	5～7	8～10	計
補助基数(基)	16,296	2,939	19,235

◆浄化槽維持管理PR事業

〔下水道総務課〕

浄化槽の維持管理と法定検査に関する意識の向上を図るため、使用者等へPRパンフレットを送付するとともに、保守点検業者の質の向上を図るため講習会を開催しました。

- ・浄化槽維持管理PRパンフレット送付：3,407 件
- ・保守点検業者講習会：参加業者 61 社

◆単独から合併処理浄化槽への転換促進事業

〔下水道総務課〕

喜久田町、日和田町及び熱海町において、単独処理浄化槽及び汲取り便槽から合併処理浄化槽への転換の際の補助制度について回覧板を用いて周知しました。

- ・補助制度周知件数：900 件

◆「はじめて使う浄化槽」セミナー事業

〔下水道総務課〕

新たに合併処理浄化槽を設置した管理者を対象に、浄化槽の役割、機能及び維持管理の必要性を理解してもらうため、セミナーを開催しました。

- ・セミナーの開催：回数 6 回、総参加者数 181 人

◆生活排水対策講座

〔生活環境課〕

河川の汚れの主な原因が生活排水であることから、きらめき出前講座及びどこでも環境教室などにより生活排水対策の必要性について啓発を行いました。

- ・実施回数 5 回、受講者数 337 名

(1)-③広域的な連携

◆三春ダム維持管理協議会

〔政策調整課〕

三春ダムの適正な維持管理及び水質の保全を図ることを目的とし、会員市町村内で情報交換等各種活動を行いました。

構成団体：三春町（会長）、郡山市、二本松市、田村市、本宮市

◇「三春ダム維持管理協議会総会」

〔日時〕 平成 25 年 8 月 8 日

〔場所〕 三春ダム管理所

〔内容〕 平成 25 年度事業報告・収支決算報告、平成 26 年度事業計画・収支予算等

3.「きれいな水を守る」～水環境の保全と創造～

◇「さくら湖流域ネットワーク総会」

[日時] 平成26年2月25日

[場所] 三春交流館まほら

[内容] 基調講演等

◆大滝根川流域生活排水対策推進協議会

[生活環境課]

大滝根川流域が生活排水対策重点地域に指定されたことに伴い流域市町が協議会を設置し、各市町において、生活排水対策を行いました。

◇生活排水対策啓発事業

ゴムベラ及び啓発用チラシを各種イベントにおいて配布

◆阿武隈川サミット実行委員会

[生活環境課]

阿武隈川をよく知り、川との共生をめざしながら、流域それぞれの実態に即した治水・利水計画との調和を図り、河川環境保全を推進するため、福島県・宮城県内の阿武隈川沿いの22自治体が連携し、良好な河川環境を貴重な遺産として次世代に伝えていく取り組みを行いました。

Pickup

節水・水有効利用の推進(率先行動計画)

郡山市では、市が自ら一事業者として市民・事業者にも率先して環境負荷の低減に取り組むため「第四次環境にやさしい率先行動計画」を策定し、省エネ等に率先して取り組んでいます。その中で限りある水資源の有効利用を推進するために水道使用量の削減に取り組んでいます。

	平成24年度	平成25年度	削減率(%)
水道使用量(m ³)	855,377	803,088	6.1

大幅削減!

(2)猪苗代湖の保全

豊かな自然に恵まれた良好な水環境のシンボリック的存在でもある「紺碧の猪苗代湖」の水環境の悪化を未然に防止し、美しいままに将来の世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた重大な使命です。

そのため、県や周辺市町村などと連携し、猪苗代湖の水環境保全対策を総合的かつ計画的に推進します。

No.	環境指標	目標	目標年度
8	湖心の水質測定値 COD (mg/l) 全窒素 (mg/l) 全りん (mg/l)	0.50 以下 0.20 以下 0.003 以下	平成29年度
9	湖南岸部（湖南地区）の 水質測定値 COD (mg/l) 全窒素 (mg/l) 全りん (mg/l)	1.0 以下 0.20 以下 0.005 以下	平成29年度

水の汚れ具合を示すCOD、全窒素、全りんについて、良好な水質を長期的に保つため、改善・維持することを目標とします。目標の設定にあたっては、福島県策定の「猪苗代湖及び裏磐梯湖沼水環境保全推進計画」との整合を図ります。なお、目標値の変更があった場合には、その目標値によるものとします。

● 計画の目標に対する評価

年 度	環境指標	湖心の水質測定値		湖南岸部（湖南地区）の水質測定値	
		現 況	評 価	現 況	評 価
平成23年度	COD	1		1.1	
	全窒素	0.22	△	0.23	△
	全りん	0.004		0.005	
平成24年度	COD	1		1.3	
	全窒素	0.25	△	0.24	△
	全りん	0.003		0.012	
平成25年度	COD	1.3		1.2	
	全窒素	0.23	△	0.24	△
	全りん	0.006		0.006	

各項目において、目標の基準を下回っています。今後もより一層公共下水道の整備や高度処理浄化槽への転換など流入河川流域の排水対策等を推進していくとともに、近隣自治体等と広域的な連携を図りながら水質の浄化に努めていきます。

3.「きれいな水を守る」～水環境の保全と創造～

(2)-①水質の調査・研究

◆猪苗代湖の水質保全調査

〔環境保全センター〕

猪苗代湖の水質を保全するため、湖水の透明度低下要因、pH 上昇関与物質、富栄養化現象の動向とその結果増加するプランクトン量、湖内生産量増加要因物質等の調査を実施しました。

◇調査実施内容

・猪苗代湖水質調査

調査地点：猪苗代湖（湖心、浜路浜、舟津港、青松浜）

調査項目：透明度、窒素、りん、鉄、マンガン、イオンバランス（陰イオン、陽イオン）等

・湖内生産量調査 調査項目：プランクトン、クロロフィル a

≪猪苗代湖の pH≫

水質汚濁防止法に基づき、猪苗代湖の水質汚濁状況を監視するため、福島県との協議により水質測定計画を作成し、水質調査を実施しました。

・調査地点：浜路浜、舟津港、青松浜 ・調査回数：4月から11月まで8回実施

【猪苗代湖水質調査結果】

調査地点	pH				
	H21	H22	H23	H24	H25
浜路浜	6.8	6.8	6.8	6.9	6.8
舟津港	6.8	6.8	6.8	6.9	6.8
青松浜	6.8	6.8	6.8	6.9	6.8

(2)-②水質・周辺環境対策

◆特定環境保全公共下水道整備事業

〔下水道建設課〕

湖南地区の美しい自然と生活環境を守ることはもとより、本市の重要な水道水源及び観光資源となっている猪苗代湖の水質保全に努めるため、公共下水道の整備を推進しました。

◇整備面積 12.2ha

≪平成25年度までの整備状況≫

全体計画面積	整備済面積	整備率
180ha	144.5ha	80.3%

◆猪苗代湖岸環境美化事業

〔生活環境課〕

本市、会津若松市及び猪苗代町で構成する猪苗代湖環境保全推進連絡会において、猪苗代湖岸の環境美化を図るため、次の事業を行いました。

◇ビーチクリーナーによる砂浜清掃

〔実施期間〕平成25年4月1日～11月30日

〔実施箇所〕猪苗代湖各浜（13浜）

〔実施状況〕延べ42日（会津若松市4日、郡山市8日、猪苗代町30日）

（本市の清掃砂浜：横沢浜、館浜、舟津浜、青松浜、秋山浜）

◇猪苗代湖岸一斉クリーンアップ作戦

〔実施状況〕郡山市（舟津浜、8月4日）市民 29名 収集ごみ約 45.0kg

猪苗代町（上戸浜、8月4日）町民 141名 収集ごみ約1180.0kg

会津若松市（崎川浜、8月4日）市民 38名 収集ごみ約 37.8kg

※このほか、年間を通して県内のボランティア団体や企業等の様々な団体により湖岸清掃が行われています。

◆猪苗代湖の水を守りたい事業[再掲]

別記5－(1)－②(P85)参照

◆水環境にやさしい農業推進事業

〔営農推進課〕

猪苗代湖の良好な水環境を保全するため、適切な施肥及び水管理についての啓発を行うことにより、農用地からのりん及び窒素の含有物、稲わら、刈り取った雑草等の流出抑制に努めました。

(2)-③適切な利活用の推進

◆猪苗代湖岸施設整備事業

〔観光物産課〕

湖水浴場及びキャンプ場等の利便性や利用客の安全性等を確保し、観光地のイメージアップ及び観光誘客を図るため、トイレやキャンプ施設、駐車場の整備を行いました。

- ・ 駐車場にごみ箱を設置し、湖水浴場開設期間中は毎日回収
- ・ 湖水浴場のごみ箱付近に、ごみの分別・持ち帰り啓発用のパネルを掲示

◆屋外広告物規制による良好な景観形成の推進[屋外広告物許可制度:再掲]

別記4－(4)－③(P75)参照

(2)-④広域的な連携

◆猪苗代湖環境保全推進連絡会による取り組み

〔生活環境課〕

猪苗代湖の環境及び水質保全対策を総合的に推進するため、平成13年に本市、会津若松市及び猪苗代町により設立されたもので、次の事業を行いました。

- ◇ビーチクリーナーによる砂浜清掃
- ◇猪苗代湖岸一斉クリーンアップ作戦
- ◇子ども交流会

〔開催日〕平成25年11月15日

〔開催場所〕猪苗代町体験交流館 学びいな(猪苗代町)

〔内 容〕猪苗代湖を囲む小学校児童の環境活動発表などを行いました。(参加者237名)

- ◇猪苗代湖に関連するイベントでの啓発
啓発グッズ750セットを購入し、各種イベント等において配布・啓発を行いました。
- ◇ビーチクリーナーによる水草回収

〔内 容〕水質汚濁の要因のひとつとなる漂着水草をビーチクリーナーで回収しました。

◆猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会による取り組み

〔生活環境課〕

猪苗代湖及び裏磐梯湖沼流域の水環境保全対策を積極的に推進し、猪苗代湖及び裏磐梯湖沼水環境保全推進計画に寄与することを目的として、平成12年11月に設置されたもので、次の各種事業を行いました。

《構成会員》 福島県、周辺市町村、民間団体及び個人

- ◇「県民参加による猪苗代湖のボランティア清掃」
平成25年6月29日猪苗代湖舟津浜(郡山市)にて開催(参加者430名)
- ◇水環境保全推進員活動

水環境保全推進員の委嘱による巡回等活動(委嘱数:21人)

- ◇その他、会報誌の発行、湖美来基金による湖美来クラブ運営、水環境保全活動の支援事業、他団体等が実施するイベント等への後援、参加等を行いました。

◆清らかな湖、美しい猪苗代湖の水環境研究協議会による取り組み

〔生活環境課〕

「清らかな湖、美しい猪苗代湖」の水質日本一の復活を目指し、猪苗代湖の美しい水環境を次世代に伝えていくために、猪苗代湖の水環境についての調査研究や水草回収等の実践活動を行いました。

(3)水資源の確保と水の有効利用

自然が持つ本来の保水能力の保全のため、水源かん養林・農地の保全や雨水浸透を推進するとともに、雨水貯留の推進や節水などにより水資源を有効に利用し、良好な水循環の保全に努めます。

No.	環境指標	目標	目標年度
10	1人1日当たりの節水量	120節水 (使用量3300)	平成29年度
	シャンプーを流すときだけでなく、髪を洗っている間、シャワーを1分間出しっぱなしにしていると、120の水が流れてしまうといわれます。日常生活での節水を心がけ、1人1日当たりの水道使用量(=3420：H19年の使用量)を基準とし、1日1分間120の削減を目指します。		

● 計画の目標に対する評価

No.	年度	現状	評価
10	平成23年度	10節水 (使用量3410)	△
	平成24年度	40節水 (使用量3380)	△
	平成25年度	60節水 (使用量3360)	○

平成25年度も目標値には達しておりませんが、震災以降使用量の削減は進んでいるため、このままの推移で節水が進めば目標年度での達成は十分可能と考えます。今後も節水意識の啓発に努めます。

(3)-①地下水かん養機能の確保

◆分収造林事業[再掲]

別記2-(1)-①(P30)参照

◆水源林再生支援事業

[農地林務課]

森林主伐後の水源かん養、災害防止など「森林の持つ公益的機能」を保全するための再造林の実施に対し補助を行いました。

[事業内容] 補助対象面積 4.3ha

[事業費] 4,300,000円

◆郡山市有林管理事業[再掲]

別記2-(1)-①(P30)参照

◆市有施設建設事業(雨水浸透・透水性舗装の導入)

[建築課]

屋外整備工事において、雨水等が土壤に浸透しやすい透水性舗装を採用し、水循環の保全を推進しています。なお、平成25年度の実績はありませんでした。

(3)-②水資源の有効利用

◆節水・水有効利用の推進(第四次環境にやさしい郡山市率先行動計画推進事業)[生活環境課]

行政が自ら一事業者として市民・事業者にも率先して環境負荷の低減に取り組むための行動計画に基づき、水道使用量の削減に取り組みました。平成25年は一部の施設では使用量が増加しているものの、節水意識の徹底が浸透してきていることなどから、全体の使用量は減少しました。

【平成25年度水道使用量】

水道使用量[m ³]		平成21,25 年度比[%]
平成21年度	平成25年度	
845,882	803,088	-5.1

◆雨水流出抑制施設整備促進事業[再掲]

別記4-(4)-④(P76)参照

(3)-③規制・指導

◆地盤沈下対策

[環境保全センター]

良好な水循環の確保を図るため、県条例に規定される一定規模を有する揚水設備の設置届出時において適正揚水量の指導を行いました。

◇福島県生活環境の保全等に関する条例第55条に基づく届出

(吐き出し口の断面積 21cm²を超える設備)

・平成25年度設置届出：1件

《平成25年度末までの届出状況》

届出事業場数：35(施設数：92)

(4) 身近な水辺の保全と創造

水とふれあう場や親しみある水辺空間の整備・活用に努めるとともに、河川改修などにおいては、多自然性護岸を積極的に取り入れるなど、自然に配慮した水辺の保全と創造に努めています。

No.	環境指標	目標	目標年度
11	多自然工法による 河川等の整備延長	7.0 km	平成29年度
準用河川における多自然工法での護岸等の整備延長。自然に配慮した水辺の保全・再生を図ります。			

● 計画の目標に対する評価

No.	年度	現状	評価
11	平成23年度	3.3 km	△
	平成24年度	3.3 km	△
	平成25年度	3.5 km	△

台風等の自然災害が増える状況のなか、河川等の改修においては、防災面を優先し環境に配慮した改修に重点を置くことは難しい状況もありますが、今後も自然環境保全にも配慮した河川整備を推進していきます。

(4)-①水と親しめる空間の創造

◆**総合治水対策事業(愛宕川調節池整備事業)**

〔河川課〕

池周辺の浸水被害の軽減と周辺の環境整備を図るため、準用河川愛宕川流域内に位置する善宝池を、親水性を兼ね備えた洪水調節池として整備を進めています。なお、平成 25 年度の整備実績はありませんでした。

◆**水辺空間整備事業**

〔河川課〕

各々の河川が持つ、歴史、風土、自然環境を十分に尊重した有効な水辺空間の保全と利用を考え、「水と緑あふれる水辺空間」を住民と一体となり創出するため整備を進めています。

- ・河川愛護団体報奨金：51 団体
- ・河川環境保全事業：花苗配布
[事業費]12,650,000 円

◆**五十鈴湖水質浄化事業**

〔公園緑地課〕

開成山公園五十鈴湖について、井戸水のみ流入による水質状況の調査及び経過観測を行いました。

(4)-②環境に配慮した護岸の整備

◆**都市基盤河川改修事業**

〔河川課〕

河川狭小と流域内の急激な都市化により、著しく低下している治水安全度を高めるため、河川改修を行うとともに、親水性や河川の自然環境に配慮することにより、市民が“憩い”と“うるおい”を感じる川づくりを進めています。

[対象河川] 一級河川 南川

[事業内容] 鉄道施設支障物移転及び函体工事

◆**河川改修事業**

〔河川課〕

水生植物を育み水辺環境の保全を回復するため、河川改修において従来のコンクリート護岸ではなく自然石を利用した多自然護岸を採用しました。

- ・準用河川：徳定川、愛宕川、荒川
- ・普通河川：大槻川、仲川、栗川、根柄川

◆**水辺空間整備事業[再掲]**

別記 3 - (4) - ① (P 5 0) 参照

(4)-③保全活動の推進

◆**河川クリーンアップ作戦**

〔河川課〕

ふるさとの川や海の環境美化作業を通じて、河川・海岸に対する愛護意識のより一層の普及を目指し、「河川・海岸愛護月間」である 7 月の第一日曜日を「河川愛護デー」として、県内の河川・海岸において県民総参加のもとに環境美化活動（クリーンアップ作戦）を実施しています。

- ・東日本大震災の影響により、福島県は昨年度と同様、県内一斉の実施を見合わせましたが、郡山市は地域住民の要望等もあり、7 月 7 日（日）に実施しました。

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」 ～快適な生活環境の確保と創造～

(1) 廃棄物対策

「大量生産・大量消費・大量廃棄型社会」から「循環型社会」へと転換を図ることが求められています。そのため、廃棄物（一般及び産業廃棄物）を適正に処理するという考え方だけではなく、廃棄物の減量化や資源の有効利用に取り組みます。

No.	環境指標	目標	目標年度
12	1人1日当たりの ごみ排出量	990g	平成29年度
13	リサイクル率（家庭系）	24.0%	平成29年度

市の施設で処理したごみの量をもとに、市民1人1日当たりのごみの排出量を算出し、市全体でごみ減量を目指します（集団資源回収量とあわせ産廃量を除く）。また、リサイクル率（家庭系） $[\text{資源物として回収した量} + \text{破砕回収金属} + \text{集団資源回収}] \div (\text{家庭系ごみ量} + \text{集団資源回収})$ の向上を目指します。

● 計画の目標に対する評価

年 度	1人1日当たりのごみ排出量		リサイクル率（家庭系）	
	現 況	評価	現 況	評価
平成23年度	1,360g	△	18.97%	△
平成24年度	1,489g	△	19.41%	△
平成25年度	1,447g	△	20.09%	△

家庭系ごみのリサイクル率は、向上していますが、計画よりは低い水準となっています。また、ごみ排出量も、震災以降増加傾向にありましたが、平成25年度は減少に転じました。今後も積極的な3Rの推進やごみの減量に関する施策の推進など、目標達成に向けた取り組みを進めていきます。

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」 ～快適な生活環境の確保と創造～

(1)-①意識啓発

◆廃棄物排出量の削減（第四次環境にやさしい郡山市率先行動計画推進事業） [生活環境課]

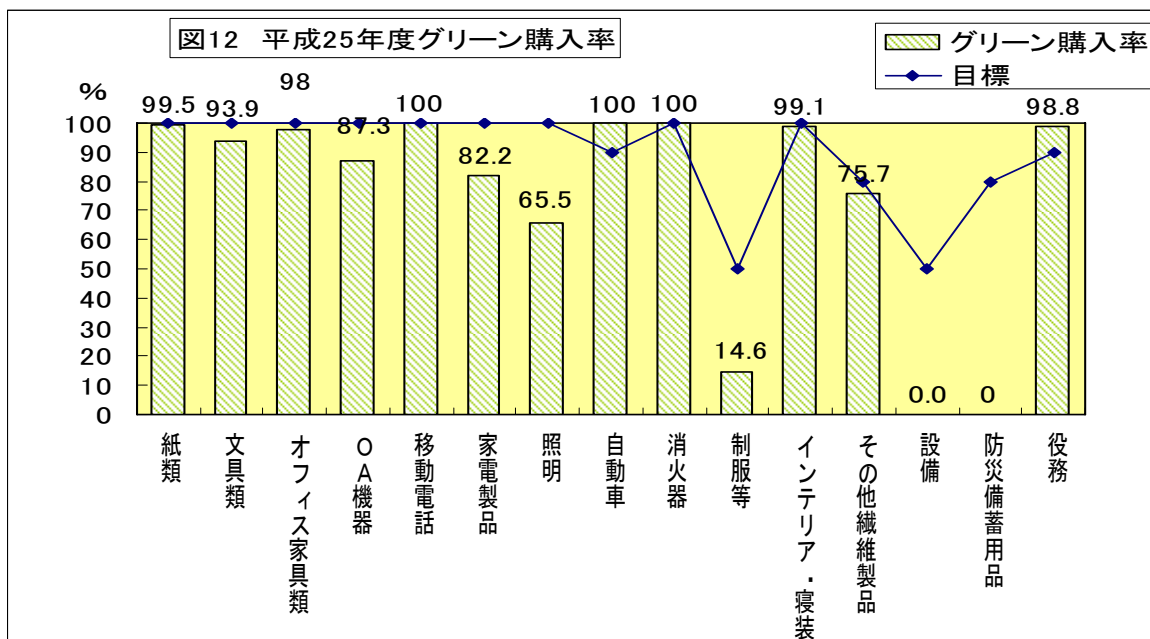
行政自らが一事業者として市民・事業者にも率先して環境負荷の低減に取り組むための行動計画に基づき、廃棄物排出量の削減に努めました。なお、平成 25 年度は震災以降の業務増加に伴い用紙等の使用量が増加したことにより廃棄物排出量も増加しました。

【廃棄物排出量】

種 別	廃棄物排出量[t]		平成 21,25 年度比[%]	
	平成 21 年度	平成 25 年度		
合 計	1,236	1,658	+34.1	
内 訳	可燃ごみ	1,179	1,467	+24.4
	不燃ごみ	57	191	+235.1
(参考)資源物	107	137	+28.0	

◆グリーン購入の推進(第四次環境にやさしい郡山市率先行動計画推進事業) [生活環境課]

地球上の限りある資源（エネルギー、金属、森林など）を有効に活用し、資源の循環利用を図るなど地球への負担を最小限に抑えるため、平成 25 年度郡山市環境物品等の調達方針に基づき、15 分野 111 品目について調達目標を設定し、環境への負荷ができるだけ小さいものを優先的に購入する「グリーン購入」を推進しました。



◆教育施設生ごみ再利用処理機設置事業 [学校管理課]

ごみの減量化・リサイクル意識の高揚を図るため、学校給食から排出される野菜屑、残さ等をコンポスト化（肥料）し、環境教育及び情操教育の一環として花壇などに有効活用しました。

- ・機器の老朽化のため2台更新（桑野小学校、桜小学校）
- ・設置施設：自校給食実施小中学校及び共同調理施設 62 施設

4.「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～

◆家庭系ごみ減量推進事業

〔清掃課〕

町内会等のごみ出し対話集会の実施をはじめ、広報誌、ウェブサイト等に啓発記事を掲載し、ごみ減量の協力を呼びかけました。

- ・対話集会実施回数 9回
- ・広報誌等掲載回数 19回

◆事業系ごみ減量推進事業

〔清掃課〕

ごみ集積所に事業系ごみを排出した事業者に対し、ごみの適正処理について指導・助言を行いました。

- ・事業者に対する指導・助言件数 7件

◆集団資源回収報奨金制度[再掲]

別記4-(1)-②(P56)参照

◆環境浄化推進委員制度[再掲]

別記4-(1)-②(P55)参照

◆市民総ぐるみクリーンこおりやま運動

〔清掃課〕

美しいまち、美しい自然を保全し快適な生活環境を築くとともに、ごみのポイ捨て防止と資源再利用の意識高揚を図るため、道路、公園、公共施設等の周辺に捨ててある空き缶、空きびん、紙くずなどの収集を市民が一丸となって実施しました。

- ・第1回 6月2日(日) 収集量: 136.77t
- ・第2回 10月6日(日) 収集量: 126.85t

◆木戸前清掃

〔清掃課〕

平成8年6月から、毎月1日の朝、全市一斉に市民及び事業者が、それぞれの家、商店及び事業所などの出入口や玄関先(木戸前)を清掃することで、散乱ごみに対する意識の啓発を行っています。

◆アイラブロード事業

〔道路維持課〕

地域の皆様に、自らの地域道路の清掃活動をボランティアとして協力いただき、市民の活動を支援しました。

- ・平成25年度新規加盟団体 2団体

◆クリーンフェスティバル

〔清掃課〕

「ごみ減量・リサイクル推進週間」及び「環境月間」に合わせクリーンフェスティバルを開催し、「ごみの減量とリサイクル」、「きれいなまちづくりと環境保全」に対する市民の意識高揚を図りました。

◇「ごみゼロの日」ポイ捨て等防止啓発キャンペーン

日時: 5月30日(木)

場所: JR郡山駅西口駅前中央広場及びその周辺

内容: ポイ捨てごみの回収並びに街頭啓発活動を行う予定でしたが、雨天のため中止となりました。

◇ごみ処理施設見学バスツアー

日時: 7月4日(木)

場所: 富久山クリーンセンター

内容: ごみ処理施設の見学会を実施しました。(参加者: 72名)

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～

- ◇「ごみをなくそう！ぼく、わたしの提言」作文・ポスター・標語コンクール
内容：「3R」をテーマとして、市内の小学生から作文・ポスター・標語を募集し、優秀作品を表彰しました。（応募作品数：278 作品）
- ◇リサイクルを考えるステージ
日時：10月19日（土）
場所：イトーヨーカドー郡山店
内容：郡山女子短大生による廃棄物を利用した子ども向けの人形劇や楽器の演奏及びポイ捨て防止、ごみ減量、リサイクル、分別収集についての PR トーク並びにリサイクル対象の資源物の展示などを行いました。

◆出前講座「わたしたちとごみ」の実施

〔清掃課〕

きらめき出前講座及びどこでも環境教室により、ごみの減量やリサイクル、まち美化に係わる取り組みについて説明を行い、ごみ問題に関しての理解と協力を求めました。

- ・実施回数 5 回、受講者数 142 名

◆優良廃棄物処理事業者啓発・顕彰事業[再掲]

別記4－(1)－④（P 5 8）参照

◆「わたしたちとごみ」作成・配布事業

〔清掃課〕

子どもたちに郡山市のごみ処理の現状とリサイクルについて学習してもらい、自分たちにもできる取り組みについて知ってもらうため、社会科授業の学習資料として「わたしたちとごみ」を作成し、市内小学校4年生に配布しました。

- ・作成部数： 3,500 部

◆リサイクル図書コーナーの設置

〔中央図書館〕

市民の環境保全に関する意識を高めるため、市民から寄贈された図書によるリサイクル図書コーナーを設置し、図書の再利用を図りました。

合計 3,513 冊

（内訳）4月：199 冊、5月：400 冊、6月：344 冊、7月：359 冊、8月：133 冊、
9月：600 冊、10月：312 冊、11月：240 冊、12月：223 冊、
26年1月：58 冊、2月：135 冊、3月：510 冊

また、昨年に引き続き、蔵書として適さなくなった図書館資料と保存期限の過ぎた雑誌などを広く市民に無償提供し、不要となった図書の有効活用を図るリサイクルブックフェアを、図書館全館（12 館）で実施しました。

◇平成 25 年度実施内容

12 館合計 準備：21,992 冊、譲与：13,016 冊、来場：2,215 人、譲与：1,657 人

(1)-②一般廃棄物処理の適正化

◆粗大ごみリユース(再使用)推進事業

〔清掃課〕

3R 施策の一つであるリユース（再使用）の推進を図るため、粗大ごみの中から使用状態がよく、修理等を要せず現状のままで再使用可能な家具を、希望する市民に無償での提供を行いました。

- ・リユース家具展示会及び申込抽選会の実施回数 4 回
- ・リユースした家具の数 89 点

◆家庭系ごみ減量推進事業[再掲]

別記4－(1)－①（P 5 3）参照

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」 ～快適な生活環境の確保と創造～

◆事業系ごみ減量推進事業[再掲]

別記4-(1)-①(P53)参照

◆分別収集推進事業

[清掃課]

市内各世帯への平成25年度ごみの日カレンダー、ごみの分け方と出し方パンフレットの配布等により、ごみの分け方と出し方について周知徹底を図りました。

【分別の種類一覧(4種13分別)掲載】

4種	13分別
燃やしてよいごみ	燃やしてよいごみ
燃えないごみ	燃えないごみ
粗大ごみ	粗大ごみ
資源物	びん、乾電池、ガスカートリッジ・スプレー缶、アルミ缶・スチール缶、新聞、雑誌、段ボール、紙パック、紙製容器包装、ペットボトル、プラスチック類



ごみの日カレンダー

◆生ごみ減量啓発事業

[清掃課]

(生ごみ処理容器無償貸与事業・電動式生ごみ処理機購入費補助金交付事業)

一般家庭の生ごみ減量化を推進し、併せて再利用及び環境保全に対する意識の高揚を図るため、生ごみ処理容器(コンポスト容器、ボカシ密閉容器)を無償貸与するとともに、電動式生ごみ処理機(家庭用)の購入に対する補助を行い、ごみ減量化を推進しました。

- ・コンポスト容器無償貸与数 224 個
- ・ボカシ密閉容器無償貸与数 124 組
- ・電動式生ごみ処理機購入補助 39 基(補助総額 972 千円)

《平成25年度までの実績》

- ・コンポスト容器無償貸与数 9,071 個(H4～)
- ・ボカシ密閉容器無償貸与数 5,755 組(H7～)
- ・電動式生ごみ処理機購入補助 2,993 基(H12～)

◆環境浄化推進員制度

[清掃課]

不法投棄の未然防止及び不法投棄された廃棄物を早期に発見し対処するための監視体制を構築し、安心して快適な生活環境の整備を図りました。

◇地区住民との連携による監視体制

- ・不法投棄監視員による管内巡回: 25 名(13 地区)
- ・各地区保健委員会環境浄化部(環境浄化推進員)による地区内の監視: 約 700 名

◇企業等との連携による監視体制

多数の外務職員等を擁する企業・団体との不法投棄に関する情報提供の協定の締結

- ・郡山市内 54 郵便局(平成 13 年 8 月 9 日締結)
- ・郡山地区ハイヤータクシー協同組合(平成 14 年 2 月 12 日締結)
- ・市内 21 の各業種組合並びに団体(平成 15 年 9 月 4 日締結)
- ・一般社団法人福島県測量設計業協会県中支部(平成 18 年 11 月 21 日締結)
- ・新聞公正取引協議会福島県支部郡山地区実行委員会(平成 19 年 6 月 29 日締結)

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～

◆**集団資源回収報奨金制度**

〔清掃課〕

再生利用可能な廃棄物の集団回収運動を実施した団体に対して報奨金を交付し、ごみ問題に対する市民意識の高揚と資源の有効利用を図りました。

〔対象品目〕古紙、金属、繊維、びん、その他有価物

〔単 価〕5 円/kg（一律）

〔実施団体数〕561 団体

〔回 収 量〕6,619t（古紙：6,294t、金属類：156 t、繊維：1t、びん：168t）

〔報 奨 金〕33,092,810 円

◆**資源回収業者等報奨金交付制度**

〔清掃課〕

集団資源回収運動を推進するため、市場価格の低落等により資源物が引き取られない状況が生じた場合、資源物を回収する業者等に対し報奨金を交付しています。

〔報奨金〕資源物 1 kgあたり 6 円を限度に交付

◇平成 25 年度実績：なし

◆**一般廃棄物収集運搬業務**

〔清掃課〕

一般廃棄物収集運搬業務の民間委託など、効率的なごみ収集体制の整備を図りました。平成 25 年度は東日本大震災等により処理量及び処理費用が増加しました。

一般廃棄物処理状況（汚泥類を除く） ※小数点以下四捨五入（リサイクル率を除く）

年 度	可燃ごみ	不燃ごみ	資源物	粗大ごみ	合 計	リサイクル率	
						全体	家庭系
平成 25 年度	156,383.82t	5,832.33t	10,411.98t	934.00t	173,562.13t	12.16%	20.09%

※リサイクル率については、事業系ごみからあわせ産業廃棄物処理量を除いた量で算出

ごみ処理量及び処理費用（平成 25 年度） ※小数点以下四捨五入

区 分	処 理 量		処 理 費 用	
	一日当り	一年間当り	一日当り	一年間当り
一人あたり	1,447g	528kg	54 円	19,714 円
一世帯あたり	3,566g	1,302kg	133 円	48,579 円
郡山市全体	476 t	173,562 t	17,746 千円	6,477,266 千円

※人口及び世帯数については、平成 26 年 3 月 1 日現在の数値で算定（人口：328,568 人、世帯数：133,335 世帯）

◆**し尿処理事業**

〔清掃課〕

市民が清潔で快適な生活を営むことができるよう、環境整備の一環として、し尿及び浄化槽汚泥の処理を行いました。

・し尿：12,719kℓ ・浄化槽汚泥：46,692kℓ

◆**清掃施設補修整備事業**

〔清掃課〕

富久山クリーンセンター（衛生処理センターを含む）、河内クリーンセンター、西田埋立処分場及び河内埋立処分場の各清掃施設の機能維持と安全性を確保するため、適正な維持管理・補修を行いました。

4.「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～

◆リサイクル適正化検討事業

〔清掃課〕

リサイクル施設についての調査・検討を行いました。

◆リサイクル図書コーナーの設置[再掲]

別記4－(1)－①(P54)参照

(1)-③公共事業における産業廃棄物対策の推進

◆廃棄物排出量の削減(第四次環境にやさしい郡山市率先行動計画推進事業)[再掲]

別記4－(1)－①(P52)参照

◆グリーン購入の推進(第四次環境にやさしい郡山市率先行動計画推進事業)[再掲]

別記4－(1)－①(P52)参照

◆道路整備事業(産業廃棄物適正処理)

〔道路建設課〕

道路工事により発生する産業廃棄物の適正な処理を行い、快適な都市生活環境の確保と創造を図りました。

・幹線道路新設改良舗装事業、踏切改良促進事業、生活道路改良舗装事業において実施しました。

◆市有施設建設事業(残土有効利用、発生抑制設計)

〔建築課〕

公共施設の建設において、建設現場からの排出残土の発生を抑制し、再資源化や適正処理を推進するための率先的な取り組みとして、大規模建設工事等において、設計段階から発生土の抑制や他の現場の埋戻し土として利活用を図りました。また、解体工事における産業廃棄物は、建設リサイクル法を遵守して適正処理を行いました。

◇再資源化

・杭地業工事において、現場発生土を高含水比建設汚泥リサイクルシステムにより現場で中間処理し、リサイクル土として場内処理しました。

(永盛小学校屋内運動場建設工事)

◇適正処理

- ・公民館の解体工事(1件)
- ・小学校屋内運動場の解体工事(1件)
- ・小学校プールの解体工事(1件)
- ・市営住宅の解体工事(1件)
- ・消防団詰所等の解体工事(1件)
- ・庁舎の解体工事(1件)

◆河川等樹木有効活用事業

〔河川課〕

河川管理で伐採した樹木を薪やガーデニング用材として、市民に無料提供することで、資源の有効活用及び河川維持管理費の縮減を図りました。

・震災原発事故による放射能汚染の影響により事業を休止しました。

◆優良廃棄物処理事業者啓発・顕彰事業[再掲]

別記4－(1)－④(P58)参照

(1)-④規制・指導及び監視体制の充実

◆**ポイ捨て・犬のふん放置防止啓発事業**

〔清掃課〕

ポイ捨て及び犬のふんの放置防止を啓発推進し、市民の快適な生活環境を確保するため、「郡山市ポイ捨て及び犬のふんの放置防止条例」（平成 11 年 4 月 1 日から施行）に基づき、「郡山市ポイ捨て等防止指導員」等による啓発・指導活動を行いました。

◆**マナーリーダー（犬のふん放置防止啓発ボランティア）登録制度**

〔清掃課〕

「マナーリーダー」登録者が市内各地域において犬の飼い主の立場からボランティアによる啓発活動を行いました。

〔登録者数〕 71 人（平成 26 年 3 月 31 日現在）

◆**優良廃棄物処理事業者啓発・顕彰事業**

〔廃棄物対策課〕

廃棄物の適正な処理を推進するために、廃棄物処理事業者や廃棄物排出事業者等を対象に講習会を開催し、廃棄物処理法及び関係法令の内容や適正処理方法について指導研修を行いました。

開催日	対象者	参加人数
10 月 17 日	廃棄物処理事業者等	40 人

また、優良な廃棄物処理事業者の育成を図り、廃棄物の適正な処理に対する事業者と市民の意識を高めるため、特に優良な運営を行っている廃棄物処理事業者の表彰を行いました。

◇平成 25 年度表彰

〔表彰事業者〕一般廃棄物（ごみ）収集運搬業部門	5 事業者	
一般廃棄物（し尿）収集運搬業部門	2 事業者	
産業廃棄物収集運搬業部門	2 事業者	
産業廃棄物中間処理施設部門	2 事業者	計 11 事業者

◆**廃棄物の不法投棄・不適正処理の監視指導事業**

〔廃棄物対策課〕

排出事業者や処理業者に対する立入調査、適正処理の指導・啓発を行うとともに、不法投棄多発地区への不法投棄監視カメラの設置及び山間部を中心とした市内全域での監視パトロール等により監視体制を強化し、不法投棄等の未然防止を図りました。

内容	件数
不法投棄	53 件
野外焼却	15 件
不適正処理	13 件
計	81 件

【不法投棄監視カメラ設置】

- ・移動式監視カメラ設置台数：12 台（不法投棄多発地区に適時設置）

【不法投棄等監視業務委託】

- ・休日・夜間のパトロール日数：100 日

また、産業廃棄物の不法投棄等を未然に防止するため主要道路に検問所を設置し、産業廃棄物運搬車両の運転手に対しマニフェストの確認や適正処理の指導啓発を行いました。

実施月日	実施場所	調査台数	啓発台数
7 月 2 日	田村町地内 国道 49 号線	5	25
10 月 30 日	熱海町地内 国道 49 号線	5	12
計		10	27

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～

◆不法投棄監視員制度

◆「廃棄物の不法投棄の情報提供」についての協定

〔清掃課〕

不法投棄の未然防止及び不法投棄された廃棄物を早期に発見し対処するための監視体制を構築し、安心して快適な生活環境の整備を図りました。

◇地区住民との連携による監視体制

- ・不法投棄監視員による管内巡回：25名（13地区）
- ・各地区保健委員会環境浄化部（環境浄化推進員）による地区内の監視：約700名

◇企業等との連携による監視体制

多数の外務職員を擁する企業等との不法投棄に関する情報提供の協定の締結

- ・郡山市内54郵便局（平成13年8月9日締結）
- ・郡山地区ハイヤータクシー協同組合（平成14年2月12日締結）
- ・市内21の各業種組合並びに団体（平成15年9月4日締結）
- ・一般社団法人福島県測量設計業協会県中支部（平成18年11月21日締結）
- ・新聞公正取引協議会福島県支部郡山地区実行委員会（平成19年6月29日締結）

◆不法投棄一斉撤去作業の実施

〔清掃課〕

「きれいな水と豊かな緑」を守り、美しく住みよいまちづくりを推進するため、不法投棄監視員の報告をもとに市内の山林、川などに大量に投棄されている廃棄物を地域住民・行政・関係機関が一体となり市内各地区で撤去作業を行いました。

《平成25年度までの実績》

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25
実施地区数	14	29	26	1	10	11
回収量(t)	44	19	19	2	14	30
処分料(千円)	478	208	229	21	284	465

◆農業用使用済みプラスチック適正処理推進事業[再掲]

別記2－(3)－③(P37)参照

(2) 公害と新たな生活環境問題への対応

市民が健康かつ安全に生活できるよう、公害*の未然防止に努めるとともに、公害の発生に備え、連絡体制の整備を行います。

また、日照障害や電波障害、光害などの新たな生活環境問題の発生を防止し、良好な生活環境の確保を目指します。

No.	環境指標	目標	目標年度
14	光化学オキシダントの環境基準超過時間数	200時間以下	平成29年度

光化学スモッグの原因となる光化学オキシダントは、高濃度では目やのどの痛みを引き起こすほか、農作物や植物にも悪影響を与えます。全国的に環境基準超過の傾向が見られ、本市でも超過している状況であり、今後改善していくことを目標とします。

※光化学オキシダント環境基準：1時間値が0.06ppm以下であること。

● 環境指標・目標の実施・達成状況について

No.	年度	現状	評価
14	平成23年度	142時間	◎
	平成24年度	146時間	◎
	平成25年度	169時間	◎

環境基準超過時間は前年度より増加したものの、引き続き目標値以内を維持しています。しかし、関東圏や中国などからの汚染物質の移流が懸念されていることから、今後も大気汚染物質広域監視システムの活用などを図りながら監視等に努めます。

4.「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～

(2)-①現況調査の実施

◆大気汚染調査

〔環境保全センター〕

大気中の汚染物質である窒素酸化物、硫黄酸化物、オキシダント（光化学スモッグの原因物質）等を常時監視し、大気環境の保全に努めるとともに、大気汚染防止法等に基づく届出の受理、審査、指導を行いました。

◇特定事業場からの届出

- ・設置届出：10件
- ・使用届出：0件
- ・構造等変更届出：1件
- ・期間短縮届出：4件
- ・氏名等変更届出：32件
- ・承継届出：4件
- ・使用廃止届出：20件

◇ばい煙指定事業場からの届出

- ・設置届出：1件
- ・廃止届出：0件
- ・氏名変更届出：0件
- ・変更届出：0件
- ・短縮届出：1件

◇大気汚染常時監視6局（芳賀、朝日、堤下、日和田、安積、台新）

〔測定項目〕 二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、窒素酸化物、オキシダント、一酸化炭素、炭化水素、微少粒子状物質（PM2.5）、気象条件

大気汚染常時監視測定局

No.	測定局名	設置場所
1	芳賀	芳賀地域公民館
2	朝日	環境保全センター
3	堤下	橘小学校
4	日和田	日和田小学校
5	安積	檜ノ下公園
6	台新	台新公園

【平成25年度大気環境基準達成状況】

No.	測定局名	環境基準達成状況(○:達成 ×:未達成)				
		二酸化硫黄	二酸化窒素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	一酸化炭素
1	芳賀	○	○	×	○	
2	朝日	○	○	×	○	
3	堤下		○	×		
4	日和田			×		
5	安積			×		
6	台新		○		○	○

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～

○有害大気汚染物質の調査 2地区（開成山公園、芳賀地域公民館）年12回 ベンゼン等10物質
【平成25年度有害大気汚染物質調査結果】

No.	調査対象物質	(単位)	調査地点		評価値		平成24年度地方公共団体等 モニタリング調査結果	
			開成	芳賀	環境 基準	指 針 値	平均値	濃度範囲
1	ベンゼン	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.63	0.67	3	—	1.2	0.40～3.0
2	トリクロロエチレン	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.29	0.35	200	—	0.50	0.010～10
3	テトラクロロエチレン	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.071	0.071	200	—	0.18	0.0075～1.7
4	ジクロロメタン	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.69	0.79	150	—	1.6	0.26～13
5	アクリロニトリル	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.019	0.026	—	2	0.080	0.0075～1.8
6	クロロホルム	Ng/m^3	0.11	0.10	—	18	0.20	0.018～1.9
7	1,3-ブタジエン	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.058	0.072	—	2.5	0.14	0.0097～2.0
8	トルエン	Ng/m^3	5.9	8.5	—	—	8.4	0.74～43
9	ベリリウム 及びその化合物	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.011	0.012	—	—	0.024	0.00064～ 0.17
10	クロム及びその化合物	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	1.6	1.8	—	—	5.3	0.28～70

【備考】環境基準は「大気環境基準値」、指針値は「有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値」を示します。

◆大気中のアスベスト監視等

【環境保全センター】

アスベスト除去工事等の適正な指導と併せて、適宜、除去工事周辺のアスベスト濃度を監視するとともに、定点において定期的に一般環境大気中のアスベスト濃度をモニタリングしました。

◇アスベストの調査対策

- ・環境調査（朝日）月1回（結果：世界保健機関の環境保健評価基準内）
- ・除去作業実施届出件数 25件（立入調査27回）

◆地下水及び土壌汚染調査

【環境保全センター】

水質汚濁防止法に規定される特定事業場等において使用・製造される有害物質等による地下水・土壌の汚染状況を監視するため、平成25年福島県水質測定計画に基づき地下水調査を実施しました。

[概況調査(ローリング方式)] (10km四方メッシュ) 2地点各1回/年

[概況調査(定点方式)] 4地点各1回/年

[継続監視調査] 20地点各1回/年

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」 ～快適な生活環境の確保と創造～

【平成 25 年度地下水水質調査結果】

		調査 井戸数	汚染井戸		未汚染 井戸数
			環境基準値 超過井戸数	環境基準値 以内井戸数	
概況調査	ローリング方式	2	0	0	2
	定点方式（事業場周辺）	4	0	0	4
汚染井戸周辺地区調査					
継続監視調査		20	4	12	4
合 計		26	4	12	10

◆騒音調査

〔環境保全センター〕

一般環境、道路沿線、高速道路沿線、新幹線沿線騒音調査及び工場・事業場騒音、建設作業等の騒音調査を実施し、生活環境の監視・保全に努めました。また、県高速交通公害対策連絡会議を通じ、東日本旅客鉄道株式会社及び東日本高速道路株式会社等への遮音壁設置等の改善要望活動を実施しました。

【平成 25 年度環境騒音調査結果】

〔単位：dB(デシベル)〕

調査地点	都市計画用途地域	騒音レベル(Leq)(環境基準)	
		昼 間	夜 間
①朝日三丁目5-7 環境保全センター	第一種住居地域	52 (55)	★46 (45)
②喜久田町卸三丁目 宇倍公園	準工業地域	59 (60)	★51 (50)
②清水台一丁目6-1 地域職業訓練センター	商業地域	53 (60)	47 (50)
④安積町笹川字西長久保 市営安積団地	第一種中高層住居専用地域	55 (55)	★50 (45)
⑤緑ヶ丘 緑ヶ丘公園	第一種低層住居専用地域	52 (55)	37 (45)

※1「昼間」：午前6時から午後10時まで。「夜間」：午後10時から翌日の午前6時まで。

※2「★」：環境基準を超過

【平成25年度道路交通騒音調査結果】

〔単位：dB(デシベル)〕

路線名	調査地点	都市計画 用途地域	騒音レベル(Leq) (環境基準)	
			昼 間	夜 間
国道4号	富田町天神林	第二種住居地域	58 (70)	56 (65)
国道4号	日和田町西中島22	工業地域	★75 (70)	★72 (65)
国道4号	富久山町久保田字大原3	第二種住居地域	★75	★71

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」 ～快適な生活環境の確保と創造～

			(70)	(60)
国道49号	田村町岩作穂多礼72	第一種中高層住居専用地域	★70 (60)	★66 (55)
国道49号	下亀田10-5	近隣商業地域	★71 (70)	★67 (65)
国道49号	喜久田町菖蒲池17-2	商業地域	★76 (70)	★70 (65)
郡山湖南線	豊田町1-4	第一種住居地域	★67 (65)	57 (60)
荒井郡山線	富田町乙路後12	第二種住居地域	★68 (65)	★61 (60)
須賀川二本松線	笹川一丁目1	第二種住居地域	★70 (65)	★67 (60)
若葉桑野線	並木一丁目5	近隣商業地域	68 (70)	61 (65)
日出山久保田線	小原田二丁目29-22	第二種住居地域	67 (70)	64 (65)
赤沼方八町線	横塚二丁目20	工業地域	69 (70)	62 (65)
前林御前線	大槻町御前南二丁目24	第一種住居地域	68 (70)	61 (65)

【平成25年度高速道路騒音調査結果】

[単位: dB(デシベル)]

高速道路名	調査地点		都市計画用途地域	等価騒音レベル(Leq) 昼間/夜間 (環境基準)		
				25m地点	50m地点	100m地点
自 東 動 北 車 縦 道 貫	喜久田町字双又	下り	準工業地域	★68/★67 (65/60)	-	-
	大槻町字三角田	上り	第一種中高層住宅 専用地域	★62/★60 (60/55)	54/52 (60/55)	-
	大槻町字山下前	上り	調整区域	★67/★65 (65/60)	★66/★63 (65/60)	64/★61 (65/60)
自 磐 動 越 車 道	熱海町高玉	下り	未指定	57/54 (65/60)	56/53 (65/60)	56/52 (65/60)

【平成25年度東北新幹線騒音調査結果】

[単位: dB(デシベル)]

調査地点	都市計画用途地域	騒音レベル(dB) (環境基準)			振動レベル(dB) (環境基準)
		25m地点	50m地点	100m地点	25m地点
富久山町地区	第一種住居地域	★73 (70)	67 (70)	64 (70)	47 (70)
西田町鬼生田地区	都市計画区域外	★76 (75)	73 (75)	70 (75)	61 (75)

4.「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～

小原田地区	第一種住居地域	★74 (70)	70 (70)	62 (70)	55 (70)
駅前地区	商業地域	73 (75)	71 (75)	60 (75)	57 (75)
大町地区	商業地域	-	-	150m 68 (75)	150m 68 (75)

(2)-②発生源対策

◆幹線道路新設改良舗装事業

〔道路建設課〕

道路網の整備により、生活環境の向上及び自動車交通対策を図りました。

- ・幹線道路新設改良舗装事業：大町大槻線 外4路線

◆都市計画街路事業

〔都市計画課〕

自動車交通により発生する振動や騒音などの公害を抑制するため、整備プログラムに基づき、幹線道路網の整備を推進しました。

- ・都市計画街路3路線（4地区）
笹川大善寺線、東部幹線（桜木、富久山）、内環状線

◆流通業務地区、流通業務団地の指定

〔都市計画課〕

流通業務地区への竜津業務施設の集約を促進し、流通機能の円滑化と効率化を図り、排気ガスの排出削減に努めました。

- ・郡山流通業務地区：25.5ha 郡山南流通業務地区：28.8ha 計 54.3ha

◆生活路線バス維持対策事業[再掲]

別記1-(1)-④(P23)参照

◆総合都市交通戦略推進事業[再掲]

別記1-(1)-④(P23)参照

◆モビリティ・マネジメント推進事業[再掲]

別記1-(1)-④(P23)参照

◆サイクルプロモーション[再掲]

別記1-(1)-④(P23)参照

◆廃棄物の不法投棄・不適正処理の監視指導業務[再掲]

別記4-(1)-④(P58)参照

◆郡山流通業務団地開発事業

〔産業創出課〕

流通業務施設が市内各地に立地することによる交通混雑や排気ガスや騒音、振動などの生活環境問題等を解消するため、郡山IC周辺に流通業務施設の集約を促進しました。

《平成25年度までの分譲状況》

【参考】平成12年11月から分譲を開始（運送業施設15区画・卸売業施設18区画）

- ・運送業施設 15区画（130,254.66㎡）平成18年度完売
- ・卸売業施設 19区画（54,723.52㎡、分譲率91.56%）残区画2区画（5,044.87㎡）

※卸売業施設は、処分計画を変更し現在21区画

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」 ～快適な生活環境の確保と創造～

◆第四次環境にやさしい郡山市率先行動計画推進事業（低公害車導入）

〔生活環境課〕

行政自らが一事業者として市民・事業者にも率先して環境負荷の低減に取り組むための行動計画に基づき、低公害車の導入に努めました。

・導入台数：10台（うち、ハイブリッド自動車1台）

《平成25年度までの累計》

保有台数：348台（うち、ハイブリッド自動車17台、電気自動車2台）【特種車両等を除く】

◆郡山市民間住宅吹付けアスベスト対策事業

〔開発建築指導課〕

吹付けアスベストと疑われるものが存する住宅等のアスベスト調査・分析を行う所有者に対して、補助金を交付しました。

・補助実施棟数：1棟

・「広報こおりやま」及び市ウェブサイトにて事業実施のお知らせを掲載

(2)-③連絡・処理体制の整備

◆油等流出事故緊急時連絡体制の整備

〔環境保全センター〕

工場・事業場等からの油・化学物質等の流出事故に対し、阿武隈川、阿賀野川水系の2水系緊急時連絡体制網により、迅速な対応を図りました。

◆光化学スモッグ及びPM2.5の緊急時連絡体制の整備

〔環境保全センター〕

大気汚染常時監視網により、市内及び隣接地区の大気汚染状況をリアルタイムで監視するとともに、光化学スモッグ注意報等並びにPM2.5の緊急時連絡体制により、迅速な対応を図りました。

◇予報・注意報の発令件数 光化学スモッグ予報発令回数：0回

光化学スモッグ注意報発令回数：0回

PM2.5の注意喚起回数：1回

（※平成26年2月26日に実施）

◆公害苦情処理

〔環境保全センター〕

市民から寄せられる公害等に係る苦情に対し、公害紛争処理法に基づき迅速かつ適切に対応し、生活環境の保全に努めました。

・苦情処理件数 171件（内訳：大気汚染 25件、水質汚濁 4件、土壌汚染 0件、騒音 29件、振動 1件、悪臭 13件、その他 99件）

◆アスベストに関する健康相談

〔保健所地域保健課〕

市民の不安に対応するため、アスベストに関する健康相談を実施しました。

・実施回数 3回

・相談人数 3人

(2)-④規制・指導

◆土壌汚染対策（生産履歴、土地履歴調査）

〔環境保全センター〕

○土壌汚染対策法に基づき有害物質使用特定事業場等に対して立入調査及び指導を実施しました。〔立入調査及び指導実施事業場数：36事業場〕

○有害物質使用特定事業場等における生産履歴の確認及び土地履歴から汚染に関する情報等の収集を行い、土壌環境・生活環境の保全に努めました。

○改正土壌汚染対策法（H22.4）により、土地の形質変更届出業務を行い、汚染土壌の把握につとめました。

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～

【届出等件数】

- ・ 土壤汚染状況調査報告：0 件
- ・ 調査の猶予申請：5 件
- ・ 土地所有者への調査実施通知：0 件
- ・ 調査報告期限延長申請：0 件
- ・ 一定規模(3000m²)以上の土地の形質変更届出：16 件
- ・ 形質変更届出要届出区域の指定：2 件
- ・ 形質変更届出要届出区域内における土地の形質の変更届出書：10 件

◆地盤沈下対策[再掲]

別記3－(3)－③(P48)参照

◆悪臭防止対策

[環境保全センター]

事業活動に伴い発生する悪臭を防止するため、悪臭防止法及び郡山市悪臭対策指針に基づき、工場、事業場の悪臭改善指導に努めるとともに、水質汚濁防止法に基づく畜舎設置時における事前指導に努めました。

- ・ 悪臭苦情：13 件

◆「郡山市中高層建築物の建築に関する指導要綱」及び

「郡山市共同住宅型集合建築物等の建築に関する指導要綱」による指導

[開発建築指導課]

要綱等に基づき、日影規制や用途地域における建築規制など適切な建築指導を行い、地域住民の良好な近隣関係の保持に努めました。

- ・ 届出件数：62 件
- [内訳]・ 郡山市中高層建築物の建築に関する指導：32 件
- ・ 郡山市共同住宅型集合建築物等の建築に関する指導：30 件

(3) 有害化学物質対策

化学物質の開発・普及は、私たちの生活に利便をもたらしますが、一方で、ダイオキシン類や環境ホルモンが環境に与える影響が懸念されるとともに、PCB（ポリ塩化ビフェニル）による人への健康被害や生態系への悪影響などの問題が発生しています。

このため、化学物質についての情報の収集や提供に努めるとともに、有害化学物質の実態把握や排出抑制のための規制・指導などを行います。

No.	環境指標	目標	目標年度
15	ダイオキシン類測定値	環境基準以下を維持	平成29年度

ダイオキシン類は、環境大気、環境水質、河川底質、環境土壌、地下水の5種類の対象について環境基準が設定されています。全対象、全調査地点で環境基準値以下の維持を目標とします。

● **計画の目標に対する評価**

No.	年度	現状	評価
15	平成23年度	全地点で環境基準以下	◎
	平成24年度	全地点で環境基準以下	◎
	平成25年度	全地点で環境基準以下	◎

平成25年度においても、全対象、全調査地点で環境基準値以下を維持しました。今後も、有害化学物質の情報収集・実態把握に努めるとともに、監視業務や事業所への立入検査・指導を進めます。

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」 ～快適な生活環境の確保と創造～

(3)-①現況調査の実施

◆ダイオキシン類等調査事業

〔環境保全センター〕

市民の生活環境を保全するため、環境中のダイオキシン類による汚染状況を監視し、環境への排出低減化の指導を行いました。

【平成 25 年度ダイオキシン類調査結果】

調査対象	調査状況	調査地点	調査結果	環境基準
環境大気	年 4 回(季節毎)	音楽・文化交流館	0.011pg-TEQ/ m ³	0.6pg-TEQ/ m ³
環境水質	年 4 回(季節毎)	逢瀬川	0.45pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L
		大滝根川	0.10pg-TEQ/L	
河川底質	年 2 回(夏季、冬季)	逢瀬川	0.13pg-TEQ/g	150pg-TEQ/g
		大滝根川	0.088pg-TEQ/g	
環境土壌	市内の公園、小学校及び事業場周辺土壌	富田小学校	3.3pg-TEQ/g	1,000pg-TEQ/g
		八山田東公園	0.043pg-TEQ/g	
		授産センター緑豊園	0.026pg-TEQ/g	
		藤坦緑地	0.90pg-TEQ/g	
地下水	市内 10km メッシュ 16 地点をローリング方式により、毎年 2 地点	片平町地内	0.033pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L
		三穂田町鍋山地内	0.033pg-TEQ/L	

※毒性等量(TEQ: Toxicity Equivalency Quantity)

ダイオキシン類はその種類が 200 種類以上あり、毒性も様々です。このため、その中で最も毒性の強い「2, 3, 7, 8-テトラクロロジベンゾ-パラジオキシン」の毒性を 1 として、その他のダイオキシン類の毒性の強さを換算し、それらを足し合わせたものを「TEQ」として表現しています。

◆大気汚染調査[再掲]

別記 4 - (2) - ① (P 6 1) 参照

◆地下水及び土壌汚染調査[再掲]

別記 4 - (2) - ① (P 6 2) 参照

◆住居衛生対策事業

〔保健所生活衛生課〕

シックハウス症候群や化学物質過敏症が問題となっていることから、市民の健康で快適な生活環境の確保のため、住環境についての調査及び啓発活動を行いました。

- ・ 快適住まいの相談事業
[相談件数]3 件
- ・ 出前講座 1 件

(3)-②発生源対策

◆廃棄物の不法投棄・不適正処理の監視指導事業[再掲]

別記 4 - (1) - ④ (P 5 8) 参照

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」 ～快適な生活環境の確保と創造～

◆小・中学校環境衛生保全事業

〔学校管理課〕

小中学校の室内環境の保全を図るため、空気環境衛生検査（シックハウス）、ダニアレルギー対策を実施しました。

- ・検査実施校：小学校 2校（2箇所）
中学校 2校（6箇所）

(3)-③情報提供及び規制・指導

◆ダイオキシン類等調査事業〔再掲〕

別記4－（3）－①（P69）参照

◆有害物質の地下浸透による水質汚濁防止対策

〔環境保全センター〕

有害物質及び油類による地下水汚染を未然に防止するため、有害物質取扱事業場等に対し地下浸透の禁止について指導を行いました。

◆地下水及び土壌汚染調査〔再掲〕

別記4－（2）－①（P62）参照



粗大ごみリユース推進事業

郡山市では、ごみ減量の基本3R(リデュース、リユース、リサイクル)運動の一つとして、粗大ごみの中から、比較的使用状態が良く、また、修理等をしないで現状のまま使用できる家具類を、希望する市民のみなさんへ無償で提供するため、リユース家具の展示会及び申込抽選会を開催しています。

	平成24年度	平成25年度
リユースした家具の数	26点	89点

リユース数
大幅UP!



(4) 快適な生活空間の確保と創造

快適でうるおいのある生活環境を確保するため、道路、河川、公園などの公共空間から民有地に至るまで、全市的な緑化を推進します。また、本市の歴史文化的環境の保全や魅力ある景観の形成に努めます。

さらに、安全・安心な生活環境の確保のため、自然災害に備えたまちづくりを推進します。

No.	環境指標	目標	目標年度
16	公園整備面積	342ha	平成29年度
新たに整備した公園を加えた都市公園の面積。まちにゆとりとうるおいを与える公園の整備を進めます。			

● 計画の目標に対する評価

年度	現状	評価
平成23年度	336.33ha	○
平成24年度	338.32ha	○
平成25年度	338.42ha	○
公園整備面積は、目標値達成に向けて順調に増加しています。今後も、特色のある公園・緑地等の整備を進めるとともに、既存公園の再整備や維持管理に努めます。		

No.	環境指標	目標	目標年度
17	景観形成に関する基準等が認定されている地区数	5地区	平成29年度
景観づくり重点地区、住民協定（三軒協定、まちなみ協定）、地区計画等を定めた地区数。良好な景観形成を推進します。			

● 計画の目標に対する評価

年度	現状	評価
平成23年度	3地区	○
平成24年度	3地区	○
平成25年度	3地区	△
平成25年度については、新たに認定された地区はありませんでした。今後は目標達成に向け、一層の普及啓発活動を展開し、市民を主体とした協働による景観づくりの推進を図ります。		

(4)-①都市の緑の保全と創造

◆**花と緑の公園事業**

〔公園緑地課〕

既設花壇へ花苗を配布し地域コミュニティ向上に寄与しました。

◆**公園機能保全事業**

〔公園緑地課〕

開成山公園トリムコースの案内看板設置により公園利用環境を改善しました。

◆**公園トイレ整備事業**

〔公園緑地課〕

水洗化やゆったり型トイレへの改修により利用環境の改善を図りました。

- ・改修：開成五丁目公園、七ツ池公園

◆**水と緑のまちづくり基金**

〔公園緑地課〕

寄附金による基金への積立てを実施しました。

- ・寄附件数：5件
- ・合計金額：351,683 円

◆**公園整備事業**

〔公園緑地課〕

新規街区公園を造成し、次年度以降の計画・検討をしました。

- ・神明下公園 [事業費]17,000,000 円

◆**人・環境フェスタ in 郡山事業**

〔公園緑地課〕

人と自然環境のふれあいをテーマにした、市民参加型イベント「人・環境フェスタ 2013」を実施しました。

[日時]平成 25 年 10 月 6 日 (日)

[場所]郡山カルチャーパーク

[内容]市民参加型の様々なイベントを各コーナーで実施

園芸教室、緑の相談、下水道相談、環境体験、水道水体験等

◆**市有施設建設事業(施設緑化)**

〔建築課〕

公共施設の建設において、設計段階から周囲環境との調和を図りながら樹木や生垣等を植栽するなど、緑化を推進する整備を図っております。なお、平成 25 年度の整備実績はありませんでした。

◆**道路整備事業(街路樹)**

〔道路建設課〕

「幹線道路新設改良舗装工事において、歩道の植樹柵や植樹帯に植栽することにより緑化の推進を図っております。なお、平成 25 年度の整備実績はありませんでした。

◆**フラワーロード推進事業**

〔道路建設課〕

生活空間である道路への愛着心及びコミュニティ意識の促進を図るため、市の提供する花苗を市道敷内の植樹帯や植樹柵等に地域住民の手により植樹しました。

◇実施地区

- ・大成地区
- ・富久山町我妻地区
- ・富久山町前田地区

- ・熱海地区
- ・西田町地区
- ・中田町木目沢地区

[事業費]1,070,000 円

4.「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～

◆街路樹管理事業

〔道路維持課〕

市内幹線道路沿いの街路樹の消毒・剪定、除草、落葉清掃等の維持管理作業及び立ち枯れ樹木の伐採、補植工を行うとともに、新規路線への植栽を実施し、快適で潤いのある豊かな生活環境の整備推進を図りました。

- ・街路樹管理（剪定等）、落葉清掃、補植工、植樹工を実施

◆都市計画道路整備事業(街路樹整備)

〔都市計画課〕

ヒートアイランド現象の緩和や地球温暖化防止対策のため、街路樹の整備を推進しました。なお、平成 25 年度の整備実績はありませんでした。

◆郡山市緑あふれるまちづくり事業

〔公園緑地課〕

様々な緑化事業を推進するため基金を設け、生垣を新設する際の助成などにより市民の緑化活動を支援しました。

- ・生垣設置助成：助成件数 19 件、生垣設置延長 310.9m
 - ・緑化木交付（新築・出生）：新築記念 335 本、出生記念 352 本 合計 687 件
 - ・緑化啓発用パンフレット等の配布
 - ・緑の相談所及び園芸教室の開催
 - ・苗木・草花の配布
- [事業費]3,065,000 円

◆都市緑化事業

〔公園緑地課〕

市民へ緑化資材を貸与し、緑化活動の促進を図りました。

◆明るいまちづくり推進事業(花いっぱいコンクール)

〔生涯学習スポーツ課〕

豊かで、活力ある地域社会を築いていくために、行政、市民、地域の参加と連携による「明るいまちづくり運動」事業の一環として、花いっぱい運動を推進しました。

- ・花の苗の配付（地区明るいまちづくり推進委員会、公民館を通じて、地域団体等に配付）
サルビア：4,000 ポット、マリーゴールド：5,000 ポット
 - ・花いっぱいコンクールの開催
- 平成 25 年 6 月～10 月まで開催（参加団体 297 団体）

◆緑のカーテン事業[再掲]

別記 1 - (1) - ② (P 2 1) 参照

(4)-②歴史・文化的財産の保存・活用

◆守山城跡史跡整備事業

〔文化課〕

市内で唯一石垣を持つ守山城跡は、本市の城郭研究や目で確認できる歴史資料として大変貴重なため、空掘の整備と石垣の保存など周辺整備や整備計画（案）の検討に向けた条件整備等を進めました。

◆大安場史跡公園管理運営事業

〔文化課〕

国指定史跡大安場古墳とガイダンス施設を核とした総合公園を運営し、多くの市民に郷土の歴史に触れていただきました。

- ・指定管理者制度による運営
- ・各種イベント・体験学習事業の実施（古墳祭り、発掘体験、古代食づくり、勾玉づくり等）

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～

◆風土記の丘公園整備事業

〔文化課〕

豊かな自然と共生しながら、美術館を核とした新文化ゾーンの形成と、蒲倉古墳群との融合を図り、自然と芸術と歴史が共生する公園の整備を行うための準備を進めました。

◆伝統文化伝承育成支援〔再掲〕

別記5－(1)－②(P89)参照

◆民俗芸能伝承保存事業

〔文化課〕

指定無形民俗文化財の上演状況を映像により記録保存しております。なお、平成25年度の実施はありませんでした。

◆指定文化財保護育成事業(指定無形民俗文化財)

〔文化課〕

指定無形民俗文化財の保護団体に対し、保護活動を援助するため奨励金を交付し、文化財の保護と育成を図りました。

- ・指定無形民俗文化財保存団体奨励金交付
1団体×500,000円＝500,000円 1団体×400,000円＝400,000円
16団体×100,000円＝1,600,000円 計 18団体 2,500,000円

◆埋蔵文化財周知紹介事業

〔文化課〕

埋蔵文化財の適切な保存・活用を図り、広く市民の歴史・文化への理解を深めるため、下記の事業等を行いました。

- ・文化財企画展示業務 「郡山の歴史を変えた遺跡」
- ・考古・歴史資料展示 市役所本庁舎1階・市民ふれあいプラザ
- ・文化財等学習サポート 32件
- ・文化財出前展示 清水台公民館・芳賀地域公民館・小原田地域公民館

◆古文書筆耕事業

〔文化課〕

近代郡山の発展の礎となった安積開拓事業を後世に伝えるため、開成館に収集保管されている古文書の筆耕を行うとともに、開成館の展示内容の充実を図りました。また、歴史資料館において常設展や企画展を通して広く市民に郡山の歴史を理解していただくよう努めました。

- ・筆耕作業：「今泉家文書」9冊、「守山藩御用留帳」5冊
- ・開成館企画展「碑巡り散歩―顕彰碑・記念碑で知る安積開拓」
- ・歴史資料館企画展「人名に刻まれた歴史」

(4)-③魅力ある景観の形成

◆都市景観まちづくり事業

〔開発建築指導課〕

良好な景観形成を推進のため、周辺景観に与える影響が大きい大規模行為や景観づくり重点地区における一定規模以上の行為に対して助言や指導を行うとともに、推進員の研修会や刊行物を通じて市民意識の啓発・高揚を図りました。

- ・大規模行為届出：129件・大規模特定行為事前協議：14件
- ・助言件数：10件・猪苗代湖湖岸周辺重点地区における行為の届け出：3件
- ・猪苗代湖湖岸周辺重点地区における重点地区大規模特定行為事前協議：0件
- ・助言件数：0件
- ・景観づくり推進員研修会：2回
- ・景観まちづくり賞：受賞5件(応募数16件)

4.「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～

◆中心市街地空き店舗活用支援事業

〔商工振興課〕

郡山市中心市街地活性化基本計画における重点整備地区内の商店街において、空き店舗等を集客力向上や商店街の活性化のために活用する事業に対し助成を行い、中心市街地内の空き店舗の解消に取り組む団体を支援しました。

- ・ 中心市街地空き店舗活用支援事業実施団体への補助 [事業費]2,307,000 円

◆商業起業家支援事業

〔商工振興課〕

郡山市中心市街地活性化基本計画における重点整備地区内の商店街において、空き店舗を活用し、将来、開業意思のある者を入居させ、経営指導を行うチャレンジショップを実施する事業に対し助成を行い、起業家支援に取り組む団体を支援しました。

- ・ 商業起業家支援事業実施団体への補助（1 団体／2 店舗） [事業費]439,000 円

◆屋外広告物許可制度

〔開発建築指導課〕

屋外広告物について必要な規制・指導等を行うことにより、良好な景観、風致を維持し、公衆に対する危害の防止を図りました。

- ・ 屋外広告物の許可：699 件（新規許可：138 件、更新許可：561 件）
- ・ 屋外広告物の簡易除去：1,058（はり紙 942 件、はり札 116 件）
- ・ 屋外広告物の登録及び特例届出：35 件（登録 1 件、特例届出 34 件）
- ・ 屋外広告物講習会の開催（郡山市、福島県、いわき市の共同開催 25 年度会場はいわき市）

◆用途地域の指定

〔都市計画課〕

用途地域は、良好な都市環境の形成や機能的な都市活動の確保を目的として、建築物の用途、大きさ（容積率・建ぺい率）、高さなどを規制・誘導する都市計画の制度であり、本市では 10 種類の用途地域を指定しております。

- ・ 第一種低層住居専用地域： 812.6ha
- ・ 第一種中高層住居専用地域：1,318.0ha
- ・ 第二種中高層住居専用地域： 246.5ha
- ・ 第一種住居地域： 1,540.5ha
- ・ 第二種住居地域： 434.8ha
- ・ 近隣商業地域： 337.6ha
- ・ 商業地域： 270.5ha
- ・ 準工業地域： 582.5ha
- ・ 工業地域： 582.6ha
- ・ 工業専用地域： 759.6ha

計 6,885.2ha

◆風致地域の指定

〔都市計画課〕

風致地区は、良好な自然的環境の保全と開発の調和を図るものであり、本市では 4 地区を指定しています。

- ・ 五百淵風致地区 : 27.0ha
- ・ 開成山風致地区 : 35.0ha
- ・ 荒池酒蓋風致地区 : 16.0ha
- ・ 善宝池風致地区 : 23.5ha

計 101.5ha

(4)-④自然災害に備えたまちづくり

◆**浸水対策事業(排水路整備)**

〔道路維持課〕

近年、土地利用の高度化により、都市部及びその周辺部における状況が変化しており、低地で危険性のある地域にまで人家が集中し、洪水等による災害が発生しています。このため、集中豪雨や台風等によって水害の発生が予想される箇所を調査するとともに、浸水の恐れのある地域の水路を整備し、水害への安全度を向上させ、良好な市街地整備及び生活環境整備の促進を図りました。

- ・排水路の整備延長 338m

◆**水路・側溝整備事業**

〔道路維持課〕

側溝の質的改良及び水路施設の整備を推進し、災害に強く快適な生活環境づくりを図るため、市内側溝・単独水路の整備工事を実施しました。

- ・市内各所の水路・側溝整備

◆**総合治水対策事業(愛宕川調節池整備事業)[再掲]**

別記3-(4)-①(P50)参照

◆**公共下水道雨水対策整備事業**

〔下水道建設課〕

近年の急激な都市化に伴い、浸水による被害が頻発していることから、雨水幹線及びポンプ場の整備を図り、浸水被害の軽減に努めました。

- ・整備面積：38.5ha

《平成25年度までの整備状況》

- ・整備済面積：1,943.3ha（全体計画：6,553ha、事業認可：5,501ha）
- ・雨水ポンプ場（6箇所）梅田ポンプ場、水門町ポンプ場、古川ポンプ場、横塚ポンプ場、古垣ポンプ場、五百淵ポンプ場

◆**新・合流式下水道緊急改善事業[再掲]**

別記3-(1)-②(P41)参照

◆**雨水流出抑制施設整備促進事業**

〔下水道維持課〕

洪水、浸水被害の軽減及び水資源の有効活用を図るため、下記の費用の一部を補助するものです。しかしながら、平成25年度は東京電力福島第一原子力発電所事故により飛散した放射性物質の影響をより事業を休止しました。

- ①公共下水道への接続により不用となった浄化槽を雨水流出抑制施設に転用する工事又は新たに雨水流出抑制施設を設置する工事の費用
- ②雨水浸透ますを設置する工事の費用
- ③雨水貯留タンク（100ℓ以上）を購入する費用

《平成8年度からの累計》

1,721件（雨水貯留量 3403.8 m³）

4.「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～

◆浸水ハザードマップ作成事業

〔下水道総務課〕

浸水被害のあった地域や浸水被害が想定される阿武隈川沿岸地域の市民や企業を対象に、あらかじめ浸水や避難に関する情報等を提供し、地域の防災活動や日頃からの備えに活用してもらうため、「郡山市浸水ハザードマップ」を作成し、浸水被害が想定される地区毎に活用説明会を開催しました。また、配布に併せ、下水道総務課、河川課、市政情報センター、市民サービスセンター、各行政センター、各公民館等での閲覧及び郡山市ウェブサイトでの公表も行いました。

- ・ハザードマップ公表 H25年5月
- ・ハザードマップ配布 H25年6月～7月
- ・ハザードマップ活用説明会実施 H25年6月～7月

◆道路整備事業(橋りょう整備)

〔道路建設課〕

復興を支える災害に強い道路整備の推進及び橋りょうの耐震化を図りました。

- ・橋りょう耐震整備 : 跨踏橋

◆公園トイレ整備事業[再掲]

別記4-(4)-①(P72)参照

◆公園整備事業[再掲]

別記4-(4)-①(P72)参照

◆水害対策推進事業

〔河川課〕

避難案内看板等の設置を行いました。

- ・避難案内看板設置工：3基 避難案内看板修繕工：18基

◆河川防災ステーションの活用

〔河川課〕

富久山町久保田地内にある河川防災ステーションには、緊急時の水防活動を迅速かつ効果的に行うため、水防資材を常時備蓄しています。

◆防災連絡体制推進の取り組み

〔消防防災課〕

水害等の災害発生時に、各所属からの被害状況報告を、総合行政ネットワークを用いて行いました。

- ・被害情報報告回数 18回

◆災害時の情報連絡体制推進事業

〔消防防災課〕

災害時に多様な手段を用いて災害情報の配信を行う「災害に強い情報連携システム」の構築を行い、平成25年12月末に運用を開始しました。

これにより、従来の防災行政無線、緊急速報メール、広報車による伝達手段に加え、メールマガジン、フェイスブック、ツイッター、電話ガイダンス、コミュニティFM放送へ緊急割込み放送により災害情報の配信が可能となりました。

- ・災害情報等配信回数：19回

4. 「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～

◆「市民防災リーダー」養成事業

〔消防防災課〕

防災活動の牽引者となってもらふ防災知識や技術を習得した「防災リーダー」を養成するため、講習会を開催し、「災害に強いまちづくり」を推進しました。

◇女性、自主防災組織を対象とした「市民防災リーダー講習」を実施

- 1回目 平成 25 年 12 月 11 日（女性対象） 18 名参加
- 2回目 平成 26 年 1 月 26 日（自主防災組織対象） 10 名参加
- 3回目 平成 26 年 2 月 12 日（自主防災組織対象） 14 名参加

◆耐震性貯水槽周知の取り組み

〔消防防災課〕

飲料水兼用耐震性貯水槽の設置目的や設置箇所について、きらめき出前講座や自主防災組織の説明会等の機会をとらえて周知を図りました。また、ライフライン関係情報として市ウェブサイトに掲載しました。

【参考：飲料水兼用耐震性貯水槽設置箇所一覧】

設置箇所	所在地	容量(t)
希望ヶ丘団地	希望ヶ丘 1	100
芳賀小学校	芳賀一丁目 20-17	50
四ツ長公園	安積二丁目 131	50
行健小学校	富久山町久保田字久保田 23-1	50
開成山公園	開成一丁目 5	50
西部公園	柏山町 108	50
酒蓋公園	深沢二丁目 291	50
香久池公園	香久池一丁目 304	50
西ノ内公園	西ノ内二丁目 265	50
緑ヶ丘ふれあいセンター	緑ヶ丘東三丁目 1-21	50
郡山地方広域消防本部	堂前町 5 番 16 号	50
荒井中央公園	安積町荒井字南大部 28-4	50
郡山駅西口駅前広場	駅前二丁目 3-1	50
21 世紀記念公園	麓山二丁目 64	50
芳山公園	虎丸町 231	50
合計		800

4.「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」～快適な生活環境の確保と創造～

◆知って安心、耐震性貯水槽(耐震性貯水槽操作訓練事業)

[水道局配水課]

災害時、市民への円滑な飲料水供給のため、地域住民とともに、市内15か所に設置している耐震性貯水槽の操作訓練を行いました。

◇耐震性貯水槽操作訓練

1回目	4月23日(火)	21世紀記念公園(麓山の杜)	参加人数	17名
2回目	6月9日(日)	香久池公園	参加人数	80名
3回目	8月31日(土)	開成山公園	参加人数	25名
4回目	10月20日(日)	緑ヶ丘ふれあいセンター	参加人数	25名
5回目	11月3日(日)	西部公園	参加人数	62名
6回目	11月21日(木)	21世紀記念公園(麓山の杜)	参加人数	43名
7回目	11月25日(月)	21世紀記念公園(麓山の杜)	参加人数	20名



「知って安心、耐震性貯水槽」(耐震性貯水槽操作訓練)の様子

5.「学び、考え、行動する」～環境教育・学習の推進～

(1)環境教育・学習の場や機会の充実

家庭、地域、学校、職場などにおける環境教育・学習を推進するとともに、遊びや体験を通して環境について学べる場や公民館活動など、あらゆる場・機会の活用と、それらの連携を図ることにより、積極的な環境教育・学習の推進に取り組みます。

No.	環境指標	目標	目標年度
18	「どこでも環境教室」 開催回数	60回	平成29年度
市民の環境への関心や意識を高めることを目的に実施する、環境に関する出張講座「どこでも環境教室」の開催回数の増加を図ります。			

● 計画の目標に対する評価

年度	現状	評価
平成23年度	19回	△
平成24年度	21回	△
平成25年度	53回	○
平成25年度は、目標の回数には及ばなかったものの、前年度より開催回数は大幅に増加しました。今後も、講座メニューを増やすなど講座内容を充実させるとともに、学校や公民館利用者等に積極的に呼びかけを行い、より多くの方々に利用してもらえるように努めます。		

No.	環境指標	目標	目標年度
19	水生生物による 水質調査参加者数	1,600人	平成29年度
身近な河川で、水生生物を調べることにより水質を判定する水質調査に参加した児童・生徒の数。支援の充実などにより参加者数の増加を図ります。			

● 計画の目標に対する評価

年度	現状	評価
平成23年度	829人	△
平成24年度	1,358人	○
平成25年度	1,713人	◎
震災により参加者数は一時減少しましたが、小学校における湖南地区等の低線量地区での屋外活動の増加により、平成25年度は目標値を達成しました。今後も教育委員会等との連携を図り、学校や地域での環境保全活動を推進していきます。		

5. 「学び、考え、行動する」 ～環境教育・学習の推進～

(1)-①場の充実

◆清掃施設への見学者の受け入れ

〔清掃課〕

環境教育・学習に活用できる清掃施設の充実を図るとともに、見学者の受け入れ体制の整備に努めました。

【平成 25 年度実施内容】

施設名称	受け入れ件数	見学者数(人)
富久山クリーンセンター 同りサイクルプラザ	63	3,382
河内クリーンセンター	16	456
河内埋立処分場	0	0
合計	79	3,838

◆各施設の活用

環境教育・学習に活用できる施設の充実を図るとともに、各施設において見学者の受け入れ体制の整備に努めました。

【平成 25 年度実施内容(市民利用施設を除く)】

施設名称	見学者数(人)
湖南浄化センター	533
堀口浄水場	789
荒井浄水場	597

◆水辺空間整備事業[再掲]

別記 3 - (4) - ① (P 5 0) 参照

◆五十鈴湖水質浄化事業[再掲]

別記 3 - (4) - ① (P 5 0) 参照

◆せせらぎこみちの活用

〔下水道維持課〕

せせらぎこみちは、地下部には雨水排水路と防火貯留水槽を設置して都市防火用水の機能を持たせるとともに、地上部には浄化した雨水をせせらぎとして流し、遊歩道、植栽やあずまやなど設けて親水空間を整備し、水と緑あふれる憩いの場として多くの方に利用されています。

震災及び福島第一原子力発電所の事故のため、せせらぎこみちの流水を見合わせていましたが、平成 25 年 4 月 1 日より流水すると共に、創造開拓チャレンジ事業「せせらぎクリーン大作戦」の事業についても再開しました。

- ・清掃、除草作業及び緑地管理業務委託
(社)郡山市シルバー人材センター外 2 社へ外部委託
- ・せせらぎこみち樹木伐採工事 3 社へ外部委託
- ・創造開拓チャレンジ事業「せせらぎクリーン大作戦」年 2 回
- ・地元企業等による地域貢献活動 2 団体

◆観光登山道等整備事業[再掲]

別記 2 - (1) - ① (P 3 1) 参照

◆守山城跡史跡整備事業[再掲]

別記 4 - (4) - ② (P 7 3) 参照

◆**大安場史跡公園管理運営事業[再掲]**

別記4-(4)-②(P73)参照

◆**布引高原周辺観光地整備事業**

〔観光物産課〕

風力発電所建設に伴い、布引高原周辺を観光地として整備しました。

- ・仮設トイレの設置
- ・林道東沢線調査委託

◆**紅枝垂地蔵ザクラ周辺整備事業**

〔観光物産課〕

観光客等に対する環境教育・学習の場及び利便性の提供を図ることを目的として、引き続きシーズン時のトイレリース整備を行いました。

- ・仮設トイレリース

◆**雪村庵周辺整備事業**

〔観光物産課〕

地域から要望が出ているトイレの整備に向け、地元との協議を行いました。

◆**学校における環境教育の推進**

〔学校教育課〕

全小・中学校において、環境教育全体計画を作成し、計画に基づき各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等において、環境保全や環境問題に係る指導を展開しております。

平成23年度から平成27年度までの5年間の計画を立てて実施している森林環境学習の取り組みでは、教室型学習である「森林の大切さを知る学習」と体験型学習である「森林の大切さを実感する学習」の2つを設定し、年次計画により全小・中学校で実施しております。

平成25年度の「体験型学習」においては、小学校34校が実施し、森林にかかわる体験や活動を通して森林環境への興味・関心を高めることができました。

また、地球温暖化防止のための「福島議定書」事業については、積極的な参加を呼びかけ、全ての小・中学校が参加し、最優秀賞1校、優秀賞2校、入賞2校、特別賞1校がそれぞれ受賞するなど、環境教育に対する意識が高まっています。

◆**わくわく！ 湖南移動教室**

〔学校教育課〕

郡山市立小学校全58校の全児童を対象に恵まれた自然環境を有している湖南地区において、各学校が計画し教育課程に位置づけた環境学習や体験活動等を地区ボランティアの協力を得て実施しました。

平成25年度の実施の成果として、子どもたちは湖南地区の豊かな自然の中で、満面の笑顔で活動し、心身ともにリフレッシュするとともに、湖南の文化財や豊かな自然にふれて、郡山のよさを再発見し、ふるさと郡山を誇りに思う気持ちや自然や文化財を大切にしていこうとする意欲を高めることができました。活動を通して、思いやりの心や友情が芽生え、地域ボランティアとの交流により、感謝の心もはぐくまれていることが読み取れる記述が、実施報告書や児童感想文などに多く見られました。

[参加者数]：17,307名

[内 容]：館浜での遊歩道散策や砂遊び、水遊び、湖岸清掃(60校)

布引風の高原での風力発電所見学や散策(36校)

麓山登山(7校)

舟津川での水生生物調査(7校)

その他史跡めぐりや民具見学、地域の名勝や文化にふれる活動等

5. 「学び、考え、行動する」 ～環境教育・学習の推進～

◆のびのび！親子体験事業

〔生涯学習スポーツ課〕

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、屋外での活動が制限されている子ども達が、放射線量も低く、恵まれた自然環境を有している湖南地区において、親子で宿泊体験活動を行うことにより、子ども達の元気な笑顔を取り戻すとともに、親子の絆を深め、友情の輪を広げることを目的に実施した。また、キャンプファイヤー、湖岸サイクリング、野菜収穫体験等の各種プログラムを実施しました。

- (1) 少年湖畔の村の無料開放 利用者数 8,802人
- (2) 体験プログラムの実施 参加者数 455人

(1)-②機会の提供

◆環境家計簿[再掲]

別記1-(1)-②(P20)参照

◆環境貯金箱推進事業[再掲]

別記1-(1)-②(P21)参照

◆新エネルギー導入促進事業[再掲]

別記1-(1)-③(P22)参照

◆駅前観望会(天体観測)

〔ふれあい科学館〕

天体望遠鏡などを使用し、気軽に参加でき、宇宙への興味関心を高める自由参加形式の天体観望会を駅前で開催しました。

〔開催場所〕郡山駅西口駅前広場

〔参加者数〕540名

〔開催日〕平成25年4月20日(土)、5月18日(土)、6月15日(土)、7月20日(土)、8月4日(日)、
8月17日(土)、9月14日(土)、10月12日(土)、11月9日(土)、
平成26年3月15日(土)

◆星の宅配便

〔ふれあい科学館〕

科学館の職員と天文ボランティアが天体望遠鏡を持参して市内の各地区に出向き、星空の観察などを行う観望会を、市内公民館との共催により開催しました。

〔参加者数〕430名

〔開催日〕平成25年4月27日(土)、5月25日(土)、6月22日(土)、7月13日(土)、9月21日(土)、
10月11日(土)、11月16日(土)

◆調査活動(星空等)

〔ふれあい科学館〕

環境省が主催で行っている「全国星空継続観察」に参加して実施する予定でありましたが、平成25年度は環境省が行わなかったため実施しませんでした。

◆夏休みこおりやま親子発見探検ツアー

〔広聴広報課〕

まちづくりへの理解を深めることや市民の市政参加の一環として、市の施設等の見学及び体験を行いました。

・実施回数：4回(7月23・24日、8月7・8日)

・参加者 98人

〔Aコース〕郡山消防署～大安場史跡公園～高柴デコ屋敷

〔Bコース〕ふれあい科学館～美術館～高柴デコ屋敷

5. 「学び、考え、行動する」 ～環境教育・学習の推進～

◆親子体験学習のつどい

〔少年湖畔の村〕

小学生を持つ親子を対象に、自然や人、伝統文化とのふれあいを通じ、親子の絆を深め、心身ともにたくましい青少年を育むことを目的として、親子体験学習の集いを、年2回実施しました。

- ・郷土食作り体験 平成25年6月8日(土)～平成25年6月9日(日)
一泊2日 参加者：7組16名
- ・そば打ち体験 平成25年10月26日(土)～平成25年10月27日(日)
一泊2日 参加者：12組35名

◆コメ紀行 親子体験教室

〔少年湖畔の村〕

小学生の親子を対象に、コメ作りを通して、自然の恵みや食の大切さを感じるとともに、親子の絆を深め、心身ともにたくましい青少年を育むことを目的に実施しました。また、各作業における環境配慮として、手作業と無農薬を前提に実施しました。

第1回	5月11日	肥料施肥・田越し	参加者	4組15名	(子供9名・大人6名)
第2回	5月25日	田植え(手植え)	参加者	6組22名	(子供13名・大人9名)
第3回	6月22日	田車押し・草取り	参加者	3組10名	(子供7名・大人3名)
第4回	7月13日	草刈り(手刈り)	参加者	4組10名	(子供7名・大人3名)
第5回	10月5日	稲刈り(手刈り)	参加者	7組20名	(子供12名・大人8名)
第6回	10月19日	脱穀 委託作業の為、	参加者は無し。		
第7回	11月9日	収穫祭	参加者	11組45名	(子供25名・大人20名)
	10日	(第1回～第6回の作業で収穫された餅コメを用い、参加者全員で餅をつき、試食し収穫の喜びを味わいました)			
					参加合計35組122名

◆親子体験「エコ教室」

〔総合教育支援センター〕

地球温暖化、資源のリサイクルといった今日的な環境問題の啓発について、その課題解決のための具体的な活動を親子の体験活動プログラムに取り入れることによって、環境保全に主体的にかかわろうとする気持ちを育てました。

- ・親子体験「エコ教室 染め物エコバック」

◆地区・地域公民館における体験教室・講座等

〔中央公民館〕

各地区地域公民館における各種事業(学級・講座)において、子供たちに対する環境学習の場の提供や、花づくり・樹木育成管理を通じた地域の環境保護を目的とした事業を実施しました。

- ・エコキッズ(大成地域公民館)、グリーンサポーターズ(三穂田公民館)など

◆親子ふれあいたんけん隊

〔中央公民館〕

平成25年6月2日(日)に、親子28組、56名が参加し、自然保護観察員4名、公民館職員4名とともに中型バス4台で湖南方面に向かい、中地大仏のけやきや猪苗代湖・布引高原での自然観察を実施しました。

自然形成の歴史、植物、野鳥、小動物、昆虫など観察をしながら、自然保護の理念を学習し、集団でのマナーの育成や家族のコミュニケーションの充実が図られました。

なお、平成25年9月15日(日)に実施を予定していた秋の事業については台風による悪天候のため中止しました。

5. 「学び、考え、行動する」 ～環境教育・学習の推進～

◆親子かんきょう教室

〔生活環境課〕

猪苗代湖岸クリーンアップ作戦として猪苗代湖岸の清掃を行いました。

〔日 時〕平成25年8月4日（日）

〔場 所〕湖南町

〔内 容〕猪苗代湖岸の清掃

〔参加者〕24人

◆環境体験事業(かんきょう楽習塾)

〔生活環境課〕

市民の「気づき」を促すための機会づくりとして“遊び”を取り入れた体験型の講座を開催しました。

「かんきょう楽習塾」 2回開催

○リサイクルキャンドル作り

・平成25年10月18日～20日 「郡山の農業・観光物産展」会場内 参加者270名

○まいうちわ作り

・平成25年6月16日 カルチャーパークドリームランド内 参加者100名

◆こどものもり公園自然体験事業

〔公園緑地課〕

様々な観察や体験などをおして平成記念郡山こどものもり公園の自然にふれあうことで、参加者に自然や環境への興味を促すことを目的として、観察会等を実施しました。

・こどものもり自然観察会（一般の方を対象）： 3回

・もりのこクラブ体験学習（小学生を対象）： 6回

◆森林環境交付金事業[再掲]

別記2－（1）－①（P30）参照

◆猪苗代湖の水を守りたい事業

〔水道局総務課〕

本市の貴重な水道水源である猪苗代湖の水源環境保全の重要性を啓発するとともに、水道に対する理解を深めてもらうことを目的に、市民を対象に猪苗代湖岸清掃及び水道施設の見学等を実施しました。

①〔実施日〕平成25年6月1日

〔コース〕浜路取水塔～猪苗代湖岸清掃～昼食～堀口浄水場

〔参加者〕121名

〔ゴミ収集量〕210kg

②〔実施日〕平成25年8月31日

〔コース〕浜路取水塔～猪苗代湖岸清掃～昼食～堀口浄水場

〔参加者〕24名

〔ゴミ収集量〕130kg

◆水源の森づくり事業(親子植林体験)

〔水道局浄水課〕

東京電力福島第一原子力発電所事故による放射能の影響を考慮し、市民（親子）の植林体験を中止し、植林育成のためこれまで植林した箇所の下草刈りのみ実施しました。

5. 「学び、考え、行動する」 ～環境教育・学習の推進～

◆湖まつり

〔観光物産課〕

水と緑に恵まれた湖南地区の豊かな自然と景観を生かしながら、自然環境の保全に努めるなど、調和のとれた観光の振興と更なる地域の発展を図ることを目的に、猪苗代湖で実施しました。

○第 48 回湖まつり（平成 25 年 7 月 27 日開催）

- ・水難防止祈願祭
- ・水に感謝する作文コンクール表彰、発表
- ・ヤマメつかみ大会
- ・タライ舟体験
- ・郷土芸能大会
- ・納涼花火大会

◆クリーンフェスティバル[再掲]

別記 4－（1）－①（P 5 3）参照

◆エコイベントの開催(郡山市成人のつどい)

〔生涯学習スポーツ課〕

大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする新成人を祝い励ますとともに、互いに祝福し合い、夢と希望を語り合うつどいの場として開催した成人のつどいの実施に際し、企画の段階から、環境に配慮したイベント開催を視野に入れて内容の検討を行い、事業を実施しました。

記念品にエコ商品を取り入れる、イベントにかかる電力にグリーン電力を使用、来賓・列席者へ節車の呼びかけ、スーパー環太郎による環境に対する啓蒙活動、配布物を少なくすることによるゴミの減量促進等に取り組み、うつくしまエコイベントにも 5 つ星で認定されました。

- ・記念品：エコバッグ（3,400 セット）
- ・グリーン電力の使用：バイオマス発電 1,000kWh 分
- ・ペットボトルキャップの回収（63kg）

◆環境に関する出張講座「どこでも環境教室」

〔生活環境課〕

環境保全への意識の高揚を図ることを目的に、環境に関する講座メニューを用意し、小中学校・高校及び市民等の申込みを受け、市職員だけでなく賛同いただく企業・団体等の方を講師として、市内のどこへでも出張して講座を行いました。

- ・実施回数 53 件
- ・受講者数 3,300 人

【参考資料：平成 25 年度「どこでも環境教室」メニュー】

小学校・中学校・高校向け			
No.	講座名(講座担当)		対象
S-1	「郡山市のかんきょう」を学ぼう！（生活環境課）		小中学生
S-2	見て！触れて！体験しよう！東北電力のエネルギー出前講座（東北電力株式会社郡山営業所）		小学生
S-3	放射線学習（東北電力株式会社郡山営業所）		小中高生
S-4	エコ・クッキング講座（東部ガス(株)福島支社）		小学 5・6 年生
S-5	できることからはじめよう！～家庭からの排水をきれいに～（生活環境課）		小中学生
S-6	川健康診断～水生生物調査～（生活環境課）		小中高生
S-7	みんなで減らそうCO ₂ ！～ストップ地球温暖化～（生活環境課）		小中高生
S-8	わたしたちとごみ（清掃課）		小学 4 年生以上
S-9	環境の現状を知ろう！（環境保全センター）	1 郡山市の大気環境	小中高生
		2 郡山市の水環境	
		3 ダイオキシンや環境ホルモン	
S-10	考えてみよう！ふるさと“郡山”の水のこと（日本大学工学部 中村玄正名誉教授）		小中高生

5. 「学び、考え、行動する」 ～環境教育・学習の推進～

S-11	地球にやさしいエネルギー（生活環境課）	小中高生	
一般向け			
No.	講座名(講座担当)		
A-1	「郡山市のかんきょう」を学ぼう！（生活環境課）		
A-2	できることからはじめよう！～家庭からの排水をきれいに～（生活環境課）		
A-3	川の健康診断～水生生物調査～（生活環境課）		
A-4	みんなで減らそうCO ₂ ！～ストップ地球温暖化～（生活環境課）		
A-5	わたしたちとごみ（清掃課）		
A-6	環境の現状を知ろう！ （環境保全センター）	1	郡山市の大気環境
		2	郡山市の水環境
		3	ダイオキシンや環境ホルモン
A-7	サンパイってなに？（廃棄物対策課）		
A-8	“ふるさと郡山”の美しい水環境を守るために （日本大学工学部 中村玄正名誉教授）		
A-9	地球にやさしいエネルギー（生活環境課）		
A-10	見て！触れて！体験しよう！東北電力のエネルギー出前講座 （東北電力株式会社郡山営業所）		
A-11	放射線学習（東北電力株式会社郡山営業所）		

※S-7については、幼稚園児・保育園児・小学校低学年対応可能です。

◆環太郎のエコあくしょん教室

〔生活環境課〕

スーパー環太郎の着ぐるみとふれあいながら「地球を守る5つのおやくそく」について教室を実施しました。

- ・実施回数 2回（6月・3月）
- ・参加人数 250人

◆きらめき出前講座

〔生涯学習スポーツ課〕

市民が市政に関する理解を深め、市民の学習機会の拡充を図ることを目的として、市民などで構成する団体からの要望に基づき、市職員が講師として出向き専門知識を活かした講座を行いました。（環境以外の分野も含む）

- ・きらめき出前講座メニュー数：91メニュー
- ・申込件数：218件
- ・参加申込人数：10,150人

◆出前講座「わたしたちとごみ」の実施〔再掲〕

別記4－（1）－①（P54）参照

◆人・環境フェスタ in 郡山事業〔再掲〕

別記4－（4）－①（P72）参照

◆森林環境交付金事業(教卓更新)〔再掲〕

別記2－（1）－①（P30）参照

◆こどもエコクラブ活動支援〔再掲〕

別記5－（2）－②（P94）参照

◆環境フェスティバル[再掲]

別記5－(2)－②(P94)参照

◆川の健康診断事業

〔生活環境課〕

「川の健康診断」は、河川にすむサワガニやカゲロウなどの「肉眼で見ることのできる大きさの様々な生物(指標生物)」を調べ、その結果から河川の水質をしらべるもので、河川に親しみ水環境保全の重要性を学ぶことを目的として、市内の小中学生等を対象に学校の近くの河川等で実施しました。

[実施時期]平成25年5月から10月にかけて実施

[実施場所]阿武隈川水系で4河川4地点、阿賀野川水系で1河川2地点

[参加者数]21団体(15小学校、その他の団体6)延べ1,713人

◆食糧問題啓発事業(学校農園奨励事業)

〔農業委員会事務局〕

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響等により休止しました。

◆郡山市小学校教育研究会環境教育研究部での取り組み

〔学校教育課〕

平成24年度に引き続き、研究主題「身近な環境に意欲的にかかわり、環境への理解を深めるとともに、環境の保全や創造のために主体的に行動できる児童を育成するための指導はどうあればよいか」について、研究を進めました。

[研究の成果]

①環境保全の指標の一つとなる水質調査について、具体的に学んだり、発電と省エネルギー、環境に優しい調理の仕方についても具体的に学んだりすることができ、たいへん有意義でした。

②各校の環境教育の取り組みについて協議することによって、今できる環境教育について情報交換できたことはたいへん参考になりました。

◆花いっぱいコンクールへの参加

〔各小中学校〕

豊かな情操を育み、連帯意識の醸成を図ることを目的として、各学校が自主的に参加しました。
・学校花壇の部 参加校数 55校 最優秀賞 郡山市立桜小学校

◆教育施設生ごみ再利用処理機設置事業[再掲]

別記4－(1)－①(P52)参照

◆ふるさと田舎体験推進事業

〔農業政策課〕

市内外小中学生を対象に、逢瀬町や湖南町の農家への宿泊と農業体験を行うとともに、中山間地域等で農業体験を実施する団体に補助金を交付し、農業や食への理解と中山間地域の農村活性化を図りました。

(1) ふるさと田舎体験ツアーの実施(8月2日～4日、参加者19人)

(2) 郡山ふるさと田舎体験協議会事業補助金

5. 「学び、考え、行動する」 ～環境教育・学習の推進～

◆食料問題啓発事業(食と農に関するコンクール)

〔農業委員会事務局〕

食糧・農業問題について意識を高めてもらうことにより、安全・安心な食生活の実現を図るため、市民及び市内に勤務されている方を対象に、写真・川柳・絵画コンクールを実施し、作品を募集・表彰しました。

◇「食と農に関する写真・川柳・絵画コンクール」

[応募期間] 平成 25 年 9 月 2 日～11 月 29 日

[応募総数] 写真の部 52 点、川柳の部 2,190 点、絵画の部 289 点

[表彰式] 平成 26 年 2 月 11 日

[表彰数] 写真の部 6 点、川柳の部 15 点、絵画の部 9 点

◆水道週間ポスター展

〔水道局総務課〕

市内の小学校 4 年生を対象に「水道」をテーマとしたポスターを募集し、表彰するとともに、入賞作品をビッグアイ及び市民ギャラリーに展示し、水道事業の広報を行いました。

[募集期間] 平成 25 年 4 月 1 日～5 月 10 日

[対象] 市内小学 4 年生

[応募校数] 10 校

[作品数] 609 点

◆伝統文化伝承育成支援

〔中央公民館〕

各公民館において、伝統文化や歴史の講座等を開催し、地域伝統文化の伝承・育成を図りました。

【伝統文化の継承】

- ・こども太鼓・笛教室（小原田）・名倉太鼓伝承教室（名倉）・久留米押し絵伝承教室（久留米）・白岩たけのこクラブ（三春甚句）（東部）・牛庭水まつり奉納踊り（安積）・太鼓よこ笛（大槻）・フレッシュレディ！ふれあい太鼓とどろき講座（片平）・シニアうねめ太鼓講座（片平）・開湯子ども太鼓教室（熱海）・海老根手漉き和紙体験教室（中田）・柳橋歌舞伎ふれあい教室（中田）・中田伝統盆踊り太鼓教室（中田）

【地域の歴史の継承】

- ・「来て！見て！開成！」（開成）・「かおる民話茶屋」（薫）・「きくた再発見！」（喜久田）・「地域の歴史文化をたずねて」（永盛）・「歴史カルタを作る」（日和田）・「高瀬いいとこみつけ隊」（高瀬）・「ぐるっと湖南めぐり」（湖南）・田村町史跡案内ボランティアガイド養成講座「たむら歴史人」講座（田村）・中田歴史講座（中田）

◆環境推進員研修会

〔生活環境課〕

平成 25 年度は研修会に代えて、環境啓発リーフレット「今日から始めるエコライフ（特別号）」を発行し、職員への情報発信することにより趣旨の徹底を図りました。

◆職員研修の実施

〔職員課〕

研修等への派遣を通して、環境行政に関わる職員の人材育成を行っていましたが、平成 25 年度については実施しませんでした。

5. 「学び、考え、行動する」 ～環境教育・学習の推進～

◆専門職員研修

〔生活環境課・環境保全センター・清掃課・廃棄物対策課〕

環境調査研修所（環境省）等での研修に参加し、環境に関する専門知識の習得を図りました。

◇平成 25 年度参加研修

・環境調査研修所主催

ダイオキシン類ばく露防止対策特別教育講習、ごみ焼却余熱有効利用促進市町村等連絡協議会東北地区研修会、廃棄物処理実務研修会、廃棄物処理施設積算要領研修会、一般廃棄物処理施設管理技術講習会、廃棄物行政実務者研修会、環境教育研修、地球温暖化対策研修、環境モニタリング技術研修、土壌・地下水環境研修、産業廃棄物対策研修、課題分析研修Ⅰ（プランクトン）、石綿位相差顕微鏡法研修

・社団法人日本経営協会（NOMA）主催

地方自治体の環境行政推進講座

・その他機関主催

環境大気常時監視技術講習会、



どこでも環境教室

「どこでも環境教室」とは、環境に関する講座メニューを用意し、おおむね 10 名以上で構成される団体（学校・公民館等）からの申し込みに応じて“どこでも”出張し、環境に関する講座を実施するものです。



生活排水対策講座の様子



エコクッキング講座の様子

	平成 24 年度	平成 25 年度
開催回数	21 回	53 回
参加者数	740 人	3,300 人

開催回数
大幅UP!

(2) 人材の育成と連携の促進

環境教育・学習活動のリーダーとなる人材の把握・育成を図り、効果的な環境教育・学習を推進し、自発的な環境保全活動につながるよう努めます。

また、市民・事業者が行う自主的な環境保全活動を支援し、地域密着型・世代間交流型の取り組みの輪を広げるとともに、行政も含めた三者の連携・交流を推進します。

No.	環境指標	目標	目標年度
20	「こどもエコクラブ」 の登録者数	70クラブ 1,000人	平成29年度
子どもたちが地域で自主的な環境保全活動に取り組む「こどもエコクラブ」のクラブ数と会員数の増加を図ります。			

● 計画の目標に対する評価

No.	年度	現状	評価
20	平成23年度	13クラブ 469人	△
	平成24年度	6クラブ 109人	△
	平成25年度	4クラブ 92人	△
<p>原発事故により身近な河川等での活動ができないことなどからエコクラブとして活動するクラブ数、人数ともに減少しました。放射能問題が未だ払拭できていないなかで、エコクラブの活動を再開することは難しいのが現状です。しかし、「水生生物調査」のように湖南町などの比較的放射能による影響が少ない地域に出向いて環境についての学習をするなど、環境学習の機会は徐々に回復してきていると思われます。環境学習の機会が増加することはエコクラブの活動を再開するきっかけにもなると思われることから、今後も放射線等に十分注意しながら環境学習の機会の増加に努めていきます。</p>			

(2)-①人材の育成・活用

◆エコサポーター養成講座

〔生活環境課〕

水生生物調査の調査方法等の知識を持つ指導者を養成し、体験的な環境学習の参加機会の拡大を目的として平成18年度から実施しており、平成23年度は、東京電力福島第一原子力発電所事故によって屋外活動自体が制限されたことから中止しましたが、平成24年度に再開しました。

【平成25年度 参加者23団体65名（福島県と共催）】

◆生涯学習きらめきバンク

〔生涯学習スポーツ課〕

さまざまな分野で活躍する指導者やボランティア、会員、グループ・サークルに、「きらめき達人先生」として登録いただき、活動の場を提供しました。（環境以外の分野も含む）

- ・情報提供：ホームページ、冊子による人材情報の提供
- ・人材登録：随時、登録者を受付
- ・人材情報の更新：平成26年2月～3月に登録者照会し、掲載内容を更新
- ・登録者・団体数：273人・15団体
- ・登録メニュー：422件
- ・活動状況：11,832件

◆環境浄化推進員制度[再掲]

別記4－（1）－②（P55）参照

◆環境に関する出張講座「どこでも環境教室」[再掲]

別記5－（1）－②（P86）参照

(2)-②環境保全活動の支援

◆郡山市エコ・オフィス認定事業[再掲]

別記1－（1）－②（P21）参照

◆中小企業金融対策事業(中小企業成長融資制度)

〔商工振興課〕

資金繰りの厳しい中小企業者の資金調達円滑化を目的として設けられている中小企業融資制度の中でISO取得に係る融資制度（成長融資制度）を設け、取得を支援しています。

◇平成25年度「成長融資」利用実績（新規）：1件 [事業費]6,000,000円

◆商店街環境整備事業

〔商工振興課〕

商店街等が行う街路灯の改修（LED化）に要する費用を助成し、明るく安全・安心な街並みの環境整備に努めました。

・街路灯のLED化改修実施団体数：10団体 [事業費]17,158,000円

◆清掃用器具貸出に関する取り組み

〔道路維持課〕

道路側溝のふた上げ器具の貸出しを行い、地域で行われる環境保全活動の支援に努めました。

◆地区で行われる環境保全活動支援

〔各行政センター等〕

地域における清掃活動への用品提供やごみの収集作業、道路側溝のふた上げ器具の貸出しなど、地域で行われる環境保全活動の支援に努めました。

5. 「学び、考え、行動する」 ～環境教育・学習の推進～

◆河川クリーンアップ作戦[再掲]

別記3-(4)-③(P50)参照

◆かんきょう図書館

[生活環境課]

環境活動に必要な用品の貸出しを行うことにより、市民の環境活動の一層の推進を図りました。

環境活動に必要な用品の貸し出しを行うことにより、市民の環境活動の一層の推進を図りましたが、平成25年度の利用者はおりませんでした。

【参考：平成25年度貸出・提供用品】平成26年3月現在

貸出用品(双眼鏡、実体顕微鏡、虫めがね等)	22種
貸出用パネル	15枚
貸出用紙芝居(専用舞台あり)	7種
貸出用書籍	299冊



エコまる(ウォークバルーン)

[生活環境課]

◆「環境活動ハンドブック」の改訂・配布

市民が環境保全等に関する活動に取り組みやすくなるよう、環境情報を集めたハンドブックの作成・配布を行い、環境活動の一層の推進を図りました。

- ・作成配布部数：500部

◆貸出用教材等整備事業[再掲]

別記5-(3)-②(P98)参照

◆市民活動団体への支援

[市民協働推進課]

市民活動推進事業等を実施し、多くの市民に協働意識の醸成を図るとともに、自主的・主体的活動を促すため、活動環境の整備を図りました。

○市民活動推進事業

- (1) 市民対象講演会の開催：平成26年1月12日 ミューカルがくと館、参加者100名
- (2) 市民活動交流サロンの開催：2回(4月・8月)
- (3) こおりやまNPO連絡会議開催：5回(4・7・9・11・12月)
- (3) 広報紙「あしすとばあく」の発行：3回(7、10、3月)
- (4) 市民活動応援講座の開催：2回(平成25年7月、平成26年1月)
- (5) 市民自主企画イベントサポート事業の開催：公共施設手配、広報協力、職員派遣等の事業協力、11団体11事業

○市民活動交流広場事業

平成25年度こおりやま市民活動交流フェスタの開催 800名

○市民活動サポートメール発信事業

メールによる市民活動の情報等発信：毎月1回(基本10日)、計12回配信

○こおりやまNPOガイドブック作成事業

市内で活動するNPO法人をはじめとした市民活動団体の活動内容を各団体毎に紹介、東日本大震災時の活動内容も併せて掲載。町内会等にも配布。 2,000部

○市民公益活動総合補償保険制度事業

全市民対象とし、市民公益活動中の損害賠償責任事故及び傷害事故を補償

○その他：各種相談窓口業務等

[事業費]8,962,000円

◆ひとまちづくり活動応援事業

〔市民協働推進課〕

地域特有の歴史、文化、自然環境等の地域資源を生かした活動等、市民や市民活動団体が取り組む自主的・主体的な地域づくり活動に対し、必要に応じた支援を実施することにより市民が主役の協働のまちづくりの推進に寄与しました。

①情報提供 市民活動に対する支援事業（制度）の情報発信

②ひとまちづくり人材育成事業 補助団体：1団体

③ひとまちづくり活動支援事業

・地域づくり活動支援事業 補助団体：3団体

・市民提案型活動支援事業 補助団体：8団体

④郡山市市民活動推進顕彰事業

「まちづくりハーモニー賞」 顕彰数：8団体、2個人

⑤交流・連携事業

補助団体の事業成果展示「わくわくふれあいまちづくり」

開催期間：平成26年3月1日～3月8日（市民ふれあいプラザ広報スペース）

〔事業費〕2,314,000円

◆桜の里づくり事業

〔観光物産課〕

郡山市では「桜の里づくり」を提唱し、地域住民と一体となった観光地を作り出し更なる交流人口の増加を目指して、地域住民が実施する桜の植樹の際に苗木の配布を行うなど、自然を生かした観光地としての活用を図りました。

・桜の苗木配布：55本 〔事業費〕278,000円

（内訳：湖南地区20本、田村地区：10本、片平地区10本、喜久田地区10本、熱海地区5本）

◆花と緑の公園事業〔再掲〕

別記4－（4）－①（P72）参照

◆フラワーロード推進事業〔再掲〕

別記4－（4）－①（P72）参照

◆郡山市緑あふれるまちづくり事業〔再掲〕

別記4－（4）－①（P73）参照

◆都市緑化事業〔再掲〕

別記4－（4）－①（P73）参照

◆こどもエコクラブ活動支援

〔生活環境課〕

環境を大切にする意識の高揚を図るため、市内の小中学生等で構成する「こどもエコクラブ」が自主的に行う環境学習や実践活動が行えるよう、環境調査用品の提供、交流会の開催等の支援をしました。

・こどもエコクラブに登録した小中学生に、オリジナルキャップの配布、活動の参考となる冊子や環境調査機材の提供を行いました。

【平成25年度 エコクラブ数 4クラブ（3小学校、1団体）、92名】

◆環境フェスティバル

〔生活環境課〕

こどもエコクラブ活動の発表の場の提供と、クラブ間の交流を図ることを目的として開催していましたが、東日本大震災の影響によって屋外活動自体が制限され、エコクラブに登録している学校、登録者等が減少したことから、平成25年度は郡山市役所の正庁で開催しました。

【平成25年度 3クラブ（3小学校）、76名】

(2)-③連携・交流の促進

◆環境に関する出張講座「どこでも環境教室」[再掲]

別記5-(1)-②(P86)参照

◆地球温暖化防止対策事業[再掲]

別記1-(1)-①(P19)参照

◆明るいまちづくり推進事業(花いっぱいコンクール)[再掲]

別記4-(4)-①(P73)参照

◆猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会[再掲]

別記3-(2)-④(P46)参照

◆エコネット推進事業

[生活環境課]

環境保全に関心のある個人・団体等に呼びかけ、登録者へさまざまな情報を掲載したメールマガジンを発行し、情報を共有する場としてのネットワーク形成を図りました。

- ・メールマガジン毎月1回、年12回配信

◆各種団体などとの連携

実行委員会の組織や協議会、連絡会など各種団体と連携を図り、効果的な事業推進を行いました。

- 猪苗代湖環境保全推進連絡会
- 猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会
- 人・環境フェスタ など

◆共催・後援事業

他団体等が開催する環境についてのイベント等の共催、後援により、連携し効果的な環境教育・学習を図りました。

- 後援
 - ・第6回新☆エネルギーコンテスト
主催：新☆エネルギーコンテスト実行委員会・日本機械学会技術と社会部門
 - ・日本大学学部連携研究推進シンポジウム「日本大学の総合力を結集し、大災害に抗した持続可能なコミュニティの実現と未来世代への継承シナリオ」
主催：日本大学
 - ・こおりやま親子でエコ体験 エコ体験コラボイベント
主催：ポコラヴィプロジェクト、積水ハウス郡山支店

(3) 環境情報の共有化

環境教育・学習の推進にあたっては、環境に関する正しい情報を適切に収集し、提供していくことが重要となります。

パンフレット・情報誌などのほか、インターネットなどさまざまな手段を活用し、積極的に環境に関する情報の収集・提供を行い、情報の共有化と有効利用を図ることにより、自らが気づき、環境にやさしい行動をするための知識を育みます。

No.	環境指標	目標	目標年度
21	環境コーナーの活用 ウェブサイトの充実	内容充実	平成29年度

環境に関する情報発信の拠点として市役所内に開設した「かんきょう学習コーナー」の活用やウェブサイトの充実により、市内の環境や地域環境の現状、環境にやさしい取り組みなど各種環境情報を広く提供し、情報の共有化に努めます。

● 計画の目標に対する評価

No.	年度	現状	評価
21	平成23年度	(内容を充実しました)	○
	平成24年度	(内容を充実しました)	○
	平成25年度	(内容を充実しました)	○

平成25年度は、各施設での環境に関する展示コーナーの充実を図るとともに、ウェブサイトやメールマガジンによる積極的な情報提供を行いました。今後も、人々が環境問題に関心を持ち、自主的な環境活動への参加のきっかけとなるような情報提供に努めていくとともに、市民ニーズにあった情報を提供できるように内容等を検討していきます。

5. 「学び、考え、行動する」 ～環境教育・学習の推進～

(3)-①情報の収集

◆希少野生生物保護等啓発事業[再掲]

別記2-(2)-①(P34) 参照

◆公共用水域水質調査[再掲]

別記3-(1)-①(P39) 参照

◆大気汚染、ダイオキシン等各種調査[再掲]

別記4-(3)-①(P69) 参照

◆大気中のアスベスト監視等[再掲]

別記4-(2)-①(P62) 参照

◆調査活動等(星空等)[再掲]

別記5-(1)-②(P83) 参照

◆各種環境情報の収集

[生活環境課]

環境情報誌やインターネットなど、さまざまな方法により環境情報を収集するとともに、情報の有効活用を図るため、各種資料の収集に努め、「かんきょう楽習コーナー」等を活用して一般市民へ配布を行いました。

◆我が家の省エネ大作戦事業

[生活環境課]

省エネに対して創意工夫して取り組んだ事例やアイデアを募集し、優秀であったものを表彰しました。

[応募件数] 49件

[表彰] 最優秀賞 1点

優秀賞 1点

奨励賞 5点

(3)-②情報の提供

◆マスメディアによる市政広報事業

[広聴広報課]

テレビ・ラジオ・新聞等のマスメディアを活用し、より幅広い層へ環境に関する市政広報を行い、市民意識の啓発を図りました。

【テレビ】

水源地清掃バスツアー (6/7)

産総研福島再生可能エネルギー研究所連携推進交流会 (10/6・11・13)

人・環境フェスタ in 郡山 2013 (10/11・13)

環境フェスティバル (2/16)

【ラジオ】

スーパー環太郎の環境貯金箱参加家族大募集 (5/11)

6月は環境月間です (6/1)

河川クリーンアップ作戦 (7/6)

◆「広報こおりやま」「暮らしのガイドブック」等の活用

〔広聴広報課〕

毎月発行の「広報こおりやま」において環境の特集を組み、環境の啓発を行いました。作成にあたり、環境にやさしい大豆油インキと再生紙またはFSC認証紙を使用しました。

- ・ 広報こおりやま
 - ①環境特集：6月（ふるさとの環境を考える）
 - ②夏の自然へ出かけよう：7月（自然を満喫できる場所の紹介）
 - ③情報ページ：随時掲載

◆かんきょう楽習コーナーの活用

〔生活環境課〕

多様化する環境問題の解決には、環境の現状や環境に配慮した取り組みなどについて、正しい情報を知り、理解を深めていくことが必要であり、そのためには様々な場や機会を活用し環境に関する情報を発信していくことが重要となることから、環境に関する情報を継続して発信していく拠点として市役所西庁舎1階に「かんきょう楽習コーナー」を設置し、定期的な展示内容の変更や最新の情報を提供するなど、コーナーの充実・活用を図りました。

- ・ 展示内容の充実、パンフレット、情報誌、啓発品の提供など

◆かんきょう図書館[再掲]

別記5－(2)－②（P93）参照

◆消費者啓発事業

〔市民安全課〕

◆石けん使用運動推進事業

人体への安全性や水質汚濁等の環境問題への対策の一つとして、市民に対して石けん使用を推進するための啓発活動を行う石けん使用運動連絡協議会と連携し、啓発活動を行うことで市民への意識啓発を図りました。

- ・ 各種事業開催時に石けん使用のパネル展示や見本配布による啓発活動の実施
- ・ 生活展における啓発（パネル展示とアクリルたわしの実演）
- ・ 出生届時に液体石けんの見本（200ml）の支給

◆くらしの情報コーナーでの啓発事業

省エネなどについて消費者への啓発を行うため、市役所西庁舎一階のくらしの情報コーナーにおいて展示啓発を行い、市民への意識啓発を図りました。

- ・ 2月「2月は省エネルギー月間です」
（省エネルギー月間につき、冬場における省エネルギーのポイントについて展示啓発）

◆エコネット推進事業[再掲]

別記5－(2)－③（P95）参照

◆ウェブサイトを活用した環境情報提供

〔各課等〕

市ウェブサイトにおいて、環境問題や市の取り組み、環境に関連するイベント・事業等の情報提供を行い、市民、事業者に広く周知を図りました。

◆貸出用教材等整備事業

〔中央図書館〕

市民の環境保全に関する意識を高めるため、環境月間に合わせ主催映画会での上映や、貸出教材の中に環境教育に関するソフトを導入し、団体向けの活用促進を図りました。

- ・ 環境教育に関するソフト（ビデオ・DVD）の活用実績
〈貸出〉 件数：9件 利用者数：1110人
〈主催映画祭〉 件数：2件 利用者数：149人
- ・ 環境教育に関するソフト（ビデオ・DVD）の導入実績
購入数：2本 寄贈数：1本 計3本

5. 「学び、考え、行動する」 ～環境教育・学習の推進～

◆環境月間事業

〔生活環境課〕

6月の環境月間に合わせて各種の環境啓発を実施し、市民に環境保全の必要性を広く呼びかけ、意識の高揚を図りました。

○環境月間（6月）

- ・環境月間のPR懸垂幕設置の設置
- ・環境に関する啓発パネル展の実施
かんきょう楽習コーナー（市役所西庁舎1階）
ふれあい科学館展望ロビー（ビッグアイ22階）
中央図書館1階エントランスホール
- ・広報こおりやま6月号で環境に関する特集を掲載

◆地球温暖化防止月間事業[再掲]

別記1－（1）－②（P20）参照

◆「郡山市のかんきょう」作成・配布事業

〔生活環境課〕

子どもからの環境教育を推進するため、本市の環境の現状及び近年の環境問題について興味を持って学習してもらい、自分たちにもできる環境保全の取り組みについて理解してもらうことを目的に、環境学習用資料として「郡山市のかんきょう（A4判39ページ、FSC認証紙を使用）」を作成して市内小学校5年生に配布しました。

- ・配布部数：約6,000部

◆「環境活動ハンドブック」の改訂・配布[再掲]

別記5－（2）－②（P93）参照

◆「わたしたちとごみ」作成・配布事業[再掲]

別記4－（1）－①（P54）参照

◆事業紹介冊子、パンフレット作成・配布

〔生活環境課〕

環境情報や環境教育・学習に活用できる施設や事業を紹介する各種冊子、パンフレット等の作成及び配布を行いました。

- ・平成25年度版郡山市の環境（平成24年度郡山市環境基本計画年次報告書）
- ・環境学習資料集「郡山市のかんきょう」（主に小学校5年生に配布）
- ・平成26年環境カレンダー
- ・環境活動ハンドブック など

◆公用自転車活用事業(CO₂削減開拓チャレンジ事業)[再掲]

別記1－（1）－④（P24）参照

◆希少野生生物保護等啓発事業[再掲]

別記2－（2）－①（P34）参照

◆埋蔵文化財周知紹介事業[再掲]

別記4－（4）－②（P74）参照

◆古文書筆耕事業[再掲]

別記4－（4）－②（P74）参照

特 集

郡山市の放射線対策

◇ 数値については、「郡山市の原子力災害対策（第9版）」より抜粋。特に記載のある場合を除き、すべて平成26年4月30日現在のものです。詳細については「郡山市の原子力災害対策」および「郡山市ふるさと再生除染実施計画」をご覧ください。また、市ウェブサイト原子力災害対策のページでもご覧になれます。

特集 郡山市の放射線対策

(1) 郡山市の除染に関する取り組み

郡山市では、市民生活を最優先に考え、一日も早く市民の安心な生活環境を取り戻すため、市をはじめ、地域住民や町内会、PTA、ボランティア、企業等との協働により、市と市民が一体となった除染を迅速に進めます。また、除染等の方針や方法等については、「郡山市ふるさと再生除染実施計画」を定め、計画に基づき除染を進めます。

◆小中学校、保育所等の除染

○実施内容

- ・平成 23 年 他に先駆けて小中学校校庭及び保育所所庭等の表土除去を開始。
- ・平成 24 年 子どもたちの更なる安全・安心な教育環境を確保するため、小中学校のプール及びプールサイド並びに校舎屋上や校地内の外周部等について除染を実施。また、保育所等においても同様の除染を実施。全ての小中学校及び保育所等で $0.5 \mu\text{Sv/h}$ を下回る。

◆スポーツ広場・観光施設等の除染

○実施内容

- ・平成 23 年度実施件数……………7 件(地上から 50 cm で $1.0 \mu\text{Sv/h}$ 以上の広場)
- ・平成 24 年度実施件数……………13 件
- ・平成 25 年度実施件数……………3 件

◆公園等の除染

○実施内容

- ・平成 23 年度実施箇所数……………458 か所(地上から 50 cm で $1.0 \mu\text{Sv/h}$ 以上の公園等)
- ・平成 24 年度実施箇所数……………203 か所(地上から 50 cm で $1.0 \mu\text{Sv/h}$ 以下の公園等)
- ・平成 25 年度実施箇所数……………268 か所(地上から 50 cm で $1.0 \mu\text{Sv/h}$ 以下の公園等)

◆一般住宅の除染

○実施内容

- ・平成 24 年度実施件数……………19,141 件
- ・平成 25 年度実施件数……………29,028 件
- ・平成 26 年度以降実施予定件数……約 55,000 件

◆農地の除染

○実施内容

- ・平成 23 年度実施面積……………45ha
- ・平成 24 年度実施面積……………789.5ha
- ・平成 25 年度実施面積……………871.8ha
- ・平成 26 年度以降実施予定面積……………814.0ha

◆除染情報ステーションの設置

大型タッチパネルを用いて住宅除染の計画や進捗状況等について分かりやすく解説するほか、住宅除染の流れを説明するパネルや放射線量測定器の展示をしている「除染情報ステーション」を設置しました。

供用開始日:平成 26 年 2 月 3 日(月)

設置場所:本庁舎1階 市民ホール内

(2) 郡山市の放射線量モニタリングと食の安全に関する取組み

◆身の回りの放射線量測定・測定機器の貸出

○実施内容

- ・サーベイメータの配備……行政センター及び方部町内会連合会を通して市内全 658 町内会に配付
- ・個人宅の放射線量測定……実施済み件数 2,531 件
- ・個人へのサーベイメータの貸出し……貸出し件数 8,426 件

◆食品の安全確保

○実施内容

- ・一般食品等の放射性物質測定……測定件数 49,283 件
- ・保健所における流通加工食品の放射性物質検査……検査件数 4,721 件
- ・販売用の農産物等の放射性物質測定……測定件数 4,414 件
- ・米の全量全袋検査……検査件数 1,461,071 袋(検査実施主体は郡山市農業協同組合など)

(3) 郡山市の放射線からの健康管理に関する取組み

◆ホールボディカウンターによる内部被ばく検査

○実施内容

- ・平成 24 年 6 月 7 日より郡山市保健所内にて検査開始。現在、立位式 2 台、チェア式 2 台により検査を実施。
- ・平成 26 年 4 月末までに、約 87,500 人の検査を実施しており、結果が判明している方の生涯における体内から受けるとされる内部被ばく線量は全員 1mSv 未満でした。

◆郡山市震災後子どものケアプロジェクト

平成 23 年 3 月 29 日に郡山医師会など関係団体と連携して、「郡山市震災後子どもの心のケアプロジェクトチーム」を立ち上げ、子どもたちの心や体のケアに取り組みました。また、平成 24 年 8 月 11 日に名称を「郡山市震災後子どものケアプロジェクトチーム」に変更するとともに、組織体制の強化を図りました。

○実施内容

- ・親子向けイベント「キッズフェスタ」の開催……開催回数 8 回 参加者 約 7,566 人
- ・「震災後子どものケアプロジェクト記念フォーラム」の開催……開催回数 3 回 参加者 約 1,300 人
- ・読み聞かせ活動の開催……開催回数 567 回 参加者 子ども 8,954 人 大人 5,619 人

◆のびのび！親子体験事業【平成 24 年度、平成 25 年度】

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、屋外での活動が制限されている子どもたちが、元気な笑顔を取り戻すとともに、親子の絆を深め、友情の輪を広げるため、放射線量が低く、恵まれた自然環境を有している湖南地区において、親子による宿泊体験活動を実施しました。

- ・実施期間:平成 24 年度 平成 24 年 4 月 1 日(日)～平成 24 年 11 月 30 日(金)
平成 25 年度 平成 25 年 4 月 2 日(火)～平成 25 年 11 月 30 日(土)
- ・対 象:小・中学生とその保護者や少年団体等
平成 24 年度参加者 4,234 人
平成 25 年度参加者 8,802 人
- ・内 容:(1)少年湖畔の村の無料開放(日帰り・宿泊問わず)
(2)体験プログラムの実施(バスツアー・登山・サイクリング・花火&キャンプファイアー等)

◆**わくわく！ 湖南移動教室【平成 24 年度、平成 25 年度】**

恵まれた自然環境を有している湖南地区において、地域のボランティア団体の方々より支援をいただきながら、すべての小学校が教育課程に位置付けた環境学習や体験学習を行うことにより、ふるさと郡山のよさを発見するとともに心身のリフレッシュを図りました。

○活動内容

- ・実施期間……平成 24 年 5 月 18 日(金)～10 月 31 日(水)
平成 25 年 5 月 16 日(木)～10 月 29 日(火)
- ・対象……市立 58 小学校の全児童(約 18,000 名)
平成 24 年度参加児童 17,670 人
平成 25 年度参加児童 17,307 人
- ・内容……旧月形小学校及び少年湖畔の村を拠点に、各学校が発達段階に応じて計画した環境学習や体験活動を行う。(麓山登山、郡山布引風の高原散策、風力発電見学、水生生物調査、民話学習、民具の見学、木工工作、ひまわりの種まき等)

◆**「みんなでジャンプ！ 遊びの広場」事業(大型遊具の巡回)**

子どもたちの運動不足やストレスの解消につなげるため、思いきり体を動かし室内遊びができる大型遊具を巡回により公共施設に設置し、子どもたちの心と体のリフレッシュを図りました。

- ・開催回数等……平成 23 年度 延べ 5 施設 32 日間 利用者数 4,217 人
平成 24 年度 延べ 19 施設 150 日間 利用者数 9,910 人
平成 25 年度 延べ 20 施設 140 日間 利用者数 10,570 人

(4) 郡山市の放射線を正しく理解するための取組み

◆**放射線・除染講習会の開催**

放射線及び除染の基礎的な知識について正しく理解するため、福島県との共催により講習会を開催しました。なお、基礎的な知識についての講習会は平成 24 年度で終了しました。

- ・開催回数等……平成 23 年度 開催回数 5 回 参加人数 約 650 人
平成 24 年度 開催回数 5 回 参加人数 約 205 人

◆**市職員による放射線講習**

市職員による PTA、町内会、消防団など各種団体の皆様を対象とした放射線講習会を開催しました。

- ・開催回数:平成 23 年度 計 19 回
平成 24 年度 計 19 回
平成 25 年度 計 9 回

(5) 市内空間線量の推移(平成 23 年 3 月 29 日～平成 26 年 4 月 30 日)

測定場所	平成 23 年 3 月 29 日	平成 26 年 4 月 30 日	減少割合
郡山合同庁舎	2.59 μ Sv/h	0.15 μ Sv/h	94.2%
郡山市役所	2.57 μ Sv/h	0.23 μ Sv/h	91.1%
福島県農業総合センター	2.78 μ Sv/h	0.21 μ Sv/h	92.4%
田母神小学校	0.40 μ Sv/h	0.10 μ Sv/h	75.0%
逢瀬行政センター	1.10 μ Sv/h	0.23 μ Sv/h	79.1%

郡山市地球温暖化対策 実行計画（区域施策編）

温室効果ガス排出状況

◇ 本報告書は、データの入手可能な最新年度の平成23年度の内容になっております。

◆各温室効果ガスの排出量についての評価について

○	ほぼ計画どおり推進している。
△	計画より遅れている。

郡山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の概要

(1) 郡山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）とは

「郡山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」は、本市の地域特性を活かした地球温暖化対策を積極的に推進することで、本市を低炭素社会へと転換するとともに、世界共通の喫緊の課題である地球温暖化の防止に貢献することを目的としています。また、エネルギー消費の少ない低炭素社会への転換を図るための方向性を示し、中期における温室効果ガス削減目標や本市の地域特性を活かした対策、市民・事業者・行政の各主体における削減目標達成に向けた具体的な取り組み等について定めた計画であり、「郡山市第二次環境基本計画」の地球温暖化対策に関する個別計画です。

(2) 計画の期間と目標

「郡山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」は、温室効果ガス排出量を基準年度（平成 19 年度）比で 25%削減することを目標とするものであり、平成 23 年度を初年度とし、平成 32 年度を目標年度としています。

(3) 計画の対象とする温室効果ガス

本市から排出される温室効果ガス排出量の算定対象とするのは、京都議定書及び温対法で対象としている以下の 6 種類としています。

◇対象とする温室効果ガス

温室効果ガス		概要
二酸化炭素 (CO ₂)		化石燃料の燃焼等に伴い発生するもの。
メタン (CH ₄)		水田や家畜の腸内発酵、廃棄物処理等から発生するもの。
一酸化二窒素 (N ₂ O)		耕地への化学肥料の施肥や、廃棄物処理等から発生するもの。
代替フロン類	ハイドロフルオロカーボン (HFC)	冷蔵庫・エアコン等の冷媒や、スプレー等に使用されるもの。
	パーフルオロカーボン (PFC)	半導体洗浄や溶剤等に使用されるもの。
	六フッ化硫黄 (SF ₆)	半導体製造や電気絶縁ガスとして使用されるもの。

(4) 計画の対象範囲

本計画の対象範囲は、本市全域としています。ただし、地球温暖化対策は、広域的な視点での対策も必要となるため、対策によっては、周辺自治体、福島県、国との連携を図ります。

郡山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

郡山市における温室効果ガス排出量(平成23年度)

単位 千t-CO₂

温室効果ガスの種類、排出部門	平成 19 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 19 年度比
温室効果ガス総量	2,703.6	2,468.0	2,644.3	2.2%減少
二酸化炭素 (CO ₂)	2,573.3	2,349.7	2,523.5	2.0%減少
エネルギー起源二酸化炭素	2,529.9	2,316.5	2,463.9	2.6%減少
産業部門	644.5	550.1	526.8	18.3%減少
(内訳)				
建設業・鉱業	(25.7)	(26.1)	(25.2)	1.9%減少
製造業	(589.9)	(499.7)	(482.1)	18.3%減少
農林水産業	(28.9)	(24.4)	(19.5)	32.5%減少
民生家庭部門	612.5	584.4	628.2	2.6%増加
民生業務部門	574.8	514.9	630.8	9.7%増加
運輸部門	698.1	667.1	678.2	2.9%減少
(内訳)				
自動車(乗用)	(320.5)	(321.1)	(324.4)	1.2%増加
自動車(貨物)	(355.7)	(326.0)	(331.4)	6.8%減少
鉄道	(21.9)	(20.0)	(22.3)	1.8%増加
廃棄物起源二酸化炭素	43.4	33.2	59.6	37.3%増加
メタン (CH ₄)	44.6	39.9	39.9	10.5%減少
(内訳)				
廃棄物部門	(1.7)	(1.6)	(1.7)	増減なし
農業部門	(42.9)	(38.3)	(38.3)	10.7%減少
一酸化二窒素 (N ₂ O)	12.7	10.7	11.1	12.6%減少
(内訳)				
廃棄物部門	(4.4)	(4.2)	(4.6)	4.5%増加
農業部門	(8.4)	(6.5)	(6.5)	22.6%減少
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	40.2	52.5	56.8	41.3%増加
パーフルオロカーボン (PFC)	19.4	9.8	8.4	56.7%減少
六フッ化硫黄 (SF ₆)	13.3	5.3	4.5	66.2%減少

※四捨五入の関係で合計値と内訳の合算値が異なるものがあります。

※統計等の資料で平成23年度の値が確認できないものに関しては、確認できる最新のものを使用しています。

郡山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

種類・部門別削減目標

種類・部門	平成 19 年度排出量(千t-CO ₂)	現状固定による平成 32 年度における推計排出量	平成 32 年度目標排出量(千t-CO ₂)	目標削減率(%)
温室効果ガス(総量)	2703.6	2778.2	2027.6	25.0
二酸化炭素	2573.3	2576.8	1863.2	27.6
産業部門	644.5	665.0	564.3	12.4
民生家庭部門	612.5	623.8	425.2	30.6
民生業務部門	574.8	560.5	420.6	26.8
運輸部門	698.1	695.2	578.1	17.2
廃棄物起源	43.4	32.2	32.2	25.8
メタン	44.6	24.9	23.8	46.7
一酸化二窒素	12.7	8.1	6.2	51.4
ハイドロフルオロカーボン	40.2	168.4	134.5	-84.3
パーフルオロカーボン	19.4			
六フッ化硫黄	13.3			

郡山市の温室効果ガス排出状況

(1) 温室効果ガスの総排出量

平成 23 年度の郡山市の温室効果ガス排出量は、総排出量 2644.3 千 t-CO₂であり、平成 19 年度比で約 2.2%減少しました。

種類	平成 19 年度の排出量(千t-CO ₂)	平成 23 年度の排出量(千t-CO ₂)	平成 19 年度比(%)	評価
温室効果ガス	2703.6	2644.3	-2.2%	△

(2) 温室効果ガスの種類別排出量

①二酸化炭素

二酸化炭素の総排出量は 2523.5 千 t-CO₂であり、平成 19 年度比で約 2.0%減少しました。

郡山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

<部門別排出量>

産業部門・・・排出量は526.8千t-CO₂であり、平成19年度比で約18.3%減少しました。

民生家庭部門・・・排出量は628.2千t-CO₂であり、平成19年度比で約2.6%増加しました。

民生業務部門・・・排出量は630.8千t-CO₂であり、平成19年度比で約9.7%増加しました。

運輸部門・・・排出量は678.2千t-CO₂であり、平成19年度比で約2.9%減少しました。

廃棄物起源・・・排出量は59.6千t-CO₂であり、平成19年度比で約37.3%増加しました。

部門別二酸化炭素排出状況

部門	平成19年度の排出量(千t-CO ₂)	平成23年度の排出量(千t-CO ₂)	平成19年度比(%)	評価
産業	644.5	526.8	-18.3%	○
民生家庭	612.5	628.2	+2.6%	△
民生業務	574.8	630.8	+9.7%	△
運輸	698.1	678.2	-2.9%	○
廃棄物起源	43.4	59.6	+37.3%	△
計	2573.3	2523.5	-2.0%	△

②メタン

メタンの総排出量は39.9千t-CO₂であり、平成19年度比で約10.5%減少しました。

部門	平成19年度の排出量(千t-CO ₂)	平成23年度の排出量(千t-CO ₂)	平成19年度比(%)	評価
メタン	44.6	39.9	-10.5%	○

③一酸化二窒素

一酸化二窒素の総排出量は11.1千t-CO₂であり、平成19年度比で約12.6%減少しました。

郡山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

部門	平成 19 年度の排出量(千t-CO ₂)	平成 23 年度の排出量(千t-CO ₂)	平成 19 年度比 (%)	評価
一酸化二窒素	12.7	11.1	-12.6%	○

④ハイドロフルオロカーボン

ハイドロフルオロカーボンの総排出量は 56.8 千 t-CO₂であり、平成 19 年度比で約 41.3%増加しました。

⑤パーフルオロカーボン

パーフルオロカーボンの総排出量は 8.4 千 t-CO₂であり、平成 19 年度比で約 56.7%減少しました。

⑥六フッ化硫黄

六フッ化硫黄の総排出量は 4.5 千 t-CO₂であり、平成 19 年度比で約 66.2%減少しました。

部門	平成 19 年度の排出量(千t-CO ₂)	平成 23 年度の排出量(千t-CO ₂)	平成 19 年度比 (%)	評価
ハイドロフルオロカーボン	40.2	56.8	+41.3%	○
パーフルオロカーボン	19.4	8.4	-56.7%	
六フッ化硫黄	13.3	4.5	-66.2%	

平成 23 年度における温室効果ガス排出量は基準年に比べて約 2.2%減少しているものの、計画よりは若干遅れています。産業部門で排出量が大きく減少しており、工場等の生産現場での取組みが進んでいると考えられます。一方で、民生家庭部門や民生業務部門、廃棄物起源二酸化炭素などいくつかの部門では排出量が増加しました。要因としては、東日本大震災の影響により、火力発電用の化石燃料消費量が増加したことで電力使用に係る温室効果ガス排出係数が上がったこと、また大量の廃棄物が市内で発生したことで排出量は大幅に増加したと考えられます。

震災の影響が大きいなかではありますが、温室効果ガス排出量削減のためには、民生部門などの排出量が増加している部門での削減が必要であり、その為には一人ひとりの取組みが重要ですので、今後さらに市民や事業者が省エネ等に取り組みやすい環境づくりを進めるとともに、より一層の協力を求め、市民・事業者・行政が一丸となって温室効果ガス排出削減に努めていきます。

平成25年度郡山市の環境施策等に対する意見について

平成27年1月14日
郡山市環境審議会

「郡山市第二次環境基本計画」及び「郡山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」における各種事業や施策の進捗状況等に対する意見は以下のとおりです。

(1) 環境にやさしい農業等の推進について

- ・エコファーマー認定者のように環境にやさしい取り組みを進めている事業者が生産したものを市が率先して購入するなど、環境にやさしい農業等のさらなる推進に繋がるような施策の展開を期待する。

(2) 電気自動車の普及について

- ・電気自動車の普及に関しては、充電インフラの整備が重要であり、行政として積極的に整備を進める必要がある。

(3) 猪苗代湖の保全について

- ・郡山市の人々にとって猪苗代湖は郷土の誇りであり、その猪苗代湖の保全は重要な課題である。
- ・猪苗代湖の水質改善のためには、郡山市がリーダーシップを発揮し、近隣自治体と協力しながら広域的な対策をより一層推進していくことが重要である。
- ・猪苗代湖を郷土の誇りと捉え、その美しい環境を守って行くためには、子供の頃から環境について考え、行動する習慣を身に付けることが大切であり、その為には、小学校等において猪苗代湖に関する学習の機会を充実させることが重要である。

(4) 不法投棄対策について

- ・道路脇の見通しの悪いところに不法投棄がされやすいと思われるので、啓発看板の設置や草木を刈って見通しがきくようにするなど、捨てるのをためらうような対策を講じる必要がある。

(5) 郡山市地球温暖化対策実行計画について

- ・民生家庭部門からの温室効果ガス排出量は増加しており、排出量の削減には市民一人ひとりの取り組みが重要である。
- ・今後も、温室効果ガス排出量削減に向け、市民の皆さんに協力を求めながら省エネ等に関する取り組みをより一層推進していく必要がある。

郡山市環境基本条例

目次

前文

第1章 総則（第1条－第7条）

第2章 環境の保全及び創造に関する施策の基本指針等（第8条・第9条）

第3章 環境の保全及び創造のための基本的施策（第10条－第25条）

附則

わたくしたちの先人は、安積疏水を開さくすることで、猪苗代湖の水を安積平野に行き渡らせ、この大地を開拓し、本市発展の礎を築いた。わたくしたちは、これら先人の歴史的遺産を受け継ぐとともに、豊かな自然の恵みを受けて生活を営み、産業を興し、伝統や文化を育んできた。

しかしながら、近年、都市化の進展、市民の生活様式の変化等に伴い、生活の利便性が高まる一方で、資源やエネルギーが大量に消費され、本市においても都市型・生活型公害、廃棄物の増大などの問題が顕在化してきた。また、自然の復元力を超えるまでに拡大しつつある人間の活動は、地域の環境にとどまらず、自然の生態系に影響を及ぼし、さらには、地球の環境を脅かすまでに至っている。

わたくしたちは、健全で恵み豊かな環境の下に、健康で文化的な生活を営む権利とともに、この環境を保全し、さらにより良い環境とし、将来の世代に継承していくべき責務を有している。わたくしたちは、人類が自然の生態系の一部であり、地球の環境は有限でかけがえのないものであることを深く認識し、市、事業者及び市民が相互に協力し合って、環境への負荷の少ない持続的な発展が可能な社会を構築し、人と自然が共生できるまちづくりに取り組んでいくことを決意し、この条例を制定する。

第1章 総則

（目的）

第1条 この条例は、環境の保全及び創造について、基本理念を定め、並びに市、事業者及び市民の責務を明らかにするとともに、環境の保全及び創造に関する施策の基本となる事項を定めることにより、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって現在及び将来の市民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。

（定義）

第2条 この条例において「環境への負荷」とは、人の活動により環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるものをいう。

2 この条例において「地球環境保全」とは、人の活動による地球全体の温暖化又はオゾン層の破壊の進行、海洋の汚染、野生生物の種の減少その他の地球の全体又はその広範な部分の環境に影響を及ぼす事態に係る環境の保全であって、人類の福祉に貢献するとともに市民の健康で文化的な生活の確保に寄与するものをいう。

3 この条例において「公害」とは、環境の保全上の支障のうち、事業活動その他の人の活動に伴って生ずる相当範囲にわたる大気汚染、水質汚濁（水質以外の水の状態又は水底の底質が悪化することを含む。）、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下（鉱物の掘採のための土地の掘削によるものを除く。）及び悪臭によって、人の健康又は生活環境（人の生活に密接な関係のある財産並びに人の生活に

密接な関係のある動植物及びその生育環境を含む。以下同じ。)に係る被害が生ずることをいう。

(基本理念)

第3条 環境の保全及び創造は、市民が健康で文化的な生活を営むことのできる健全で恵み豊かな環境を確保し、及び向上させ、並びに将来の世代へ継承できるように適切に行われなければならない。

2 環境の保全及び創造は、生態系が健全に維持され、人と自然との共生が確保されるよう適切に行われなければならない。

3 環境の保全及び創造は、資源の適正な管理及び循環的な利用の推進により、環境への負荷の少ない持続的な発展が可能な社会を構築することを旨として、市、事業者及び市民の公平な役割分担の下に自主的かつ積極的に行われなければならない。

4 地球環境保全は、市、事業者及び市民がこれを自らの課題として認識し、すべての事業活動及び日常生活において積極的に推進されなければならない。

(市の責務)

第4条 市は、前条に定める環境の保全及び創造についての基本理念(以下「基本理念」という。)にのっとり、環境の保全及び創造に関し、市民の意見を尊重して、本市の自然的社会的条件に応じた基本的かつ総合的な施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の責務)

第5条 事業者は、基本理念にのっとり、その事業活動を行うに当たっては、これに伴って生ずる公害を防止し、又は自然環境を適正に保全するために必要な措置を講ずる責務を有する。

2 前項に定めるもののほか、事業者は、基本理念にのっとり、その事業活動に関し、これに伴う環境への負荷の低減その他環境の保全及び創造に自ら努めるとともに、市が実施する環境の保全及び創造に関する施策に協力する責務を有する。

(市民の責務)

第6条 市民は、基本理念にのっとり、環境の保全上の支障を防止するため、その日常生活に伴う環境への負荷の低減に努めなければならない。

2 前項に定めるもののほか、市民は、基本理念にのっとり、環境の保全及び創造に自ら努めるとともに、市が実施する環境の保全及び創造に関する施策に協力する責務を有する。

(年次報告書)

第7条 市長は、毎年、環境の状況並びに環境の保全及び創造に関して講じた施策の状況を明らかにするため報告書を作成し、公表するものとする。

第2章 環境の保全及び創造に関する施策の基本指針等

(施策の基本指針)

第8条 市は、環境の保全及び創造に関する施策を策定し、及び実施するに当たっては、基本理念にのっとり、次に掲げる事項の確保を旨として、各種の施策相互の連携を図りつつ総合的かつ計画的に行わなければならない。

(1) 公害を防止し、大気、水、土壌その他の環境の自然的構成要素を良好な状態に保持することにより、市民の健康を保護し、及び生活環境を保全すること。

(2) 生態系の多様性の確保、野生生物の種の保存その他の生物の多様性を確保するとともに、森林、

資 料

農地、水辺地等における多様な自然環境の保全及び回復を図り、人と自然が共生できる良好な環境を確保すること。

- (3) 緑化の推進、水辺地の整備、良好な景観の創造及び歴史的文化的遺産の保全を図ること。
- (4) 資源の循環的な利用、エネルギーの有効利用、廃棄物の減量等を推進することにより、環境への負荷の低減を図るとともに、地球環境保全に貢献すること。
- (5) 環境の保全及び創造のため、市、事業者及び市民が相互に協力し合える社会を形成すること。

(環境基本計画)

第9条 市長は、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、郡山市環境基本計画（以下「環境基本計画」という。）を定めなければならない。

2 環境基本計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

- (1) 環境の保全及び創造に関する総合的かつ長期的な目標及び施策の方向
- (2) 前号に掲げるもののほか、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

3 市長は、環境基本計画を定めるに当たっては、市民の意見を反映することができるよう必要な措置を講ずるとともに、郡山市環境審議会の意見を聴かなければならない。

4 市長は、環境基本計画を定めたときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

5 前2項の規定は、環境基本計画の変更について準用する。

第3章 環境の保全及び創造のための基本的施策

(施策の策定等に当たっての配慮)

第10条 市は、環境に影響を及ぼすと認められる施策を策定し、及び実施するに当たっては、環境基本計画との整合を図るとともに、環境の保全について配慮しなければならない。

(環境影響評価の推進)

第11条 市は、土地の形状の変更、工作物の新設その他これらに類する事業を行う事業者が、その事業の実施に当たり、あらかじめその事業に係る環境への影響について自ら適正に調査、予測及び評価を行い、その結果に基づき、その事業に係る環境の保全について適正に配慮することを推進するため、必要な措置を講ずるように努めるものとする。

(規制の措置)

第12条 市は、公害を防止するため、公害の原因となる行為に関し必要な規制の措置を講ずるものとする。

2 前項に定めるもののほか、市は、環境の保全上の支障を防止するため、必要な規制の措置を講ずるように努めるものとする。

(財政上の措置)

第13条 市は、環境の保全及び創造に関する施策を推進するために必要な財政上の措置を講ずるよう努めるものとする。

(環境の保全に関する施設の整備その他の事業の推進)

第14条 市は、下水道等の公共的施設の整備事業その他の環境の保全上の支障の防止に資する事業を推進するため、必要な措置を講ずるものとする。

- 2 市は、公園、緑地等の快適な生活環境の確保のための公共的施設の適正な整備を推進するため、必要な措置を講ずるものとする。
- 3 市は、前2項に定める公共的施設等の適切な利用を促進するために必要な措置を講ずるものとする。
(資源の循環的な利用の促進等)
- 第15条 市は、環境への負荷の低減を図るため、事業者及び市民による資源の循環的な利用、エネルギーの有効利用及び廃棄物の減量が促進されるよう必要な措置を講ずるとともに、再生資源その他の環境への負荷の低減に資する原材料、製品、役務等の利用が促進されるよう必要な措置を講ずるものとする。
- 2 市は、環境への負荷の低減を図るため、市の施設の建設及び維持管理その他の事業の実施に当たっては、資源の循環的な利用、エネルギーの有効利用及び廃棄物の減量の推進に努めるものとする。
(森林及び緑地の保全及び創造)
- 第16条 市は、快適な生活環境を保全し、及び生物の多様性の確保に資するため、森林及び緑地の保全及び創造に関し、必要な措置を講ずるよう努めるものとする。
(水環境の保全及び創造)
- 第17条 市は、生物の多様性の確保に配慮しつつ、良好な生活環境を保全するため、水環境の保全及び創造に関し、必要な措置を講ずるよう努めるものとする。
(良好な景観の形成等)
- 第18条 市は、地域の特性が活かされた快適な生活環境を保全するため、良好な景観の形成及び歴史的文化的遺産の保全に関し、必要な措置を講ずるよう努めるものとする。
(環境の保全及び創造に関する教育及び学習の振興等)
- 第19条 市は、関係機関等と協力して、市民及び事業者が環境の保全及び創造についての理解を深めるとともに環境の保全及び創造に関する活動を行う意欲が増進されるようにするため、環境の保全及び創造に関する教育及び学習の振興、広報活動の充実その他の必要な措置を講ずるものとする。
(民間団体等の自発的な活動の促進)
- 第20条 市は、市民、事業者又はこれらの者の組織する民間の団体(以下「民間団体等」という。)が自発的に行う緑化活動、再生資源に係る回収活動、環境美化に関する活動その他の環境の保全及び創造に関する活動が促進されるよう、指導、支援その他の必要な措置を講ずるものとする。
(情報の提供)
- 第21条 市は、第19条の環境の保全及び創造に関する教育及び学習の振興並びに前条に規定する民間団体等の自発的な環境の保全及び創造に関する活動の促進に資するため、個人及び法人の権利利益の保護に配慮しつつ環境の保全及び創造に関する必要な情報を適切に提供するよう努めるものとする。
(調査研究の実施)
- 第22条 市は、環境の保全及び創造に関する施策を適正に実施するために必要な調査研究を実施するよう努めるものとする。
(監視等の体制の整備等)
- 第23条 市は、環境の状況を把握し、並びに環境の保全及び創造に関する施策を適正に実施するために必要な監視、測定等の体制の整備に努めるものとする。
- 2 市は、前項の監視、測定等により把握した環境の状況について公表するものとする。

資 料

(地球環境保全の推進)

第 24 条 市は、地球環境保全に資する施策を積極的に推進するものとする。

2 市は、国、他の地方公共団体、民間団体等その他の関係機関等と連携し、地球環境保全に関する調査研究、情報の提供、技術の活用等の推進に努めるものとする。

(国及び他の地方公共団体との協力等)

第 25 条 市は、環境の保全及び創造に関する施策であって広域的な取組を必要とするものについては、国及び他の地方公共団体と協力して、その推進に努めるものとする。

2 市は、事業者及び市民との緊密な連携の下に、環境の保全及び創造に関する施策の推進に努めるものとする。

附 則

この条例は、平成 10 年 7 月 1 日から施行する。

用語の解説

地球温暖化

18世紀後半の産業革命以降、経済活動の発展などにより温室効果ガスが増加し、地球の気温が急激に上昇する現象のことで、異常気象の多発、海水面の上昇、食糧不足、伝染病の流行や生態系への影響などが懸念されており、現在、人類が抱える諸問題の中でも特に大きな問題となっています。2100年までに最大6.4℃上昇することが予測されています。

温室効果ガス

太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を暖める働きがあるガス。適度な温室効果により、地球の平均気温は約15℃に保たれています。京都議定書では、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六フッ化硫黄の6ガスが削減対象となっています。

二酸化炭素排出係数

電気やガスなどを単位量使用した場合にどの程度二酸化炭素が排出されるかを数値化したもの。各項目の使用量（電気：kWh、ガス：m³など）に排出係数を掛けると実際に排出された二酸化炭素の量が算出されます。

【参考】二酸化炭素排出係数

項目	二酸化炭素排出係数
電気	0.43
水道	0.23
都市ガス	2.2
プロパンガス	6.0
灯油	2.5
ガソリン	2.3
軽油	2.6
ごみ	0.34

酸性雨

石炭や石油等の化石燃料の燃焼に伴って、硫黄酸化物や窒素酸化物が大気中へ放出されることにより、これらの物質が雲に取り込まれて複雑な化学変化を繰り返して、強い酸性を示す降雨または乾いた粒子状物質として降下する現象をいいます。これによって、石造建築物の溶解、湖沼や井戸水の酸性化等や森林、農作物の枯死等の被害を受けます。ちなみに水素イオン濃度（pH）が5.6以下を酸性雨とよびます。

環境基準

環境基本法に基づき「人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」として国が定める基準のことで、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音などについて基準が設定されています。

用語の解説

化学的酸素要求量(COD:Chemical Oxygen Demand)

海や湖沼の汚れの度合いを示す数値。水中の有機物を酸化剤（過マンガン酸カリウム）で化学的に分解したときに消費される酸素量を mg/l の単位で表したもので、この値が大きいほど、有機物が多く汚れていることを示します。

生物化学的酸素要求量(BOD:Biochemical Oxygen Demand)

河川などの汚れの度合いを示す数値。水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素量を mg/l の単位で表したもので、この値が大きいほど、有機物が多く汚れていることを示します。

75%値

水質調査の測定値を値の低い順に並べ、低いほうから数えて 75%目の値。市の水質調査の場合には、月 1 回ずつ年 12 回の調査を行っているため、12 回の測定値のうち値の低いほうから数えて 9 番目の値となります。(9/12=75%)

特定事業場

水質汚濁防止法、大気汚染防止法、騒音規制法、振動規制法等で定められています。人の健康や生活環境に係る被害を生ずる恐れがある物質を排出する施設、あるいは、騒音や振動を発生する施設を設置する工場又は事業場を指します。

全窒素

水中に含まれる窒素化合物の窒素の総量。過剰になると、湖沼やダム湖等の閉鎖性水域で藻類等の増殖を引き起こし、富栄養化の度合いを示す代表的な指標の一つです。

全りん

水中に含まれる「りん化合物」の「りん」の総量。全窒素同様、富栄養化の度合いを示す代表的な指標の一つで、過剰になると、湖沼やダム湖等の閉鎖性水域で藻類等の増殖を引き起こします。

廃棄物

ごみ、粗大ごみ、燃え殻、汚泥などの汚物又は不用として廃棄される物。事業活動に伴い発生する廃棄物のうち、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック、建設業にかかる木くず、コンクリートくず、食品製造業に係る原料由来の不用物など、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び施行令で規定されているものを産業廃棄物といい、産業廃棄物以外の廃棄物を、一般廃棄物といいます。

公害

環境基本法では、公害とは、事業活動などに伴って生ずる相当範囲にわたる大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下及び悪臭により、人の健康及び生活環境に係る被害が生ずることと定義しています。これらは、「典型 7 公害」といわれています。

硫黄酸化物(SO_x)

二氧化硫黄(SO₂)や三酸化硫黄(SO₃)など、硫黄の酸化物の総称で、ソックス・SO_xともいいます。硫黄分が含まれる石油や石炭など化石燃料の燃焼の際に発生します。大気中の水分と結合して強い酸性を示し、大気汚染、酸性雨の原因となります。

窒素酸化物(NO_x)

一酸化窒素(NO)や二酸化窒素(NO₂)など、窒素の酸化物の総称。高温燃焼時に、空気中の窒素が酸化され、一酸化窒素が発生し、大気中でさらに酸化され、二酸化窒素になります。人の健康に悪影響を与える恐れがあり、光化学オキシダントや酸性雨の原因ともなります。

光化学オキシダント

工場、自動車などからの窒素酸化物、炭化水素等の一次汚染物質が、太陽光線(紫外線)の作用により光化学反応し、二次的に生成される酸化性物質の総称です。粘膜への刺激、呼吸への影響といった健康被害のほか、農作物など植物へも影響を与えます。この光化学オキシダントが局所的に集中して、白くもやがかかったような状態になることがあり、これを光化学スモッグと呼んでいます。

浮遊粒子状物質(SPM:Suspended Particulate Matter)

空気中を漂う直径10μm(マイクロメートル)以下の粒子のことで、主なものに砂ぼこりや工場から排出されるばいじん等があり、最近ではディーゼル自動車の排ガスに含まれる黒鉛、硫黄酸化物等がぜんそくの原因になっているといわれています。

一酸化炭素(CO)

不完全燃焼の際、発生する無色無臭の気体で、肺に吸い込まれると血液中のヘモグロビンと結合し、酸素の供給を阻害します。

等価騒音レベル(Leq)

等価騒音レベルは、一定時間内に測定した騒音をエネルギー量として平均した値であり、より現実的な評価手法として国際的にも採用されている新しい指標です。一般環境基準や道路に面する地域の環境基準については、従来、中央値(L50)で評価していましたが、現在は等価騒音レベル(Leq)に変更されています。

ダイオキシン類

塩素を含む有機化合物のうち、ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン(PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)及びコプラナーPCBを総称してダイオキシン類といいます。物質の燃焼時に発生し、人工物質としては最も強い毒性をもつ物質といわれています。

ポリ塩化ビフェニル(PCB:Polychlorinated Biphenyl)

熱安定性、電気絶縁性に優れ、トランス、コンデンサー、熱媒体、ノーカーボン紙、インキ等に用いられていましたが、PCBは難分解性で生体に蓄積するため、昭和45年の「カネミ油症事件」の原因物質と確定されました。現在、PCBの製造・輸入は原則的に禁止され、事業者の保管するPCBの廃棄処理が決められています。

用語の解説

単位

ppm(ピー・ピー・エム)

100 万分率のことで、ある量が 100 万分のいくつかであるかを表す単位です。

ppmC(ピー・ピー・エム・シー)

炭化水素の濃度をメタンに換算した単位です。

mg(ミリグラム)

重さの単位で、1,000 分の 1 グラムを表します。

μ g(マイクログラム)

重さの単位で、100 万分の 1 グラムを表します。

ng(ナノグラム)

重さの単位で、10 億分の 1 グラムを表します。

pg(ピコグラム)

重さの単位で、1 兆分の 1 グラムを表します。

M(メガ)

100 万倍を表す単位です。

G(ギガ)

10 億倍を表す単位です。

T(テラ)

1 兆倍を表す単位です。

dB(デシベル)

音圧や音の強さを表す単位です。

【参考】騒音の大きさ

騒音レベル	大きさの例
120dB	ジェット機のエンジン付近、ロックバンド演奏(3m)
110	自動車のクラクション(2m)、リベット打ち
100	電車のガード下、オーケストラ演奏
90	地下鉄内、騒々しい工場内
80	電車の車内
70	電話のベル、騒々しい事務所内
60	日常の会話、静かな自動車内
50	静かな事務所内
40	図書館、郊外の夜間
30	ささやき声

郡山の環境守り隊 チーム環太郎



エコ助

空も飛べる環太郎の
よきパートナー。



スーパー環太郎

郡山の環境を守るために集まった
「チーム環太郎」のリーダー。



ヒロ君

市内を走り回っている。
ケンちゃんの助手。



リサイクルえみちゃん

リサイクルが大好き。
えみちゃんの知恵袋は
アイデアいっぱい。



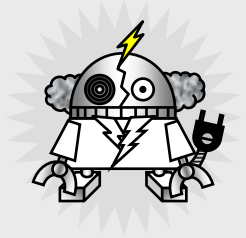
ドクターケンちゃん

環太郎の生みの親。
チームの頭脳。



タケちゃん

環境の勉強を始めたばかり
だけど、やる気満々。



ドクターCO2

環境破壊の帝王。
口ぐせは「ギロギロロー」



メタンちゃん

ドクターCO2の助手。
ボイ捨て大好き。



よし君

謎のスーパー環太郎応援団長。
団員はまだ一人。
みんなの入団待ってるよ！

平成26年度版 郡山市の環境

平成27年3月

発行：郡山市 生活環境部 生活環境課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目23番7号

TEL：024-924-2731 FAX：024-935-6790

E-mail：seikatukankyous@city.koriyama.fukushima.jp

URL：<http://www.city.koriyama.fukushima.jp/>

印刷：郡山市総務部総務法務課

楽都
—— 東北のウィーン ——
郡山